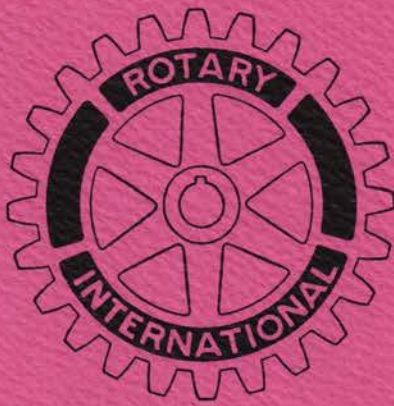


1991~1992年度

海外研修報告

インターアクト年次大会報告



国際ロータリー第2660地区インターアクト

ホストクラブ 四天王寺学園インターアクトクラブ

スポンサークラブ 大阪阪南ロータリークラブ



海外研修報告

—シンガポール—

1991年

8月23日(金)~8月27日(火)

R. I. 2660-CHIKU
INTERACT
KAIGAI KENSHU TOUR

- IN SINGAPORE -



海外研修報告

R. I. 第2660地区インターアクト委員会

委員長 和田 健

今年度も昨年度に引き続き、現地インターアクター（以下アクターといひます）との交流を必須の条件として、行き先を検討致しました。思いもよらぬ湾岸戦争の勃発で、一時は実施を断念したのですが、幸い短期間で平和が戻り、例年通り実施することが出来ました。

今年度の研修計画で第一に考えたのは、研修の成果を直接インターアクト活動に還元出来るような交流がしたいということでした。両国のアクターが個人的に親しくなることや、研修に参加したアクターの持ち帰る楽しい思い出も、将来のインターアクト活動のどこかで役立つことは、間違いないのですが、両国のインターアクト活動の現状と問題点について話し合うことこそインターアクトの海外研修でなければ出来ない交流だとの結論を得、企画したのが第3日目のフォーラムでした。当日、私はロータリアンのテーブルでインターアクト活動の費用の負担、捻出方法について質問し、有意義な時間を過ごすことが出来ました。各テーブルも同様であったと報告を受けています。

もう一つ今年度の研修が例年と異なったことは、小グループによる自由行動を大幅に取り入れたことでした。第2日目のセントーサ島では、日本側4・シンガポール側2のグループで、第3日目のシンガポール散策では、学校単位にシンガポール側が適宜付くグループで、時間の制約はあるものの自由行動を認めました。これは昨年度の香港研修でのアクター達の自覚した行動を見て、先生方をお願いしたものでした。学校の旅行ではとても認められないことに同意戴き、実行を支えて戴いた先生方の勇気に敬意を表します。そして、今年のアクターも期待に応えてくれました。

研修の詳細は、別稿に譲り述べませんが、チャンギ空港での別れの情景は、私に研修の成功を確信させました。そして成功は、シンガポール（R. I. 第3310地区）のロータリアン、特に同地区青少年委員長 PP Jeffrey Po、インターアクト委員長 Kenny Ongのご尽力に負うところ大であり、我々と両氏の交渉の仲介を勤めて下さったシンガポール在住の城山奈美さん（当委員会前委員長飯原弘章氏 - (大阪住吉R. C.) - のお嬢さんです）に誌面を借りてお礼申し上げます。

なお、交流に参加された第3310地区のインターアクトクラブと提唱R. C. を深謝を込めてご紹介させていただきます。

1. Anderson Junior College - R. C. of Singapore
2. Bukit Batok Secondary School - R. C. of Serangoon Garden
3. Catholic Junior College - R. C. of Singapore
4. Outram Institute - R. C. of Garden City
5. Queenstown Sec' Tech School - R. C. of Singapore West
6. Serangoon Junior College - R. C. of Singapore

無事、所期の目的を果たせた海外研修にあたり、至らぬ私のために親身のご指導を賜り、実行の心強い後盾になって戴いた、菅生ガバナー、戸田パストガバナー、地区インターアクト委員の皆さん並びに今年度ホストの大阪阪南R. C. の皆さん、そして献身的な奉仕で研修を成功させて下さった顧問先生方に心からの感謝を捧げます。

R. I. 第2660地区 インターアクト海外研修参加者名簿

顧問・ロータリアン 26名

No.	所 属	氏 名	No.	所 属	氏 名
1	四天王寺学園	田中真康	14	金光八尾高校	中林眞佐男
2	"	澤田玲子	15	"	千葉佳永子
3	大阪桐蔭高校	河津浩司	16	"	佐藤弘之
4	"	仲谷浩一	17	住吉ロータリークラブ	飯原弘章
5	浪速高校	本間靖彦	18	南西ロータリークラブ	乾繁夫
6	大阪市立東高校	寛座純一	19	城南ロータリークラブ	岡部州雅
7	大谷高校	藤原謙次	20	南西ロータリークラブ	立石八郎
8	清風学園	宮崎紀元	21	大東ロータリークラブ	松本雅晴
9	明浄学院高校	山川勝昭	22	大阪阪南ロータリークラブ	阿部文彦
10	"	大淵義敬	23	"	新越田貴一
11	大教大付属高校平野	白木成治	24	"	越田英喜
12	"	中村彰男	25	"	吉田洋
13	金光八尾高校	若林正信	26	"	和田健

生徒 77名

No.	所 属	氏 名	No.	所 属	氏 名
1	四天王寺学園	瀬戸里絵子	40	清風学園	仲眞達人
2	"	満谷和代	41	"	田方博志
3	"	三谷純子	42	"	前田武志
4	"	大杉真有美	43	"	原慎太郎
5	"	川上敦子	44	"	東郷輝光
6	"	羽柴菜津子	45	"	平野智志
7	"	早石祥子	46	"	福中大树
8	"	長谷川由佳	47	明浄学院高等学校	樽居幸枝
9	大阪桐蔭高校	笠松昌司	48	"	岩井規容子
10	"	奥山進史	49	"	上田亜以子
11	"	岡野俊一郎	50	"	森島泰子
12	"	松本慎一郎	51	"	田中智美
13	"	福本一仁	52	"	杉村和子
14	"	福島壮博	53	"	沢千秋
15	"	吉田和晃	54	"	陸岡亜希子
16	"	中野貴博	55	"	平床直美
17	"	三谷健	56	"	豊島彩乃
18	"	竹内聡貴	57	大教大付属高校平野	中野恭秀
19	"	小林将大	58	"	森山泰成
20	"	橋本直樹	59	"	内山はる奈
21	"	前田道広	60	"	植田真由子
22	"	南部頼孝	61	"	西浦香保理
23	浪速高校	曾々木良尚	62	"	井上智香子
24	"	岡田卓也	63	"	笠野智代実
25	"	尾郷建太郎	64	金光八尾高校	三浦教子
26	"	土居司郎	65	"	藤縄文子
27	"	藤井隆志	66	"	西垣知美
28	"	村口英彦	67	"	西川麗子
29	大阪市立東高校	藤澤めぐみ	68	"	廣岡由希子
30	"	西岡真弓	69	"	近藤清志
31	"	増田裕美	70	"	山本昌宏
32	"	鳥居真琴	71	"	兼田奈々
33	"	小宮山亮	72	"	津田麻里亜
34	"	藪田幸一	73	"	中山愛子
35	大谷高校	喜田理恵	74	"	源野真美子
36	"	竹野文江	75	"	浦浦綾子
37	"	富田昌子	76	"	岡田省三
38	"	南田明葉	77	"	吉村加季代
39	"	岡野光津子			

添乗員 J. T. B. 堀内克己・加藤 淳

旅 程 表

日次	月日(曜)	発着／滞在地名	発着 現地時間	交通機関	摘 要	食事
①	8/23 (金)	大 阪 発 シンガポール着	12:30 17:35	S Q 085	空路、シンガポールへ 着後：マーライオンを見てホテルへ (シンガポール泊)	機 夕
②	8/24 (土)	シンガポール			午前：日本人墓地献花 植物園 午後：セントーサ島フリータイム (シンガポール泊)	朝 昼 夕
③	8/25 (日)	シンガポール			午前：現地青少年との交流会 午後：社会奉仕 老人ホーム訪問 孤児院訪問 (シンガポール泊)	朝 昼 夕
④	8/26 (月)	シンガポール			午前：ジュロンバードパーク クロコダイルパラダイス ハイパービラ、インド人街 アラブ人街等 夕刻：空港へ (機中泊)	朝 昼 夕
⑤	8/27 (火)	シンガポール発 大 阪 着	01:05 08:05	S Q 086	空路、帰国の途に	機

宿 泊 ホ テ ル

◇シンガポール 8月23日(金)～8月26日(月) 3泊
 NOVOTEL ORCHID SINGAPORE
 ノホテル オーキッド シンガポール
 住所：214 Donearn Road, Singapore 1129
 ☎ : 001-65-2503322

旅程

【第1日目】

結団式

出発

マーライオンパーク

結団式挨拶

R. I. 第2660地区インターアクト委員長
和田 健

皆さん、おはようございます。海外研修の出発にあたり一言申し述べます。

インターアクトの海外研修の目的は、国際理解の増進にあります。理解の第一歩はまず相手を知ることです。この点で現地へ行ってみるだけでも価値がありますが、そこに住む人々とのふれあい—共に語り、共に遊び、共に食事をする—は、お互いの理解を深めることでしょう。世界中の人々が、家族のように理解しあえたら、今も世界各地で起こっている悲惨な争いを減らすことができると確信します。

争いといえば、今回の目的地シンガポールは第2次大戦中、日本軍が進駐し、現地の人々に多大な迷惑をかけたところです。日本軍に虐殺された大勢の人々を祭る慰霊碑もあります。

私や皆さんの世代がしたことではありませんし、現在、現地に露骨な反日感情があるということでもありませんが、過去のそうした歴史を胸において、ひんしゅくを買うことのないよう言動に注意して下さい。

旅行中はくれぐれも自分の体調に注意し、全員元気で研修の成果を挙げて帰れるように希望して挨拶を終わります。

R. I. 第2660地区インターアクト代表
四天王寺学園 満谷和代

私達R. I. 第2660地区インターアクト77名は、これからシンガポールへ研修旅行に参ります。その間、現地インターアクトとの2日間にわたる交流や施設訪問などを通じて、国際理解を深め、奉仕の精神を養い、その目的とする所をしっかりと研修して来たいと思っています。

私達にこのような機会を与えてくださったロータリアンの方々や皆様に深く感謝致します。どうもありがとうございました。



「空港で」

大阪桐蔭高校 小林 将大

8月23日は待ちに待った、シンガポールへの4泊5日の研修旅行の日だ。この4泊5日のうち1泊は飛行機の中で過ごすので、正確にシンガポールのホテルへ泊まるのは3日なのである。空港バスで大阪空港に着き、初めての感想は漠然となるが、とても広いということだ。空港内には、たくさんのみやげ屋、いわゆる免税店が並んでおり、宝石店や時計店、美容室まであった。

その後、荷物を運んでもらい、出発前に、各校の紹介やロータリーの方々の紹介などをし、出国手続きをうけて、いよいよ飛行機に乗る。シンガポールとはどんな国なのだろう、どんな人たちがいるのだろうか、楽しい旅となるだろうか、ということを考えながら、初めて乗る飛行機に「落ちるのじゃないだろうな」と不安を感じながらシンガポールへと向かった。約6時間、日本時間の5時30分にシンガポールのチャンギー空港に到着した。シンガポール時間では4時30分だ。そう、日本とシンガポールとの時差は約1時間なのだ。この空港へついて驚いたことは、現地の警察官がおおっぴらに銃を身につけていたことだ。シンガポールは、治安が悪いのかと思ったが、現地のインターアクトの人たちの案内で、街を観光したが、安全でとてもよい国だということがわかった。絶対、また行きたいと思う。



『マーライオン』を見て

金光八尾高校 西垣 知美

私達第2660地区のインターアクターは、8月23日シンガポールに着いたあと、まず初めの目的地である“マーライオン公園”へ向かうためバスに乗りこんだ。バスの中では、これから見学するマーライオンについての話をバスガイドさんは必死に説明されたが、みんなが集中するのは窓の外の景色ばかり—それもそうであろう。シンガポールに着いたばかりで、これからの旅行のことを考えると、そわそわするのは無理もない。それに、たくさんある研修の一つで、また、トップバッターということもあるのだろう。けれども、人の話をきちんと聞くことは大切なことである。それはじゅうじゅう分かっているのだが気持ちがかなり飛んでいた。「バスガイドさんには悪いな」と思いながらも、私も心の中でマーライオンというものはよく見たいと期待していた。それをバックに記念撮影をしようと考えていたのだ。

そういえば、私達金光八尾インターアクトクラブの者は、この海外研修に参加する前に事前研修を行い、その時ちょうど、マーライオンのことも調べた。マーライオンとは、シンガポール川がマリーナ湾に流れ込むところに立つ高さ8mの白い像。頭がライオンで下半身が魚のこの像は、スマトラの王子が新領土を求めてこの島に降り立った時に見たという、白いたてがみをもった動物にちなんで作られた。この獅子（シンガ）に似た動物からこの島はシンガ・プーラ（獅子の都）と呼ばれるようになったという。いわば“シンガポールのシンボル”とも言える像だそうだ。

マーライオンについて調べたことを振り返って考えているうちに、やっとのことで目的地に着いた。私達が降り立ったのは、あまり大きくない公園。さほどの遠い距離ではないが、海の向こうにあのマーライオンが見えた。しかし、想像していたより小さくて、かんろくがなく、はっきり言って残念だった。大きさは8mぐらいとあったのに、私のマーライオンに対する期待が大きすぎたからかもしれ

ない。夕方から夜になると目が光ると本で読んでいたので、「かっこいいのかな」と思っていた。私達が見た時は、まだ辺りの景色があかるく、闇の中に浮かびあがるマーライオンを見ることができなかったのが残念だった。また、そんな闇の中のマーライオンを見ると考えが変わったのかもしれないし、もっと近くで見ることができたなら感想も変わっていたのかもしれない。私だけでなく周りの友達もマーライオンにはがっかりした様子だった。悪く言うつもりは甚だないが、獅子の都のシンボルということであるのだから、もっとかんろくがほしかった。

マーライオンをバックにして記念写真という夢はこわれはて、海をバックにとるはめになった。一目見た瞬間の海はきれいだったが、堤防のすぐそばはゴミで一杯だった。話に聞いていた通り、街路は殆どゴミも落ちていなくきれいだったのに、あれだけぶかぶか浮かんでいるといい気はしなかった。それでも、日本よりはだんぜんましであったが、ゴミについての問題もふと考えさせられた。とにかくマーライオンは観光の思い出の一つとして、明日からの4日間の活動に期待したいと思った一時であった。



「マーライオン」

明浄学院 沢 千秋

私達が、シンガポールに着いて、一番初めに訪れたのが、マーライオンパークであった。マーライオンは、御存知のとおり、シンガポールのシンボル(象徴)である。なぜ、シンボルになったのか、バスガイドさんと、現地インターアクターの話によると、昔、スマトラ王が、新しい領地を求めていると、今のシンガポールにたどり着き、そこにライオンに似た不思議な動物がいた。王様は、この動物に強い印象を与えられ、国のシンボルとした。この動物こそが、マーライオンである。それに“シンガポール”はマレー語で、英語に訳すと“ライオンシティ”という意味になるそうだ。

私は、マーライオンとは、どんなものなのか、期待で胸をいっぱいにしていて、私が見たところから、マーライオンまでの距離が離れすぎているのか、期待にそわず、あまりにも小さすぎて少しがっかりした。実際の高さは8mで、建物に例えると3階くらいだそうだ。明るい時に見た、マーライオンは小さく、がっかりしたが、陽が落ち、暗くなって、バスから見た時は、足元と目から光が放たれていて、とてもきれいだった。

最後に私は、これから何かシンボルのような有名な物を見る時、あまり期待をしないようにしようと、マーライオンを見て思った。

「出発当日」

明浄学院 豊島彩乃

8月23日、いよいよ、出発の日がやって来た。いつもなら、人に言われないと起きない私だが、この日だけは、朝早くから目が覚めた。

楽しみという感情とともに、不安さも増してきた。私にとって、飛行機に乗ったり、海外旅行に行ったりすること等、全てが初めての事だったからだ。現地で、1人はぐれてしまったらどうしようなど、いろいろな不安が頭をよぎった。でも、空港に着き、友達と喋っているうちに、そんな事は頭から消え、私の中には楽しみだけが残った。

結団式が終わり、飛行機に乗った。離陸する時のあの感覚は、今でもはっきりと覚えている。そして機内から見える景色は、私を友達と喋る事も忘れさせ、何分かの間、私の目を釘付けにした。地上何万メートルという高さから見る景色は、あまりにも小さく、そして綺麗だった。飛行機の中では、喋ったり、食事をしたりして、あっという間に時間が過ぎた。

夕方、いよいよシンガポールに着いた。空港からは、他の学校と合流し、バスに乗り、その日は、マーライオンを見に行った。そこではマーライオンをバックに、たくさんの写真を撮った。それから市内レストランで夕食を食べた。おいしいと言いながら食べている人もいれば、疲れたせいか、あまり食べなかった人もいたが、みんな楽しそうだった。



「日本からシンガポールへ」

明浄学院 平床直美

私はこの旅行をずっと前から楽しみにしていました。それなのに、荷物がちゃんと用意できたのは前日の夜中でした。浴衣の帯やゲタが場所をとって他の物がなかなか入りませんでした。そんなだったのでちょっと寝不足でした。我が家とも少しの間お別れ。そして大阪空港へ行くために電車に乗りました。スーツケースを持っているだけでもみんなの注目をあびました。電車の中で友達にもあい、大分恥ずかしかったけれど心の中ではちょっと自慢するみたいなものがありました。天王寺で学校の先輩たちと集まり大阪空港へ行きました。私は空港に行くのも初めてだったし、もちろん飛行機なんか乗ったこともありません。乗ったことのある友達がジェットコースターみたいと言っていたのでどんなのかと思いい心の中でワクワクしていました。それから荷物の検査みたいなものをして、飛行機に乗るまでいろいろしました。結団式があったり、そしていよいよ飛行機に乗れます。中に入ると想像していたのとは大分ちがいました。中はすごく広くてきれいでした。スチュワーデスが席に案内してくれました。スチュワーデスは外人でした。でも日本語で話しかけてくれてたすかりました。飛行機が動きだしてしばらくたって機内食がでてきました。けっこうおいしかった。そしてとなりに座っていらっしゃる先生と話をしていると、あっという間にシンガポールに着きました。景色は日本と似ていたので少しがっかりしました。とにかく無事にシンガポールに着けてホットしました。



「シンガポールに着いて」

四天王寺学園 川上 敦子

8月23日午前12時30分。私は母に見送られてシンガポールへ旅立ちました。今まで海外へは家族としか行ったことのない私にとって今年のインターアクト部の旅行は期待と不安でいっぱいでした。飛行機に乗って5時間。長いようで短かった。だんだん窓の下の風景が海から島や木に変わってくるのに胸を弾ませていました。でも、なにが分かりませんがシンガポールに来たんだという実感がわきませんでした。とうとう着きました。シンガポール空港へ。

まず驚いたのは大阪の空港に比べても美しいことです。そして迎えるバスに乗り込みました。そして行き先は「マーライオン」を見に行きました。バスガイドのおじさんは、日本語を上手に話していました。窓の外に目をやるととても緑が多くてそしてビルや建物の高いことにも驚いてしまいました。バスから降りるとやっと少しずつシンガポールに来たんだと実感がわきました。もっと近くからマーライオンを見学できると思っていたのに案外遠くて残念でした。ライトで照らされたマーライオンはとってもきれいでした。そして写真を撮りバスに乗って夕食を食べにレストランへ行きました。中華料理でした。甘いのか辛いのか味はいろいろでした。その夜はホテルへ行き、旅の疲れがでてしまっすぐ寝てしまいました。

残りの2日はとても楽しくなりそうな気がしてきました。



「第1日目」

大阪市立東高校 鳥居 真琴

生まれて初めての海外旅行に胸をふくらませ、朝、大阪空港で集合時間を待った。集合時間は10時、今は9時ちょっと過ぎ、少し早すぎたかなと思いながら、回りを見渡すと、制服姿の人が2、3人見受けられたので安心した。時間がたつにつれてだんだん人が増え45分にはもうほとんどの人が集まったので、それから「星の間」で結団式が行われた。それが終わるといよいよ飛行機に搭乗、直行便で約5～6時間の空の旅だった。飛行機の中ではあまりの時間の長さは何をしても少し退屈だった。そしてようやくシンガポールのチャンギ空港に着いた。

シンガポールに着いての第一印象は、日本とあまりかわらなかったということで、温度的には大阪と変わらず、ただ、シンガポールの方が大阪に比べると空気が乾いているように思えた。そして回りの車を見ると大半が日本車だった。次に印象を受けたことは、緑がたいへん多かったことで市内に入るまでのバスから見た景色は、道路ぞいに並ぶフェニックスと緑がとてもきれいな芝生だった。そして市内に入り、バスは一路マーライオンを見に行った。マーライオンは、思った程大きくなく、夕方だったせいかあまり美しく見えなかった。そこで写真を撮り、バスへ戻り次にバスが行ったのは、今日の夕食の四川料理の店だった。店に入り、料理が次々と来る。どれも全体的に少し辛かったがけっこう美味しかった。そして21時30分ようやくホテルに着き部屋わけをし、それから荷物の整理をしたり風呂に入ったりしながらベッドに入り、次の日の交流会の事を考えながら第1日目は過ぎて行き、本当に今日は何事もなくいい日だったなと思った。



【第2日目】

日本人墓地献花
植物園
セントーサ島

「ヨギと会えて良かった」

明浄学院 上田 亜以子

私は今回で2度目の海外研修となりました。前回の香港では、現地のインターアクターとは老人ホーム・孤児院訪問とファイナルパーティとの短い時間しかいっしょにすることができませんでした。だけれど今回の旅行では半日以上もいっしょに行動をすることができました。いっしょに行動している中では、現地のインターアクターはほとんどが同じ年令なのにとても大人っぽく、しっかりしていたのでびっくりしました。特に現地のインターアクトの代表ということもあってヨギはすばらしく、しっかりした人でした。他のインターアクターの人たちもとてもすばらしい人ばかりだったけれど、私はヨギといたのが長い時間だったからだと思います。どんな時でも笑顔で接してくれました。だから私達も英語が話せなくても楽しく過ごすことができました。私達はどこへ行くにもぞろぞろついていだけでヨギ達にはなにもすることが出来なかったのが残念に思います。

ヨギからのどんな質問にも「Yes」ばかりで軽い返事しかできなかったし、したい質問もあまりできなかったのが残念でした。もっと英語が話したかったです。これは去年でも私の課題となっていました。来年はぜひもっと話せるようになっていたいと思います。といっても私は今回の研修が最後だったので必要のないものとなりました。その最後の研修でいろいろな思い出がともうれしかったです。本当にヨギやカイホウ達のおかげだと思います。彼女たちと別れるのは本当につらかったけれど、私がおっと英語が話せる様になったらまたシンガポールへ行ってヨギとおっと話をしたいです。



「日本人墓地にて」

清風学園 東郷 輝光

バスに乗り日本人墓地に行く途中、私は緊張しつつ追悼の言葉を練習していました。なぜなら、私の言葉には生前の御功績に対し深い敬意をあらわし、という文句があったので先生がその文句について修正してください、私はそれを練習していたからです。私は日本人墓地なので墓地に眠る日本人の人々を尊敬し、誇りに思うことがどうしていけないのだろうかと思いました。墓地に行き、日本とシンガポールとの忌しい戦争のこと、シンガポールの中の日本人墓地という社会的な位置づけのことを、考慮にいれなければならないことはもっともであり、当然のことと思いました。私が読む前に先生から唐行さんのことをおそわりました。九州地方の貧しい家から売られて来たという悲しい事実、墓は日本に向かず日本に背を向けているというわびしい事実を一つ一つ知るにつれて、唐行さんの異郷の地での様々な苦しみを、もう二度と繰り返してはいけなと痛感しました。ついに、私の出番が来ました。緊張し、鼓動がどんどん速くなり、頭の中では「ゆっくり、ゆっくり」という文字だけが駆け巡っている。読みはじめる。まだ、緊張している。一度、深呼吸をし、上を向いた。きれいで色鮮やかな花々、線香の独特でありながら気持ちを落ち着かせる香り、後からのみんなの「がんばれよ」という

掛け声の視線に助けられながら、やっこのことで読み上げました。読み終わり数珠を手に持ち心経読誦を始める。みんな時には何も考えず、時には戦争で亡くなった方、唐行さんのことを考えながら、一字一字を締めるように読経をしました。外に出て、あの「浮雲」の作家として有名な二葉亭四迷の墓があり、みんな自然とその墓の方に足が向き、拝み倒し、写真をとりました。みんなのこのような自然でさりげない行為は遠い異郷で亡くなられた方に対して御冥福を祈っていることを物語っていると思いました。歩いている途中に一人が、「草や木をだれかが刈っているな」と言いました。次々に「そうだな」という答えが返って来ました。これで、墓地に来て悩んでいた私の疑問が解けました。墓地の暗いイメージがなかったのは、だれかがそうじをしているからかと思うと共にそのだれかの心の中にある心やさしい気持ちでこの墓地は隅々まで満たされていると思うと心を打たれました。



「日本人墓地にて」

金光八尾高校 兼田 奈々

日本人墓地は、たくさんの悲劇が眠っている場所です。その中でも日本に背を向けて立っている「からゆきさん」のお墓が印象的でした。彼女たちは、「いい働き口がある」などとだまされて、そのまま船に乗せられて、シンガポールまで連れられてきました。その後は、娼館主に売られて、屈辱の日々を送りました。その土地の男の人と結婚できる人もいたのですが、ほとんどの人たちが、娼館主から逃れることができません。なぜなら娼館主が、女術に渡したお金を郷里の貧しい父母に送るためのお金でどんどん利子をつけられていつまでたっても元金が減らない仕組みになっているからです。彼女たちが稼いだお金は、ほとんど娼館主たちにとられてしまいました。

からゆきさんについて私は帰国して、少し調べてみました。他に個人的な体験ものも読みましたが、哀れという言葉ではいいつくせない気持ちになりました。現地では、通り一片のかわいそうというような気持ちで手を合わせましたが、あの時よりも少し知識を持った今は、早く知っておけばと後悔しています。

なぜ彼女たちは、日本に背を向けていたのでしょうか。日本に対して申しわけない気持ちがそうさせるのでしょうか。いいえ、きっと彼女たちは日本を憎んでいたのです。彼女たちの家の貧しさと差別される性である故に日本社会から弾きだされたからです。

今日でも、経済大国の日本の男性が、東南アジアの諸国で現地の女性にお金を払って同じことをしていることが、とても恥ずかしく思います。



「植物園」

大阪桐蔭高校 笠松昌司

植物園を訪れたのは2日目でした。今まで自分が行った植物園の中で最も大きかったと思われる花の万国博覧会を思い出しました。自分たちが清掃活動をした花博では、ゴミだらけだったことに比べて、シンガポールの植物園はさすがにきれいでした。日本の花博会場では、たくさんゴミがちらばっていて、「自分一人ぐらい捨てたって」という気持ちになると思うのですが、シンガポールの植物園は、もともときれいなので、ゴミを捨てるということに対しての罪悪感が、日本より強く感じとられるのではないかなと思いました。植物園の規模の上では日本の花博がうまわわっていると思いますが、清潔感ではシンガポールが勝っていると思いました。

それからあと一、二点自分の気がついたことを書きます。まず植物園の周りにフェンスなどの囲いがなかったということ。そしてもう一つは、蚊やハエを1匹も目にしなかったということです。まず囲いについて自分が思ったことは、誰でも自由に入れる植物園が日本には少ないと感じました。それから蚊やハエについては、大量の消毒をしているらしくて、そのような所に国のお金が使われているなんて、すごいなあと思いました。このように、植物園のことだけに関してでも、シンガポールは、自分たちを色々と驚かせてくれました。



「植物園の花々」

金光八尾高校 浦野綾子

8月23日、シンガポールに到着し、すぐにマーライオンを見て、夕食を食べました。その後ホテルにチェックインをしました。そのとき現地のインターアクターの代表の人たちがシンガポールの国花である色とりどりのランの花をみんなにくばり、歓迎してくれました。

次の24日は晴天に恵まれ、私達は植物園に行きました。ここでもやはり至る所に、南国の花があり、木におおわれていました。“植物園”ではなく、どこかの“森の中”を歩いているような気分になったほどです。ここには日本で見たことのない花がたくさんあり、色がとても鮮やかでした。

この植物園の中にあつたお土産屋では、ランの花に金をかぶせ、それをブローチやペンダントに加工して売られていました。店でこれらを売っている人は、もちろんシンガポリアン、つまり現地の人ですが、私達には、日本語で、「安いよ！買ってよ！」とくり返し、くり返し言っていました。

店を出てみると、友達や先生が二人の外国人と何か話しておられるのに出くわしました。そこでは一緒に写真を撮り、住所録の交換をしました。二人のうち一人は、以前インターアクトクラブに所属していたそうで、私達もインターアクターだということを知り大変喜んでおられました。

植物園での花を日本に持って帰りたいぐらいでしたが、当然それは出来ないで、友達同士集まって花の前で記念写真におさめました。ずっとこのきれいな花のところにいたかったけど、バスの時間もあるのでしぶしぶ植物園を後にしました。

シンガポールは美しい所なので、植物園も花もより美しく感じました。機会があれば絶対にもう一度行きたいと思います。



「セントーサ島」

明浄学院 杉村和子

私達が初めて現地のインターアクターと出会ったのは、2日目セントーサ島行きの船乗り場でした。島に着き、初めに訪れた所は、バタフライパークでした。日本とは違い蝶が放し飼いにしており、人面ゴキブリが印象的でした。次に戦争資料館に連れてってもらいました。現地のインターアクターが、英語で分かりやすく説明してくれました。戦争の生々しさを実感しました。その後、海岸へ行きました。そこで私達全員で、『幸せなら手をたたこう』を海をながめながら英語で合唱し、その時の感激は何ともいえず、今も心の中で響いています。それに、海岸で私達日本のインターアクターと現地のインターアクターとで、行ったゲームは、私達の英語力のなさで、説明を理解できず、ショックでした。でも、ゲームの方法が分かった時は、とてもうれしく感動しました。その後、ファウンテンショーを見るつもりでしたが、見れず残念でした。そして夕食のハンバーガーとジュースは、もう少しほしかったです。頼りない英語で、無事過ごせるか心配だったけれど、すごく楽しく、友情に言葉は関係ないなあと思いました。

SENTOSA
SINGAPORE'S ENTERTAINMENT ISLAND

「セントーサ島での出来事」

清風学園 田方 和博

第2日目の午後、セントーサ島に向かうフェリー乗り場で急に現地のインターアクターに声をかけられ驚いてしまった。こんな所で交流するとは聞いていず、心の準備ができていなかったからだ。狼狽状態のまま現地インターアクターに連れられてセントーサ島に到着した。途中で何度か話しかけられたが、何を言っているのかわからず笑顔でイエス、イエスとしか言えなかった自分が少しみっともないような気がした。

僕達が最初に連れて行ってもらったのは昆虫館だった。ここでは何ともいっても2500匹もの蝶が放し飼いにされ、目の前を飛んでいく光景すばらしかった。次に行ったのは、蠟人形の館だった。この館の中にあつた人形や写真などは全て戦争の悲惨さを訴え、二度と同じ過ちを繰り返さないように忠告しているようだった。この2つを回ったところでビーチに連れていかれ、現地のインターアクターのパフォーマンスで楽しんだ。最初は照れていたものの、回を増すごとにこの遊びに溶け込んでいった日本のインターアクターの姿がとても印象的だった。

日が沈んだ頃に夕食が配られ噴水を見に行つた。ここでは時間がなかったらしくほとんどみれなくて残念だった。この後現地のインターアクターと別れ帰途についたが、この日に、この島で、生まれて初めて外国人と交流し言葉を交わしたことが、この研修旅行の中で最も心に深く刻みこまれた出来事だった。



entertainment tax exempted

Admission to Sentosa, pioneers of Singapore and surrender chambers, coralarium, for those swimming lagoon, beaches, nature walk, scheduled musical fountain show and bus for ferry, Monsoon and bus

Valid date:

339797

「セントーサ島での思い出」

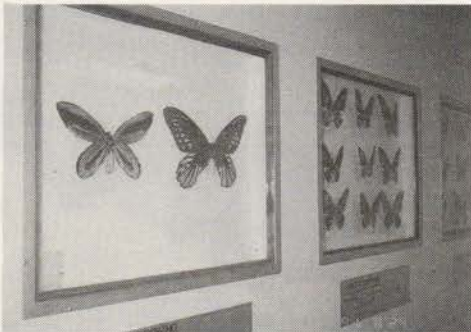
大阪教育大学付属高校 平野校舎
中野 恭秀

8月24日。この日は暑かった。予定よりかなり遅れて昼食をとった。後からレストランに入った何人かはしばらく席がなく、とてもむごかった。

当然、ワールドトレードセンターで現地のインターアクターと合流するのも遅れた。さらに前日発表された班と、多少の狂いがあって、混乱もしたのだが、とにかく自由行動が始まった。モノレールで島めぐりをしたわけだが、このモノレールを待つ時間がけっこう長い。その間を利用して、現地のインターアクターと交流を深めた人もいたようだ。

そんなに広い島ではないので、行くところも限られており、例えばバタフライパークやパイオニア・噴水などを皆見学したようだった。

全員がそうだとは言わないが、現地のインターアクターは案内する時以外はあまり積極的に話してこなかったと思う。そして日本のインターアクターも、一部の人だけが現地のインターアクターに話しかけて、結局ほとんど日本人としかしゃべらなかつた人もいるのではないだろうか。こういう機会なんだからできるだけ積極的になったほうが絶対得だと思う。えらそうなことを言ってしまったが、集合場所であったビーチを去り、ケーブルカーでとうとうセントーサ島をあとにし、とにかく今日のメインは終了したのである。皆、それぞれが現地のインターアクターを通じて貴重な体験ができたことだろう。楽しい1日であった。



「セントーサ島での一日…」

大阪桐蔭高校 前田 道広

今回の研修のメインであるセントーサ島での国際交流について報告します。私達は現地のインターアクターとともに、蝶の館やロウ人形の館などを見学しました。蝶の館では、数えられない程の蝶や昆虫の標本や実際に生きている蝶を見ました。そして、ロウ人形の館では、本物そっくりの人形が沢山ありました。その中に「降伏の間」という場面がありそこには昔、日本がシンガポールで残虐な事を犯していたころの軍の代表であった「山下」や「東条」の人形を見て、説明を聞いていると何か悲しくなりました。それから、みんなで砂浜に行き楽しくゲームをして遊びました。夕方になり、ハンバーガーとジュースを片手に噴水のショーを見ました。そこで一番印象に残ったのは、初めて聞くシンガポールの国歌でした。それはとてもリズムカルで、華やかなものでした。ショーが終わり、モノレールに乗り、ケーブルカー乗り場まで行きました。そこに着くまでの間、私達の目の前を通り過ぎる夜景は「百万ドル」とは言えないものの、「十万ドルの夜景」と呼ぶにふさわしいものでした。話によると現地のインターアクターでも、あまり夜は訪れないそうです。それは夜になるとセントーサ島はアベックでいっぱいになるからだそうです。言われてみると確かに多かったです。セントーサ島を離れる時は、ケーブルカーに乗りました。ケーブルカーの下に広がるネオンサインは、まさにこれぞ「百万ドルの夜景」と呼べる程、美しいものでした。

「セントーサ島での交流会」

大谷高校 富田 昌子

2日目の午後、私達は市内のレストランで昼食をとり、その後、バスでセントーサ島へ向かいました。そこで私達は、現地のインターアクターと初めて対面をしました。

彼等はすでにセントーサ島へ向かう船の出る船着場にて、私達を出迎えてくれました。私達は、相手がだれか知らされていなかったのもあって、彼等が自分達を捜し出してくれるのを友人と待っていました。その間、耳から入ってくる、彼等の早口の英語に、ただ圧倒され、不安でいっぱいでした。

島での自由行動の間の会話で、理解できたのはほんの少し。自分達の意志を伝えることは、もっと苦労しました。そして、先生と連絡を取るのに遅れてしまい「先生に悪いことをした」と友人達と話していました。

6時間に及ぶ交流会は、長いようで、いつのまにか終わっていました。逃げてばかりいなくてもっと勇気を出して、彼らと交流していればよかったと、今、感じています。

最後になりましたが、この得がたい体験をさせていただいた、ロータリーの方々や、各校の先生方ならば、両親に感謝いたします。

「セントーサ島での交流会」

大阪市立東高校 藪田 幸一

8月23日、僕達インターアクトクラブは、日本を出発してシンガポールの海外研修に行きました。僕は海外に行くのが初めてだったので大変緊張しました。

シンガポールに着いてまず驚いたことは町の美しさです。道にはほとんどゴミがなく、とてもきれいでした。なぜならこの国では、ゴミを捨てる罰金を取られるからです。日本もこのようにすればもっと町が美しくなるのではないかと思います。

僕がシンガポールに行く前に最も心配していたことは、現地の人たちとの交流会でした。特にセントーサ島での長い時間のフリータイムのことを心配していました。もし話が通じ

なかったらどうしようかと思っていたので事前に言葉を少し考えておきました。

翌日、とうとうその交流会の日がやってきました。フリータイムでは各グループごとに別れて行動しなければならなかったのも、同じグループの現地の人たちに自己紹介をしてからフェリーに乗ってセントーサ島に向かいました。

セントーサ島に着いて、まず最初に昆虫館に入りました。日本では見るのできない自然に生きる魅惑的な昆虫の世界を見ることができました。次に戦争記念館に入りました。そこには人間そっくりの等身大のろう人形がたくさんあり、今にも動き出しそうでした。そこでは、日本人がどのようなことをしてきたのか、またどのように思われてきたのかを知り、とても良い勉強になりました。

他にいろいろなところを見物したり写真撮影をして、最後に砂浜へ行きました。そこでは全員で、シンガポール独特のゲームをしました。みんなが同じことをし、いっしょに笑ったりしたので、とても楽しかったです。

ケーブルカーに乗ってセントーサ島から去るころにはもう暗くなっていました。そこから眺めたシンガポールの夜景はまるで夢でも見ているかのようにすばらしかったです。

日本に帰る時、現地の人たちが空港まで見送りに来てくれました。せっかく友達になれたのにお別れしたのは、とても悲しかったです。

少しの間だったけれども、たいへん良い思い出になりました。僕はこのすばらしい人たちとすばらしい国「シンガポール」を一生忘れないだろう。



「セントーサ島の友情」

金光八尾高校 藤 縄 文 子

はじめての現地のインターアクターとの対面。私にとっても、みんなにとっても、不安と期待の入り混じった瞬間だったことと思います。名前を呼ばれて右手を差し出された時には、言葉より先に笑顔と右手が出ていました。

セントーサ島では彼らの案内で、蝶の博物館や軍隊基地を再現した所等へ行き、本当に楽しむことができましたが、シンガポール博物館では必ずしも居心地の良いものとは言えませんでした。数十年前の旧日本軍の中国・アジアの人々に対する残虐行為が描写されている所では、自分がどのような顔をすればいいのかさえ分からなくなり、日本人であることがとても恥ずかしく思え、彼らの顔もまともに見れませんでした。海辺でのゲームや写真撮影は本当に楽しく、数時間前に初めて会ったなんて信じられない位に誰もがみんな仲良くなっていました。私にはそのことが本当にうれしく思えました。

日本へ帰って、またそれまでの生活に戻ろうとしていた頃にシンガポールから手紙が届きました。その中には「私は日本のインターアクターは義務でシンガポールへ来なければならないと思っていたし、友達になれるわけがないと思っていた。けれどもたった二、三日過ごしただけで、こんなに深い友情が生まれるなんて信じられなかった。必ず戻って来て下さい」と書いてありました。私はこの手紙を読んで何とも表現できない気持ちになりました。よく「言葉が通じなくても気持ちは通じる」と言いますが、私はこの研修でそのことを身をもって知ることが出来たような気がします。

チャンギー空港でのみんなの涙がどれだけ大切なものであったか、私はこれからの人生で忘れてはならないものだと思います。

SENTOSA ISLAND



「セントーサ島での思い出」

浪速高校 藤井隆志

2日目のセントーサ島の出来事が一番僕の頭に残っています。2日目の朝、セントーサ島着のフェリーでシンガポールのインターアクターと会いました。僕らの班は先輩の曾々木さんに対してのシンガポールのインターアクター1人と、僕と村口君に対してのインターアクター1人の計5人です。初めて、僕の班のインターアクターに会った時に、恥ずかしながらも自己紹介をして、プレゼントを渡しました。

フェリーがセントーサ島について、僕らはまずモノレールに乗って、昆虫の博物館に行きました。博物館で僕らは、二人とかたことの英語で話しながら、そこを見回りました。博物館から出た後、島内を散策して、記念写真をたくさん撮りました。

散策した後、またモノレールに乗って、海辺に行きました。そこで、シンガポールと日本のインターアクターが集まって、シンガポールの楽しい遊びを教わりました。

夕方、班ごとでハンバーガーを食べて、その後、僕と村口君と曾々木さんとで相談をして、世話になったからという事でご飯をおごろうと言う事になりました。でも二人にはうれしくなかったみたいで、どこかへ行ってしまうしました。すぐに許してくれたけど、なぜあの時に怒ったのか、今でも僕には理解できません。

僕がこの研修で感じた事は、自分の英語力の無さとシンガポールの人は積極的に優しくだったということです。

最後に、今回のような良い研修ができたのは、ロータリアンの方々と、各校の先生方のおかげと、深く感謝したいと思います。ありがとうございました。

「シンガポール恐怖の2日目」

四天王寺学園 三谷純子

モーニングコールと共にシンガポールの2日目が始まりました。一日中曇りという天気でしたが、雨は朝少し降っただけなのでよかったです。

午前中は、バスに乗りいろいろな所を観光しました。日本人墓地では第二次大戦で亡くなった人達や「からゆきさん」を葬ってありました。二葉亭四迷さんの碑があったのにはびっくりしました。植物園では日本では見られない美しい蘭がたくさん咲いていました。母へのお土産と思い、ただ写真を撮りました。マウント・フェーバーはシンガポール港をはじめ市内全景を見渡すことができ、とても美しかったです。是非この夜景を眺めたかったです。

景色もいいけれど、昼食の時間です。いやにお茶がおいしい飲茶料理を食べ、今回の旅行で一番待ちのぞんでいた一番恐怖の、現地のインターアクターとの交流の時がやってきました。私の書いた絵葉書を持った人が近づいて来ました。どんなふうにあいさつをしたかは忘れてしまいましたが、ただ緊張のためにこわばった笑顔をしていたのを、覚えています。モノレールに乗りバタフライパークやろう人形館を見ているうちに、あの奇妙な笑顔はなお日本語なまりの英語で一生懸命話していました。その時の言葉が通じたという喜びはとても大きなものでした。

いつのまにか私達は浜辺に来ていました。浜辺では日本のインターアクターと現地のインターアクターと一緒に、簡単なゲームをしました。簡単だといっても説明を理解するまでがとても苦労しました。その後みんなでハンバーガーを食べ、また明日とって別れました。

どうなるかと思っていた一日が終わりました。不安だったけど大成功という感じです。これもやさしい現地のインターアクター達のおかげだなと思いました。

「第2日目」

大阪桐蔭高校 吉田和晃
中野貴博
福島壮博

この日は、まず最初に日本人墓地公園へ行きました。そこでは、戦死者の他に、日本から売春婦としてやってきた唐行さんの墓や文学者の二葉亭四迷の墓があった。唐行さんは戦争中家が貧しく、売春婦として東南アジアの方に売られ、稼いだお金は日本に仕送りしていた。死ぬときわずかなお金しか残っていなかったのに、30センチ位の墓石が、ぽつんと立っており、海外でなくなった人々は、普通、墓の表を向けるのに、唐行さんののは裏を向けてあった。日本を恨んでいたのだった。なぜ、二葉亭四迷の墓がここにあるのだろうと不思議に思って、研修から帰国し、調べてみると、文学を途中で捨て、朝日新聞社に入社し特派員としてロシアに渡って、その帰国途中病気のためインド洋上で死んだので、二葉亭四迷の墓がここにあるとわかった。この墓地では、墓の維持費として、募金のお願いがしてあった。我が校インターアクトクラブではこのため募金活動をすることを決めた。

次に植物園に行った。そこでは、シンガポールの国の花や中曽根元首相がシンガポールを訪問したときに植樹された木、そして日本では決してみることのできない熱帯で育つ植物などの数多くの木があり、中には盆栽もあった。

午後から、今回の研修旅行でのメインである現地インターアクターとの交流があった。各グループごとにわかれ、セントーサ島で半日を過ごすということだった。まず自分達の相手の子を見付け、そしてモノレールに乗り昆虫館へいった。そこでは、たくさんの昆虫の標本、世界最大のくもの標本、何よりも良かったのが、色鮮やかで日本では決して見ることのできない蝶が、自分の目の前を飛び回っているところでした。次にロウ人形館へ行った。そこでは第二次世界大戦中のことをパネルと人形を使って示していた。特に印象に

残ったのが「降伏の間」と「東京裁判」でした。「降伏の間」では、日本がシンガポールに降伏を迫っているときのものであり、「東京裁判」では、東条英機などの人物がとても似ていた。昔、日本人が残虐な行為をしたにもかかわらず、現地インターアクターが暖かく迎えてくれたことに感謝したい。交流の方と言えば、僕達がぎこちない英語で、簡単にゆっくり話をして、現地の子にもゆっくり話をしてもらったり、ときには紙に書いてもらったりしてなんとか理解できたが、たまに理解できないのがあって「私はこのことを理解できない」と言ったとき、本当に英会話の重要性を知った。そして海岸に行き、記念撮影後少しゲームをして、ハンバーガーを食べて噴水ショーを見て、現地の子と別れた。肉体的にはそんなに疲れなかったが、精神的に疲れた一日だった。しかし、心に残る最高の一日でもあった。



【第3日目】

現地青少年との交流会

社会奉仕

老人ホーム・孤児院訪問

オーチャード・ロード



フォーラム挨拶

R. I. 第2660地区インターアクト委員長

和田 健

今日、ここにR. I. 第3310地区のインターアクトの皆さんをお迎えしてフォーラムを開くことができました。

開始に先立ち、今回の研修旅行に多大なご尽力を賜りました、R. I. 第3310地区インターアクト委員長ケニー・オングさんとオングさんとの連絡にご奉仕いただいた城山奈美さんに感謝の拍手を送りたいと存じます。

さて、インターアクトの皆さんは昨日もセントーサ島で半日を共にすごしているのもう、打ち解けて話し合いができると思います。私が今回の研修で最も大切に考えているのがこのフォーラムです。国際理解の増進がこの研修目的ですが、インターアクトという共通の目的を持ったシンガポール・日本両国の若者が交流するのですから、お互いのインターアクト活動の情報を交換しあうのが、それぞれのインターアクト活動のために意義あることと思うからです。わずかな時間しか用意できませんでしたが、将来のインターアクト活動に役立つお土産を持って帰れるよう、この時間を有効に使ってくれるよう期待して挨拶と致します。

I. A. C. Get-together Meeting in Singapore

大阪市立東高校 小宮山 亮

Ladies and gentlemen of the Rotarians, and the members of the Interact Clubs in Singapore. My name is Ryo Komiyama, and I am a first-year student of Osaka City Higashi Senior High School. I am very glad to meet you.

All of us are from Osaka, Japan. We belong to the Interact Clubs in the Rotary International 2660th district. Our group consists of 9 different schools.

Most of us are high school students, but some are junior high school students.

Each club in different schools is very active in its own way. As for my club in Higashi Senior High School, for example, we invite the handicapped people to our school festival every year and hold a welcome party. And in support of the activities of UNICBF, we raise money through a charity bazaar and a raising campaign in our school so that we may help the starved children in Africa. And also, we practice English with a native English teachers every week.

Through these activities, we hope to play an important role in volunteer activity and to be internationalized.



I think that it is the same with the other schools in our district. They devote themselves not only to the community, but also to the world. I believe that they are more active than we are.

So, on this occasion, we would like to talk a lot with each other about what you and we have been doing in each club, or about what you and we are thinking about everything.

Today, I believe that we can have a better communication for our mutual understandings and friendship in this meeting. Let us enjoy and study together!
Thank you.

せば、言葉はカタコトであったとしても通じるのです。言葉も環境もそして宗教までも全く違う人間でも、気持ちは同じなのです。お互いが分かりあえるのです。このことを身をもって感じたとき、嬉しくて感動しました。

私は、今回の海外研修旅行に参加させて頂き、普段の生活では得られない数々の経験をしました。これからもインターアクトの種々の活動に参加していきたいです。



「交流会にて」

明浄学院 田中智美

「交流会」

四天王寺学園 満谷和代

3日目、朝から現地のインターアクトの人たちと交流会を開きました。前の日にセントーサ島で会っていることもあって、さほど緊張はありませんでした。

前日、友達になったシンガポールのインターアクトの人と同じテーブルにつきました。始めは、何を話してよいのか分かりませんでした。が、アドレスの交換からはじまって、家族の事や好きなスポーツ、学校のことと話はふくらんでいきました。相手の瞳を見て、手振りをつけて笑顔で話してくれます。時には、誤った言い方をしたら、「NO, NO」といって言い方を直して教えてくれます。日本にいたら、誤った英語や下手な発音を聞かれるのがいやで、なかなか英語を話せなかったけど、外国へ来てしまえば、イヤでも英語を話さなければならないのですから、誤っていても何でも話すよう心がけました。その為通じた時の喜びは本当に大きな物でした。今でもあの時の気持ちは忘れられません。しかし、通じないことも多くありました。そのときは、もっと来る前に勉強しておけばと悔やみました。だけど、相手の瞳をみて心から話

私たちが、1日目に一緒にいた現地のインターアクターの人が来ませんでした。そのため、私たちのテーブルには、日本のインターアクターが8人、現地のインターアクターが2人でした。しかし、話していることがあまりわからなくて、何度も何度も紙に書いてもらいました。紙に書いてもらうとすぐに分かることを、話されるとわからないのには、なんだか悲しいものがありました。

私は、そのうちに、だんだんと何を話しているのかなんとなくわかってきましたが、今度は、自分が英語を話せなくて、単語だけを並べて言うぐらいでした。それに、自分から話しかけようと思っても、質問することが頭にうかばないし、また、英語がわからないということで話せませんでした。まわりを見ると、みんな英語で楽しそうに話しているので私一人だけとり残されたような気がしました。

日本に帰ってきてからも、話せなかったということだけが、すごくやさしかったので、これからは、授業の勉強ではなく英会話のほうに力を入れて、一生懸命勉強をして、英語を絶対に話せるようになりたい、そして、外国に行きたい、と思いました。



Dear Sir,

We, the Singapore interacters of district 3310 have thoroughly enjoyed your visit to Singapore. It is a wonderful thing that all the interacters from Japan and Singapore have successfully managed to break through the barrier of language and form great bonds of friendship with each other. The 3 days spent together will always be in our minds for as long as we live. These 3 days have been most wonderful, that the last night of departure moved a lot of us to tears. We all wished that it had lasted longer. The next few days after your departure has left a lot of us sad and we keep looking at the photos and remembering the good times we had and shared. But nevertheless we will all keep in contact by constantly writing to each other to keep the strength of friendship living forever and to break the barrier of distance. We all look forward to seeing all of you again. In the meantime, cheers to all the wonderful times we have shared, and the times we will be sharing. Friends 4'ever. We all miss you a lot back in Singapore. Harigato for everything.





ROTARY INTERNATIONAL

Service Above Self - He Profits Most Who Serves Best

MAILING ADDRESS

Box 625, Lim Ah Pin Post Box
Singapore 9154.
Tel: 02-2805188 (Ofc), 02-2889158 (Res)
Fax: 02-2805206
Telex: RS 50600 A/B WOOSON



JEFFREY G. T. PO P. H. F.
Dipl. Telecoms Engineer,
M. Illum. E. S., MSJET., MMIS, M. Inst. CM.

Charter President (1989 - 1990)
Rotary Club of Serangoon Gardens
Chairman (1991 - 1992)
District 3310 Service to Youth

25th August 1991

TO:

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2660 OFFICERS
ROTARIAN OF DISTRICT 2660
TEACHER ADVISOR OF DISTRICT 2660

WELCOME TO SINGAPORE

On behalf of my District Governor of 3310 Dr. Robert Loh our **WARMEST WELCOME TO SINGAPORE.**

The visit of your large delegation of Rotarians, Teacher Advisors and Interactors from Japan District 2660 is the first for this Rotarian Year Of 1991 - 1992. I hope that your very brief stay will bring you all much benefit especially to the Interactors.

If any of you require any assistance, please do not hesitate to approach me. Please **ENJOY** your stay here.

Yours In Rotary

PP Jeffrey Po
Chairman
Service To Youth District 3310



c.c. District Governor Dr. Robert Loh

「楽しかった交歓会」

大阪教育大学付属高校 平野校舎

笠野 智代実

第3日目の朝、朝食の後、ゆっくり休憩をしてからバンケットルームへ。前日にセントーサ島を案内してもらった現地インターアクターの人たちと共にテーブルにつき、交歓会が始まりました。初めは、ロータリーの方々の話などを聞いていれば良かったのですが、各テーブルごとでの交歓になり、また私の「英語とのタタカイ」が始まりました。文化などの違いはあるにしても、同じ年代同士、話も合うのになぜか会話が思うように進まない。とうのもやはり、「言葉の壁」は薄くなかったということです。確かに、ある程度なら理解もできて、伝えることもできたけど、それ以上は身振り手振りですえいっばいでした。それでも、住所の交換をしたりいろいろしゃべったりしているうちに、時間はあっという間にすぎてゆきました。

昼食のあとは、パフォーマンスが始まりました。まずは金光八尾高校の合唱、そして現地インターアクターの人達の合唱。言葉は違うけど、知っているメロディの歌があると、やはり世界は一つなんだなぁと感動しました。

そしていよいよ私達の出番となりました。私達は日本の伝統芸ということで、先生に教えてもらった、南京玉すだれと、皿まわしをしました。でもあとから気付いたことですが、南京玉すだれは、南京とつくぐらいなのだから中国の芸なのではないかと……。

まあ、そんなことは気にせず「さて、さてさては南京玉すだれ……」と芸をはじめました。釣り竿、魚、後光、えび、次々と芸が終わり最後の皿まわしになりました。でもお皿がなかなかかわらず、少しひやひやしましたが、現地インターアクターにも挑戦してもらい、ぶじおわりました。



「心と文化の交流会」

大阪桐蔭高校 橋本 直樹

研修の第3日目に、ホテルで現地の第3310地区のインターアクターと文化交流会があり、前日、セントーサ島で十分に交流をした僕達は、折り紙を教えてあげたり、パフォーマンスを楽しんだりと大いに盛り上がりました。まず、日本とシンガポールの各先生のお話があり、そして、各テーブルにおいて、文化交流会が行われました。折り紙で兜を教えると、珍しそうに丁寧に折っていました。金光八尾高校方が、「上を向いて歩こう」を英語で歌い、大教大付属平野校舎方が、「南京玉すだれ」と「皿まわし」を披露すると盛大な拍手が贈られました。

シンガポールの教育制度について質問すると親切に図に書いて説明してくれました。僕達のテーブルにいた子は、皆、ジュニア・カレッジの1年生でした。ジュニア・カレッジは2年制で、シンガポールの中学校にあたる学校の最終学年に受ける試験で、いい成績をとらなければ入学できません。普通の成績の生徒は3年制のプリ・ユニバーシティに進学します。小学4年生の頃から、何回も選別試験があり、それによって進路が決まるのです。大学進学率は同世代の約12%です。この教育制度には驚かされました。僕はこの海外研修で、改めて英語の必要性を知り、現地のインターアクターの心の温かさに感動しました。

「交流会」

大谷高校 岡野 光津子

希望と不安とが入り乱れる気持ちを抑え、シンガポールに着いて3日目、私がおもった心配の種であった交流会の日がやって来ました。前日、セントーサ島で一日現地のインターアクターと過ごしたせいか、「恥」という言葉などはなくなってしまったようで気分も楽になりました。

交流会がはじまり、自己紹介をすませるとシンガポールのインターアクターは積極的に私たちに話しかけてくれ、私も乏しい英語とジェスチャーとで一生懸命応えました。シンガポールのインターアクターたちは、ゆっくりした英語で親切に言ってくれたのでとても楽しく話すことができました。

その後、歌もうたい、折り紙をして遊びました。歌はもちろん英語でしたが、歌いはじめると、とても楽しい気持ちになりました。だから私は「気持ちが通じあえば言葉は障害にはなりえない」と思えるようになりました。折り紙についても同様で、あれほど英語を話すことに消極的であった先生でさえも、日本語まじりの英語で「だまし船」を一生懸命に教えていたので気に入ってもらえたようでした。

この交流会を含めて今回の旅行で、私は日本人について客観的によい面も、悪い面もあらためて知ることができ、今後の私の課題もふえてしまったようです。これをステップにこれから、頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、この様な実り多い研修の機会を与えて頂いたロータリークラブの先生方や各校顧問の先生方、両親に心から感謝いたします。



「現地のインターアクターと テーブルを囲んで」

大阪市立東高校 藤澤 めぐみ

25日の朝、雷雨で目がさめた。「ああ、これが熱帯雨林気候か」と訳のわからないことを思いながら、秘かに外国に来たことを喜んでいた。

テーブルでの現地の人との交流会では、住所を交換したり、折り紙をしたりした。私は折るとき、会話も忘れて真剣にしてしまった。リリー（利例）やスーザン（淑珍）が書いた漢字の中国名を、私が日本読みしてあげたら喜んでくれた。

頭の中で、日本語を、学校で習った英文や単語などにしながら話していたので、遂に頭が混乱し、日本人に英語で話してしまったりまたその逆もしてしまったりした。しかし、英語と言っても私の場合は、ほとんど単語で話していた。そのうちに、テーブルを囲んで落ち着いて話したせいもあったのか、不思議と日本語を英文に考える時間も少なくなり、学校で一度しか出てこなかった単語もたくさん浮かび、以前よりもっと私の言っていることが理解してもらえてすごく嬉しかった。

彼らのパフォーマンスは、短いけれどすごく団結力があって、見てて気持ちがよかった。一つの事にあんなにも集中できるのは民族の習性だろうか？鑑賞態度を見てても、“聞くときは聞く”という風になすごくケジメがある。確かに誰にでもあることだけれど、私も人前で何かをするということは、恥ずかしさや反発があると思う。シンガポールのインターアクターとの交流を通して私も見習わなければと、思いました。

「笑顔につつまれた交歓会」

金光八尾高校 中山 愛子

こんなに大勢で海外へ行ったのは、今回が初めてだった。日本を飛び立つ前夜、今まで先生方が話された、注意事項やシンガポールでの予定などが頭の中で何度も繰り返され、不安と期待がいりみだれて寝るどころではなかった。その不安の中でも、最大のものが言葉だった。学校でも英語が一番苦手な私はこのことで、その不安がどんどん大きくなっていくような気がした。そして、いよいよシンガポールへ着いた。

現地のインターアクターに会うまで言葉に悩んでいたが、相手のインターアクターがみつかると“あたってください”の精神で思いきって話しかけた。すると相手のインターアクターは笑顔で答えてくれた。セントーサ島を回っているうちに下手な英語より、その下手な英語を喋ろうとしている熱意の方が先に伝わり、ほとんどその熱意だけで会話したようなものだった。

第3日目のフォーラムがホテルのバンケット・ルームで行われた。そして、セントーサ島で友達となったシンガポリアンとの交歓会をもったのである。私にとってこの交歓会は最高のものとなった。なんといってもインターアクターの仲間が増えたのだから！日本のインターアクターはSUKIYAKI Songを歌い、南京玉すだれを披露した。シンガポールのインターアクターからは、SINGAPORE Songとノリのいいシンガポール・エールを贈ってくれた。あのノリがいかにもシンガポールという感じがして、家に帰るなり家族にやってみせたのは私だけだろうか。

交歓会の会場で明るい笑いの他に、もう一つ交わされていた事があった。それはアドレスの交換だ。うちわにアドレスを書き、“忘れない。いつまでも友達でいよう。手紙かくね”という思いをそえて手渡した。

空港に見送りに来てくれたインターアクター一達に最後の別れを言う時、涙がとめどなく



流れたが「ありがとう」という気持ちでいっぱいだった。そして空港で本当の交歓会をしたように思う。

私たちはシンガポールで最高の友達に出会い、さまざまな思いを胸に秘めシンガポールを飛び立った。いつかまた、たくさんの思い出に会いにシンガポールへ行きたいと思う。

空港まで見送りに来てくれた、たくさんの友達と二度とできない経験をした高校2年の夏休みを忘れることはできない。



「各テーブルの報告」

浪速高校 尾郷 健太郎

僕の席には、僕とパートナーの土居君、そして現地のパートナーのエディ君と、他に日本人の女子4人とそれぞれのパートナーのマイケル君、そしてリンさんの9人がいましたが、僕と土居君は何となく話がすまないように感じて、どんな話題をしていけばよいかわりと苦労していました。

しばらくして、ロータリアンの方が一人こられて、手品をし始めました。それはとても簡単なものだったのですが、僕らにはとても楽しくて、そののちにはたいへん会話がうまくいきました。(実際、最後の別れの時エディ君は小さな手品をやってくれたり、そのロータリアンの方といっしょに写真を撮ったりしていました)

ロータリアンの方は手品のタネあかしをして、その手品に使った道具をエディ君達にわたして自分の席へ戻っていかれました。そして、その後は舞台の上で行われているパフォーマンスや歌などを見ながら、少しずつエディ君以外の現地のインターアクターとも話ができるようになりました。しかし会話の内容はアドレス交換や、それについて「手紙を書いて下さい」とか酔いどめの薬を飲んだので「なぜ薬を飲んだのか?」とか、食事のときにはリンさんが、たくさんおかずをとってきたので、「あれだけ食べると太ってしまうよな」というようなことを小声で、冗談を言ったりと、ほとんど日常会話で、どんな活動をしているかというようなことはまったく話せませんでした。僕たちはそれなりに友好を深めることができたなと思いました。

最後にロータリアンの皆さんが、僕たちにこのようなすばらしい機会を与えて頂き、心より感謝しています。



「各テーブルの報告」

浪速高校 村口 英彦

僕たちのテーブルは、中国人のVivienNgとマレーシア人のNor'siahそして僕たち浪高生3人とで話し合いをしました。

シンガポールでは、自分たちでアルバイトなどをしてお金を作り、活動費や寄附金などを出しているそうです。僕たちの活動に関係するW. W. F (世界自然保護基金)のことを話しましたが、彼女たちは知らず、ジャパニーズプロレスと間違っていました。シンガポールの教育は義務教育がなく、教育に大変お金がかかるので夜の学校に通う人も多いそうです。インターアクトの活動はシンガポールと日本とは少し違うようで、僕たちのように花などを配ったりしないようでした。

シンガポールでは、小学校6年・中学校4年・高校2年だったと思いますが日本と少し違うようです。VivienNgは16歳でNor'siahは14歳だそうです。見た目はVivienNgの方が年下のように見えました。VivienNgは、English・Name と Chinese・Name と Christian・Nameの3つを持っているそうです。

VivienNgは4~5ヶ国語、Nor'siahは2~3ヶ国語話せるそうで、シンガポールの語学力の発達を示していました。

Nor'siahは5人家族で、BigsisiterとLittlebrother がいるそうです。VivienNgは4人家族でLittlebrother がいるそうです。

セントーサ島では通じ合わなかった会話も会って2日目になるせいかジェスチャーと英単語を並べることによってなんとか通じ合うことができました。

最後になりましたが、このすばらしい研修に援助をしてくださったロータリークラブのみなさんに、大変感謝しています。



友情のウチワ

シンガポールへのお土産に用意したウチワ300本について記憶に留めて欲しいことがあります。

それは、たかがウチワとはいえ、これが出来上がるまでホストR. C. 大阪阪南の多くのメンバーの友情が関わっているということです。

出来上がるまでの過程に沿ってご紹介させていただきます。

- | | |
|-----------------|-------|
| 1. 納入業者の紹介と価格交渉 | 泉谷悦男氏 |
| 2. デザイン | 越田英喜氏 |
| 3. 英文推敲 | 前山克己氏 |
| 4. 資金協力 | 大野定俊氏 |

インターアクト地区委員長

和田 健



なお、このウチワは第3日目のフォーラムに参加したシンガポールのロータリアン・インターアクターに約80本、慰問した老人ホームに約170本、第4日目に同行ロータリアンが表敬訪問したクィーンズタウンR. C. へ約50本と役立てて参りました。

「養老院訪問」

四天王寺学園 瀬戸里絵子

私達はシンガポールに着いて3日目、午後から社会奉仕のため養老院を訪問しました。そこで私達は浴衣に着がえて、盆踊りをしました。そしてその養老院でくらししているお年寄りの方々に折り紙を渡したりしました。その間じゅう養老院のみなさんは、本当にとてもあたたかい目で見守ってくれていました。折り紙を渡すと、なんとも言えないようなうれしそうな笑顔を見せてくれました。しかしお年寄りの中には、私達が日本人という事で心を開いてくれない人もいました。2日目のセントーサ島でろう人形の資料館をみて、シンガポールで昔どのような事があったのかをくわしく知りました。私は、シンガポールについての知識がほとんどなかったことにはずかしく思いました。私達は、この事実を忘れることなく、これから先どのような事があっても二度と同じまちがいを起こさないよう努力していくべきだと思いました。

このような考えを抱きながら、養老院の中の案内を聞き、バスで次の目的地へと向かいました。

今回の旅行を通して、シンガポールの歴史に触れたり、たくさんの人々と心の交流がはかれたことを本当にうれしく思っています。そして、これらの事は、これから先の私の人生においてたいへんプラスになると思います。

最後になりましたが、私にこのような機会を与えて下さったロータリーの皆様、そして御尽力頂いた諸先生方、本当にありがとうございました。



「老人ホーム慰問」

大阪桐蔭高校 竹内聡貴

第3日目、僕達はシンガポールの老人ホームを訪問しました。

僕は正直を言うと不安でした。なぜなら、お年寄りの方は日本の侵略を体験されています。それで僕達が日本人だと言う事に現地の戦争を体験された方々がどれくらい気を許してくれるかと考えていたのです。第二次大戦の時の日本軍は言い訳も出来ないほど残虐な行為をしています。それを僕達が訪問したところで何の償いにもならないかもしれない、逆に彼らに当時の事を思い出させて、益々嫌な気分にしてしまうのではないかと思ったのです。

そして確かに僕達は喜んで迎えられた訳ではありませんでした。折り紙を受け取らない方もいらっしゃいました。だからと言って何もコミュニケーションを取らなければ、傷は深いまま残ります。少しずつ傷を浅くする事が出来たらと思います。

残念だと思った事は少し時間が少なかった様な気がした事です。言葉が通じないのでからせめてゆっくりと時間をかけ、打ちとけていった方がよかったです。パフォーマンスとして盆踊りを行いましたが、これを行った頃にはお年寄りの方々も少しは気を許してくれた様に思います。

過去を忘れる事は難しいと思いますが、これらの事を糧にしてさらに国際交流を深めていってほしいと思います。そのためにも、このような海外研修の老人ホーム慰問は今後も続けていってほしいと思います。

「老人ホーム訪問」

金光八尾高校 吉村加季代

私たちインターアクターは8月25日、日曜日にSINGAPORE救世軍の老人ホームを訪れました。そこには、かなり年配の人を含め、老婦人がたくさんおられました。この老人ホームでは、浴衣を来て、河内音頭に乗って、お年寄りの周りで踊りました。河内音頭を踊った時は、あまり反応がなかったので少し悲しく思いました。そのあと、日本から持ってきた、鶴、犬、兎の折り紙をインターアクターが一人ずつ手渡しあげました。今度は日本語で「ありがとう」と言ってくれたのでとてもうれしかったです。

救世軍の男性がホーム内を案内してくださっている時、廊下の幅がとても狭いと思いました。私が、ホーム内を歩いている時にひとりのお年寄りが日本語で「こんにちは！」と言ってくれたので私はすぐに「こんにちわ」と返事を返しました。すると、この老人が、笑ってとても喜んでくれたので、私も、だから、とてもうれしく思いました。そして、日本の老婦人と全くという程同じだという錯覚に、私は陥りました。

帰国して思ったことは、私たちが老人ホームを訪れたこと、河内音頭を踊ったことを少しでもいいからお年寄り一人一人の心の中に残しておいてほしいというのを思いました。そして、第2660地区インターアクターの私たちもSINGAPOREの救世軍の老人ホームへ行ったことをいつまでも、心の中に残しておいてわすれないでいたいものです。

THE STRAITS TIMES, WEDNESDAY, AUGUST 28, 1991

HOME

NEWSFRONT

Japanese teenagers cheer up old folk



Japanese teenagers clad in kimonos dancing for the old folk at the Lee Kuo Chuan Home for the Aged.

■ A GROUP of Japanese teenagers brought cheer to the residents of Lee Kuo Chuan Home for the Aged in Upper Bukit Timah Road on Sunday.

Clad in kimonos, they swayed gently and clapped for the old folk. The visitors also gave them paper cranes.

The Japanese were part of a 103-strong delegation comprising members of a Rotary Club in Osaka and its youth affiliate, the Interact Club.

They were here for a four-day visit to meet local Interactors. Thirty-five schools here have Interact Clubs.



「オーチャード通り」

明浄学院 岩井 規容子

私は、今回初めて海外研修に参加させていただきました。外国に行くのは、最初怖かったけども、だんだん慣れて、シンガポールの子もすごくやさしかったです。海外研修に行って3日目の日にオーチャード通りという所に行きました。オーチャード通りに行く時、地下鉄に乗りました。それでオーチャード通りに着いて、夕食は自分で決めて食べてもいいということになっていたのに、決めるのに時間がかかったのに、それほどおいしくなかったです。ジュースもすごく甘かったです。シンガポールの食べ物は、甘いかわらいか、味が薄いかいかに、のどちらかしかほとんどなかったのがあまり食べれませんでした。それから、おはしもすごく長かったので、持ちにくかったです。それから、おみやげやさんに行きましたが、あまり時間がなくて、他の店もあまり見れませんでした。現地の子がとても親切に気を使ってくれたので、他の店に少しだけしか時間がなかったのに連れて行ってくれました。連れて行ってもらった店は、日本でも売っているキャラクターのグッズがありました。それを見て私は、日本と共通しているものもあるんだなあと思いました。それに現地の子は、“そごう”とか他に日本にあるものをもとても知っているのが驚きました。私は、他の国のことなどは全く知らないのになあと思いました。シンガポールのエスカレーターは、すごく速かったので、つまずきそうになりました。あまり見れなかったけど、現地の子が一生懸命案内してくれていたのが楽しかったので良かったです。

「オーチャード通りでの出来事」

清風学園 平野 智志

8月25日、夕方、伊勢丹でバスを降り、学校単位でオーチャードロードで買物をしました。僕らは、現地の4人と、7人の友人で行動しました。最初に、ファーイーストプラザというデパートに行き、そこで1時間、自由行動をとりました。僕が一人でうろうろしていると、あちこちの店で、日本語で「見るだけでいいから、おいで」と言ってきました。僕は入って色々なものを勧められると断れないような気がしたので、なるだけ、入らないようにしました。ジーンズの店があったので入って見ていると、英語で試着してもよいと言ってきたので、何本か試着して、自分にぴったりのを買いました。僕は言われた値段をそのまま払いましたが、普通は値切るということ、後で聞かされました。その後、店の下でみんなで夕食をとり、地下鉄に乗りました。運賃が60セントと一定なので驚いていると、現地の子は日本の距離におうじて値段が変わることに驚いていました。さらに、ホームのところに、ドアがあり、僕は、これに何のメリットがあるのかと思いました。電車に乗ると、つり革の位置が中央にあるのに気付きました。これは、つまりラッシュがあまりなく、つめこむことがないのだろうと、僕は判断しました。そして、今度は“そごう”というデパートに行き買物をしましたが、ジーンズなどはにせ物だったそうです。みんなあまり何も買わず、時間が余ったので現地の子は、ゲームセンターに連れていってくれました。全体的にテレビゲームが少なく、日本で5年くらい前にはやったようなのが一杯ありました。この日の感想としては、思っていたより品物は安くなく、にせ物もあったようなので、自分がしっかりしていないといけな



「オーチャードロードにて」

大谷高校 喜田 理 絵

不安いっぱいの気持ちで、シンガポールの研修に来て、現地の生活にも慣れてきた頃、最も楽しみにしていた「オーチャード通り」でのショッピングへ出掛けました。前日から現地のインターアクターとも交流していたこともあって、言葉の心配はあまりしていませんでした。でも、やはり「スリ」などの盗難を心配していましたが、そういうこともなくいろいろな店を見て回ることが出来ました。歩きながらシンガポールのインターアクターともいろいろな話をして心が通じ合ったことが何よりもよかったし、私たちの乏しい英語力にもかかわらずいろいろと積極的に話しかけてきてくれて、次第に私たちからもどんどん話しかけていけるようにもなりました。いっしょにショッピングを楽しんだ現地のインターアクターの人たちも見ていて、日本の私たちのお金の使い方や、お金に対しての考え方がちがっていたようでした。私たちは日本にいるときと同じように自分の行きたい店に行き、いろいろなほしい物や買いたい物を買ったりしていましたが、現地の人たちは、ほしい物があっても、自分でそれだけのお金をためてから買っているようで、そういうところは、みなわらなければいけないことだと思いました。又、現地のインターアクターの人たちが「日本食」が大好きな人たちだったので、地下鉄に乗って、久しぶりの日本食を食べに行きました。みんなで「おさしみ」や「うどん」や「やきとり」などを注文して、日本食を食べることが出来て、充実した楽しい一日を過ごすことが出来たと思います。シンガポールの街を歩いて、日本とちがういろいろなことに気付きました。大阪では見られないような地下鉄だったし、エスカレーターのスピードも速くて、少しこわい思いをしたりと、日常生活でも日本とちょっとしたちがいにも気付きました。現地のインターアクターと交流して、未知だったシンガポールという国の一部や、日本とのちがいや同じようなところを知ることが出来、自分のこれからの

生活にも役立つようにしたいと思います。

この研修を通じてシンガポールのインターアクターとこれからもずっと文通などをしてより一層の友情を深めたいと思います。

最後になりましたが、この実りある研修旅行の機会を与えて下さったロータリーの先生方、各校の顧問の先生方、両親に心から感謝いたします。



「オーチャードロードで」

大阪市立東高校 西岡 真弓

シンガポールに来て3日目に、現地のインターアクターの生徒達と班に分かれてオーチャードロードに行きました。通りには、有名なデパートがたくさんあり、大勢の人で賑わっていました。大勢の人の中でも、一番日本人が多かったような気がします。

現地のI.A.C.の人達と一緒に地下鉄に乗って、TOKYUデパートに連れていってくれました。日本のに比べると、シンガポールの地下鉄は、列車の横幅がたいへん広く、二重扉になっていてたいへん驚きました。これよりも、もっと驚いたことは、切符がテレホンカードみたいになっていたことです。

TOKYUデパートに着いた時、シンガポールのI. A. C.の人達は何軒か小物を売っている店に連れていってくれました。キーホルダーからマーライオンのぬいぐるみや民族衣装を着たぬいぐるみがあってとてもかわいかったです。これらの他にもネクタイなども売っていました。ネクタイは日本よりも少し安くて、色・柄もとってもよかったです。小物を売っている店だけでなく、本とか、お菓子を売っている店にも連れていってもらいました。お菓子は、日本で売っているようなものが多くて、あまり変わったものは、そこには置いていませんでしたが、楽しかったです。洋服の店へ連れていってもらった時、日本より大変安く、Bigサイズの服が結構多かったです。でも、色やデザインはたいして日本と変わりがなかったように思われます。ショッピングは大変楽しいものでしたけれど、どこを見ても日本製品が多かったように思え、なんだかとても寂しい感じになりました。しかし、夜のオーチャードロードのたくさんのネオンを見ていると、そんな寂しい感じは忘れてしまいそうになりました。

私の目からみて、オーチャードロードは、昼よりもたくさんのネオンで着飾られた夜の方が、活気づいたように見えました。とても楽しくそして、冒険みたいな一日でした。



「オーチャードロードの思い出」

金光八尾高校 廣岡 由希子

8月25日。シンガポールに来てから、3日目の朝を迎えた。今日は朝から、現地シンガポールのインターアクトの人達との話し合いがあり、午後からは老人ホームへの訪問があった。そして夕方からは、オーチャードロードの見物があった。一日中、現地インターアクトの人達といっしょに行動するので、あれも話そう、これも話そうと考えたりして、とても楽しみであったが、自分の思ったことをうまく相手に伝えられるかどうか心配で、少し緊張していた。でも、現地のインターアクトの人達と話し出すと、そんなものはどこかに吹き飛んでしまった。

そうこうしているうちに、どんどん時間が過ぎていってしまい、オーチャードロードを見学する時間となった。ここでの行動は、各自の学校にまかせているということになったので、私達は班に分かれて行動することにした。そこに、現地のインターアクトの人達が何名かずつ付いてくれた。私達の班に付いてくれた現地インターアクトの人の名前はJuneだった。彼女は、この班の中の友人に前から付いてくれた人だったが、私は顔を知っていただけで話したことはなかった。しかしいざ話してみると、とても気さくで、話しやすい人だった。

私達はJuneといっしょにバスに乗ることにした。シンガポールでは国土が狭く、車の値段が高いせいか、バスの利用者が多かった。私達はバスに乗って、話をしたり、窓の外の景色を眺めたりしながら、目的地にあるバスターミナルまでの時間を過ごした。

バスを降りてから、私達は少し歩いた。シンガポールに行って思うのは、「道路がとてもきれいだ」ということである。道路の端には木が植えてあるし、道路にはゴミも落ちていない。見た目ですごく清潔で気持ちが良い。シンガポールでは、「ゴミはゴミ箱に」という常識的なことが、もうあたり前になっているのだろう。それを思うと、日本の道路はな

ぜあんなに汚れているのだろうかと思う。もちろん、汚す人がいるから汚れるのだが、その人達は常識があるのだろうかと思ってしまふ。シンガポールのように、罰金を取るようにすれば、ゴミも捨てられなくなるかもしれないが、それではあまりにも恥ずかしすぎる。日本の人はもっと自主的にそうしなければならぬと、つくづく思った。

バスターミナルとは少し離れているデパートに入り、お土産を買い、そこから歩いて屋台に行った。そこで焼鳥等を食べたりして、残りの時間を楽しくすごした。帰りは地下鉄に乗り、集合場所まで歩いた。夜の街はすごくきれいだった。今日一日の楽しさの余韻と少しのせつなさが混じった気持ちで集合場所に向かった。Juneと別れる時はさびしかったが、明日見送りに来てくれるということだったので、なんだか安心した。

帰りのバスの中で、今日のことを思いおこしてみると、本当にいろんなことを学んだと思った。シンガポールの人の気さくさに助けられたり、日本のことについて反省したり、感動したり、いろんな思いが交錯した。

私はシンガポールに来て本当に良かったと思う気持ちと、こういう機会を与えて下さったロータリーの方々や先生方に対する感謝の気持ちで一杯である。

「思い出のサテークラブ」

大阪教育大学付属高校 平野校舎

井上 智香子

第3日目、日も少し暮れはじめたころ、私達は現地インターアクター4人と共にシンガポールの街へと繰り出しました。

まず、うわさの地下鉄MRTに乗って、シティーホールに向かいました。

そのシティーホールで私達を待ちうけていたものは、なんとあのサテークラブだったのです。

お腹をこわすから食べてはダメですよ、と言われると食べたくなってしまうこのあまのじゃく精神が私達をそうさせたのです。

食べる前に少しだけ買い物をし、期待に胸をふくらませてサテークラブへと向かいました。

何がおいしいのかわからなかったので、注文はすべてマイケル君に任せ、私達は席で待っていました。周りではサテークラブを焼く炎がごうごうと音をあげ、一層雰囲気盛り上げました。

そしてやっとサテークラブが来ました。葉っぱの上に山積みされた一見焼き鳥風のサテークラブと、それにつける辛そうなソース、きゅうりのぶつ切り、ケットゥパと呼ばれる葉っぱに包まれた蒸しご飯が一気に目の前にずらずらと並びました。また、飲み物としてはココナッツが丸ごと1個来ました。そして、おそろおそろ1本食べてみると、これはおいしい！

少し甘い鳥や牛の肉と辛いソースの味がよく合い、何本でも食べられました。また先生方はビールによく合うのか、どんどん飲んで食べて、日頃聞けないためになるお話を私達に聞かせて下さいました。あの時のことはきっと一生忘れられないでしょう。

そして、サテークラブだけでは満足せず、福建ヌードルとお好み焼きを追加しました。それもまたおいしく、私達の胃袋は大満足しました。

山のように食べたにもかかわらず、たったの5ドルで済んだというのも日本では考えられないことでした。そして私達はサテークラブを後にし、またMRTで集合場所に戻りました。

サテークラブを焼く炎が私達に「もう一度食べにおいで」と言っているようでした。

幸い食あたりもなく、みんな楽しく夕食が食べられたので良かったと思います。

今度シンガポールに来た時は、絶対にまたサテークラブを食べたいです。“白木先生と一緒に”

「シンガポールの街」

大阪桐蔭高校 南部 頼 孝

第3日目の夕方は、第3310地区のインターアクターと一緒にシンガポールの街を散歩した。僕達の学校は二つのグループに分かれて別々に行動し、僕のグループは最初オーチャード通りからシティ・ホールまで地下鉄で移動した。地下鉄は非常にきれいで、大阪のニュートラムと同様に列車の扉とホームの扉と両方が同時に開くようになっていて、安全性を重視していた。

街の中心地のシティ・ホールに着いて、そこにあるデパートは日本のデパートだった。その店内はかなり広く、見た目もきれいだった。売られている商品は日本製品が目立った。そういえば2階建てのバスのスポンサーもほとんど日本企業だった。日本企業の海外進出が凄まじいことは知っていたが、改めて実感させられた。

夕食は、マーライオンの近くの屋台街へ行った。屋台の料理は多種多様であったが、僕はマレー料理・中国料理やインド料理を食べた。現地のインターアクターは料理の一品ずつに説明してくれた。特にマレー料理の「サテー」というのは焼き鳥みたいで気に入った。最初は食生活の習慣が違うので腹を壊さないか不安だったけれど、受け入れられておいしかった。

観光してみて、街が清潔で、多民族が違和感なく歩いているシンガポールから学ばなければならないことは多くあったと思う。



「シンガポールの暑い夏」

大阪教育大学付属高校 植 田 真由子

第3日目の始まりは、朝食を終えて、10時からの現地の子たちとのフォーラムである。同じテーブルについたのは、昨日、一緒にセントーサ島をまわった者で、現地の子が来るやいなや「昨日のプレゼントはよかったよ」などと、すっかり打ちとけたムードで、とても昨日初めて合った者同士とは思えない。このすっかり気心の知れた仲間でフォーラムは始まった。

最初、フォーラムをすると聞いた時は「英語で議論できるかなあ」とか、「何を話し合ったらいいのか」などいろいろな不安もありかたい雰囲気を想像していた。が、さっそく住所交換が始まり、いろいろとみんなでしゃべり、結局そのまま昼食にはいってしまった。昼食はバイキングで、それが終わったあと、お待ちかねのパフォーマンスが始まった。現地の子は昨日からすごく楽しみにしていたようで、始まる前にも「何するの?」「がんばってね」と声をかけてくれた。私達は“南京玉すだれ”をしたが、初めてのことでとても緊張したが、終わった後、現地の子が「よかったよ」と言ってくれてうれしかった。他の学校と現地の子は歌で盛り上げてくれた。

お昼からは現地の子といっしょに養老院を訪問した。盆おどりが始まるまで少しの間おばあさんと話をする事ができた。英語が通じないので、現地の子に通訳をしてもらった。名前や年齢などを紹介しあっているうちに、盆おどりが始まり、続いて現地の子たちによる合唱が行われた。拍手のあと、おばあさんにきれいな折り紙のつるやかえるを渡すと、とても喜ばれた。言葉が通じないので何も言えなかったが、うちわであおいであげたりして、なんとか心を通じ合えたと思う。そして「再来」と言って、握手をし、別れたのだが、今ふり返ると、ほとんど何もしてあげられなかったことに少し悔いが残る。

それから私達は各グループに別れ、現地の

子に市内を案内してもらった。この時一番心に残っているのがMRTとよばれる地下鉄。びっくりするほどきれいで、広くて、チャンギ空港もすごかったけど、この地下鉄にも感動した。そして、マリナスクエアという大きなデパートに行った。大きいデパートなのに、少ししか時間がなくて、全部見られないのが心残りだった。そろそろお腹がすいてきて、次はサテークラブへ。ここでは、現地の子超オススメのマレーの名物サテーを食べることができた。注文してしばらくすると、80本くらいサテーがどんと運ばれてきた。特別ソースにつけて食べるサテーは1本食べるとやめられない味で、やしの実ジュースやさとうきびジュースとともに食べていると話もはずみ、みんな別れがせまっているのも忘れてすごく陽気だった。

帰りはMRTに乗って集合場所に行った。このころになると「sad」の連発。時間が迫っていたので、十分になごりをおしむことができなかった。バスの中から思いっきり手をふった。楽しかった2日間が過ぎ去り、やがてバスは現地の子を後に出発した。

「MY PEN PALS」

浪速高校 曾々木 良尚

バンケットルームでNORSIANとVIVIBNを後輩と待っているとき、僕の頭の中は、英語が話せるだろうか、聞き取れるだろうか、または今日来るのだろうかなどということしかなかった。

席について話し合ったことは実にくだらない内容ばかりだったが、とても楽しかった。またここで文通の約束をNORSIANとVIVIBNとALBXとした。英語の苦手な僕が3人と文通などできるかなと思ったが、その時は話すのに必死でそのような考えは見事にかき消されてしまった。

その後、老人ホームへの慰問を行ったが、ここで何の前おきもなく本間先生に「盆踊りをやってこい」と言われた時には内心ギクギクしていたが、終わってみるこれがまたなかなか楽しかった。写真を撮る前にNORSIANとVIVIBNから「菊花茶」と書かれたものをいただいたが、これがまた何ともいえないような味で、なんとというか紅茶を極限まで甘くして変なおいをませたような味だ。しかし残すと2人にわるいので、いかにもうまそうな顔をして一気に飲み干してしまった。

ショッピングでは何度も財布の入ったポケットに手を入れてその存在を確認したりしてすこし神経質になりすぎた。そして今回の海外研修で一番いやな思い出はここであった。すずで作られたベルを一つ目の店で買うと30ドルだった。そして次の店に行ってみると、なんと9ドルで売っているではないか。たかがベルを買うだけで1,500円も損をしてしまったのだ。その日の夕食は、店が混んでいたせいもあり、先日につづいてマクドナルドでハンバーガーだった。しかしみんなで楽しく食べていたのでこの時は何を食べてもおもしろかったらと思う。

バスに乗るときに現地インターアクターと別れてホテルにもどったが、僕達3人にはまだ一つ問題が残っていた。それは自分達は英語をほとんど話もできないし、聞き取りもできないのに、NORSIANとVIVIBNに電話をする約束をしてしまったのだ。しかしVIVIBNの方は本間先生の助けもあって、ほとんど問題なく済んだ。問題が起こったのはNORSIANの方だった。途中で彼女のお姉さんがでてきてわけのわからない筋の通っていない話？をしてあげくのはてには文通の約束までしてしまった。英語の苦手なぼくが4人と文通なんてできないのではないだろうかと思ったが、逆に4人と文通できるなんて、とうれしく思った。

その夜遅く、みんなで写真をとったりした後、米田先輩の助けをかりて4人に手紙を書き始めた。最終日に空港でこれらの手紙を出すつもりだった。僕の気持ちがそのまま伝わるように願いをこめて……。

最後に、ロータリアンの皆さんが、僕達にこんな機会を与えて頂き、心より感謝します。

「3日目の行動」

浪速高校 土居 司 郎

3日目の行動は、朝6時30分くらいにモーニングコールがあり、朝食を食べ、第3310地区のインターアクター達と話し合いが行われた。僕らのテーブルには第3310地区のインターアクター3人と日本人6人の合計9人がついて話し合いをした。お互いのインターアクトクラブの活動について話し合うことになっていたが、昨日のセントーサ島で打ち解けた彼らと雑談ばかりしていた。そしてその後は日本・シンガポール各インターアクトクラブの代表がいろいろと楽しいパフォーマンスしてくれた。それで一層、両インターアクターのきずなが深まったと思う。

話し合いの後、各テーブルで昼食をとった。そしてバスに乗り込み、老人ホームへ慰問に行った。僕は河内音頭の係だったので、以前大谷高校に集まって習ったように、一生懸命間違えないように、元気よく踊った。向こうのインターアクターも河内音頭を教えてくださいなので、教えながら一緒に踊った。なかなか楽しい河内音頭だった。きっとシンガポールのお年寄りも喜んでくれただろう。そして福祉について考えた。うちわや折り紙で喜んでもらえてとてもよかったと思った。日本のそういう施設にも行ってみる必要があると思う。



その後、老人ホームの前で写真を撮って、再びバスに乗り込み、オーチャード通りに買い物へ行った。僕のパートナーのインターアクターは都合で一緒に行動できなかったのが少々残念ではあった。オーチャード通りは活気あふれる街で、いろいろな店があって面白かった。お土産のほとんどには値札がなかった。とてもびっくりしたが店員との値段のかけひきは、日本では味わえない楽しさがあった。そこで日本の家族や親戚、友人達へのお土産を選んだ。夕食はマクドナルドでハンバーガーを食べた。内容は日本のマクドナルドと余り変わらなかった。シンガポールのマクドナルドも若者がたくさん来ていて、日本の若者とそう大差ないと思った。

シンガポールでの3日目は、第3310地区のインターアクターとの交流、老人ホームの慰問など5日間の中で最も大切な行事と、オーチャード通りでの楽しい買い物と、たくさんいろいろなことがあり、実に意義のあった一日だったと思う。

このすばらしいシンガポールへの研修旅行を企画して下さった、ロータリアンの方々、諸先生方に改めて感謝をしたいと思っている。



【第4日目】

ジュロンバードパーク
クロコダイルパラダイス
ハウバーピラ
そして……街

「4日目の記事」

清風学園 前田 武志
仲 眞 達人

今朝は全くさわやかでない。昨日は夜どおし友人たちと遊んでいたからだ。またいつものように簡単に部屋をかたづけ、朝食をとりに行く。朝食はまたパイキング形式だ。友人は朝なのに、やけにたくさん食べるがぼくはあまり食べれない。あまり口に合わないのだ。そして朝食をとりおえるとしばらくの間、ロビーでひまをつぶし出発の時間をまった。その間はほとんどぼーっとして、何を話したのかさっぱり覚えていない。それも昨夜覚えていないせいだ。やがて出発の時間がくるとぼくたちはバスへのりこんだ。これから向かうところは「ジュロンバードパーク」だ。ここには鳥がいっぱいた。その中でも見ものはタカのショーだ。男の人が3人ぐらいでタカに空にはおとり投げた物体をおかけさせたり、お客さんの真上をとばしたりしてとても迫力があつたが、そのタカたちには野生のタカの魅力はなかつた。飼いならされて、言われたとおりに動いているのを見て少しかなしかった。気をとりなおして次にいったのはおとなりにある「クロコダイルパラダイス」だ。そこでもやはりショーがあり人間がへびにまきつかれたり、ワニの上にねころがったりしていた。中でもいちばんおもしろかったのは、日本のプロレスラーにちなんで名付けられた、イノキという一番大きいワニと人間がキスをするところだった。あれはワニがガブッといったらどうするのだろう？。そして昼食をとりいったが、最初の方にたべたのがからすぎて、甘党のぼくは他のものがほとんどたべれなかつた。

午後からは、ハイパーピラでの自由行動でしたが、雨が降ったり止んだりだったので、あまり楽しくなく、自由行動の時間はほとんど買い物をしていました。その後チャイナタウンへ行き買い物を楽しみました。そこには海外の有名ブランド品や中国製のシルクのスカート、化粧品や香水などが、免税店よりも安く売っていました。それから、オーチャードロードの免税店へ行きました。免税店では先ほどのチャイナタウンより値段は高めでしたが、種類が豊富で他の旅行者の人達もたくさんいました。免税店での値段はシンガポールでは最も標準的な値段なので、今までに行った店の値段が高かったか安かったかわかりました。その後レストランに行くためにバスに乗りましたが、今までの疲れが出たのかほとんどの人が寝ていました。レストランでもみんなあまり食べていなかったように思えます。それから空港へ行きましたが、そこにはシンガポールのインターアクターの人達が見送りに来てくれました。みんな写真を撮ったり、撮られたりで大忙しでした。彼らとの最後の別れの時には泣いている人達もいてとても感動的でした。



「ジュロンボードパーク」

四天王寺学園 早石 祥子

シンガポール4日目の26日、ホテルを出発して、バスでジュロンボードパークへ。

ここではオウムやフラミンゴ、ワシやタカ、ハゲタカみたいなのがたくさんいました。また、ここでは、いろんな鳥のショーも楽しめます。鳥のショーは途中からしかみられませんでしたが、ワシやフクロウが箱から、飛び出し、池に浮かんでいるゴムのヘビをつかんで飛び去るってようなかんじです。とても大きく、びっくりしました。

ペンギンの水槽は、別のところであって、泳いでいる様子とか、とてもよく見えます。とてもかわいく、写真を撮りまくりました。

たくさんの鳥がいすぎて、全部まわれませんでした。でも、とてもよかったと思いました。



「クロコダイルパラダイス」

大阪桐蔭高校 松本 慎一郎

26日のシンガポールでの最終日にクロコダイルパラダイスに行った。そこではまず敷地の中をバスのような乗り物で一周しても、5分とかからないような広さであった。その割にワニの数が大変多かったことに驚かされた。真昼で暑かったせいかな、動いていたワニはほとんどおらず、こんなのなら襲われても大丈夫だなと思った。そのあと水槽のある建物に入った。その天井はガラス張りになっていて、頭上にワニが腹ばいになっているのが見えて少し不気味だった。そして、その後はクロコダイルパラダイスのメインイベントであるワニのショーがあった。自分は爬虫類に一体どんな芸ができるのだろうか、少々楽しみだった。男の人がニシキヘビと格闘し、からみつかれるショーから始まり、その他にもワニを水中から引っ張り上げたりして、ワニと一緒に踊るなどいろいろなショーがあった。ワニに襲われても平気そうだと書いたが、しっぽを引きずられて暴れてるのを見たとき、やはり襲われたりしたら危ないなと思った。ショーも終わりに近づくと、体長が2メートル程もあるような大きなワニを水から引きずりだした。口を大きく開けさせていたので頭でも入れるのかなと思って期待していたが、水にぬらした紙をワニの口の縁に置いて取るだけだった。それだけでも十分危険かもしれないが、少し期待はずれであった。ショーは結構楽しめたが、ワニが勝手に芸をすればもっと面白かったらと思う。

「ハイパービラの雨と蟻」

金光八尾高校 西川麗子

第4日目の空は生憎の雨模様でした。最終日ともあって、大部分の人がシンガポールの土地に慣れて来たところでした。ここハイパービラでは約2時間の自由時間がありました。しかし、たっぷり時間があつたというのに雨のため、お土産屋さんや、飲食店などにいた時間の方が多かったように思います。少し雨があがつた頃に、ぐるっと廻って見ましたが、そこはなんとも言えない中国神話の世界で、綺麗というか、めずらしいと言うか、とにかく写真ばかり撮っていました。

何が一番印象的かというと、私はここでアリにかまれた事です。入口でかたまっていた時に、なんとなく手や首でごそごそと動くので見てみるとアリが2、3匹いるのです。その蟻は日本のアリとちがって赤いアリでした。次に印象的だったのは、橋のような物があつたところで霧が出ていたことです。好意的に出してあつた霧でしたが、みんながとても楽しそうで、最後にいい思い出を作ることが出来ました。

今日が最後なんだと思うと、なんとなく悲しい気分でしたが、この土地で学んだ現地のインターアクターとの思い出、数々の経験をする事が出来た事を日本に帰ったらいろんな人に伝えようと思いました。

よ
う
こ
そ



HAW PAR VILLA
DRAGON WORLD



3.フォーシーズンズ・シアター

HAW PAR VILLA
SINGAPORE



ADMIT ONE

「第4日目」

金光八尾高校 源 石 真美子
三 浦 教 子

私はいつもより30分早く同じ部屋にいる友達に起こされた。昨日の疲れが残っている気さえしたが、第4日目を迎えるにしてはとても早い気がした。それは現地で知り合ったインターアクターの人達ともなじんできた頃なのに、昨日が最後だなんて信じられなかった。楽しい時など時間というもの皮肉にも早く経つものだ。

私は上手に英語を話せるわけではないのに、いつまでも今いるこのシンガポールにいたい気持ちが強かった。現地のインターアクターはもちろん、他校のインターアクターの友達ともすっかり仲良くなり始めている時だったので、とてもはがゆい思いをした一日だった。

最初に行ったのは、ジュロンバードパークでした。ペンギンや色とりどりのインコを見ました。原色で、赤や黄色や緑の鳥たちがとてもたくさんいました。ワシ達のショーも見ました。見たこともない大きなワシが、ピョコピョコと人について歩いているのは何とも言えないかわいい光景でした。その後、学校単位で行動したのですが、運が良いのか悪いのか、友達4、5人はぐれてしまいました。この時まで、片言の英語でも通じていたとはいえ、冷汗がでました。周りにいる現地の人に、メインゲートはどこかを聞こうと英語でたずねても、中国系の方だったらしく全く通じませんでした。集合まで少しの時間しかなく、売店の人や大学生ぐらいの人に何度か教えてもらい、やっとメインゲートに着くことができました。でも、本当にいい経験だったと思います。

それからクロコダイルパラダイスへ行きました。何十匹ものワニが群がっているのには驚かされました。ハイパーヴィラに着くとあいにくの雨でした。アリにさされたちょっとしたハブニングもありましたが、幻想的な世界でおもしろいでした。アラブ人街、インド人街を観光した後、買い物に行きました。向

こうの人は、日本語も通じるし、円で買い物もできるのでまるで日本にいるようでした。

その後、足どりが重くなり夕食を食べた後バスで空港へ着いたが、まっ先に驚いたのは現地のインターアクターの人達が見送りに来てくれていたことだった。私はそこですっかり親しくなったLILYとSARINA達と再会できた。普段は人の前では泣かない私が、二人を前にして別れるつらさとわざわざ見送りに来てくれた行為に感激のあまり泣いてしまった。そして、いままでの思い出話や、教え合った歌などをもう一度繰り返していっしょに歌いあった。しばらくしてからLILYとSARINAが私にすがりつくようにして泣き始めた。私はあまりの驚きで、声さえ出なかった。現地のインターアクターの人達が、別れの歌を歌い合っている姿を見て思いがこみあげそうになった。そして全員で写真を撮った時に、私はLILYとSARINAの間に入って肩を組み合い、頭と頭をくっつけ合いながら写した。最後にみんなで大きく手を振って最後の別れをした。私は今だにその感動が忘れられない。



「最終日 - 別れ」

大阪市立東高校 増田 裕美

大阪を出た時、うまくしゃべれるかと、不安でいっぱいでした。シンガポールに着いた時、これから何があるんだろうと、期待でいっぱいでした。セントーサ島で現地のインターアクターと初めて出会った時、うまく聞き取れなくてははらしました。この4日間、ずっと不安と期待とが入り交じっていました。決して上手とは言えなかった私達の英語を、彼らは、一生懸命聞き取ってくれました。彼らの英語を一生懸命、日本語に訳した私達でした。何事も一生懸命やれば、相手に伝わると教えてくれた旅でした。やっぱり行ってよかったなあと思います。

私達が向こうに行った時、彼らにはテストがあったそうです。にもかかわらず、私達と交流した現地の友達のほとんどが、夜の9時30分という時刻なのに送りに来てくれました。最初私はせいぜい数人だろうという思いだったから、空港に着いた時、すごくうれしかったです。最後の写真を撮ったり、プレゼントを渡したり、住所を交換したり…。「ほたるの光」を歌っていた学校もあり、絶対泣かないぞと思っていたのに、涙が出てきました。別れが近くなるにつれ、胸がいっぱいになってきました。みんな、すごくすごくいい人たちで、帰りたくない気持ちでいっぱいでした。言葉はうまく伝わらなかったけど、みんなみんな、大切な友達です。女の子で、泣いて抱きしめてくれた子もいました。「Bye-Bye!」「See you again!」簡単なとても短い言葉でしか別れを告げられなかったけど、それさえ言うのが精一杯な状態でした。最後に彼らは歌を歌ってくれました。その時、いろんなことが思い出されました。屋台で出会った若いご夫婦のこと、買い物で出会った新しいお店の日本語の上手なおじさんのこと、老人ホームでゆかたを着て汗をかいてた私達に、うちわを貸してくれたおばあちゃんのこと。みんなみんな素敵な人ば

かりで、みんなみんな素敵な事ばかりでした。ふと周りを見てみると、みんな泣いていたり、目を赤くしていたりしていました。最後の最後まで、手を振ってくれたみんなの顔が忘れられません。

彼らと別れた後、“卒業したら、もう一度来よう”とみんなで約束しました。そして、その時には、もっと上手に英語を話せるようになっておこうと思います。彼らとも約束したことだし、それに何よりも私自身、シンガポールが、彼らが気に入ったから。

この旅で、私は素敵な友人をたくさん得ました。でもそれ以外にももっとすばらしい物を手に入れたと思います。それが何か、具体的に答えは出て来ないけど、でも私にとってプラスとなったことが多いと思うのは、ただの気のせいじゃないと思います。この研修旅行は、私の中で、忘れ難い大切な思い出となることでしょう。



最後のあいさつ

R. I. 第2660地区インターアクト代表

金光八尾高校 三浦教子

私達第2660地区インターアクターは期待と不安に胸をふくらませながら、23日朝、日本を飛び立ちました。5時間あまりの飛行のうち、現地チャンギー空港に着き、その日は市内観光をして、一日が終わりました。

2日目。午前中、一番印象に残ったのは、日本人墓地の参拝でした。日本人墓地では読経を行い、死没者のごめいふくをお祈りしました。それから日本に背を向けて立っている墓石の前で、彼女たちの悲しみを感じ、涙があふれそうでした。午後には今回の研修の一番の目的である現地インターアクターとの交流のためセントーサ島へ行きました。みんな明るくやさしい人たちばかりで、たのしくすごすことができました。

3日目。昨日にひきつづき、交流のため、午前中はフォーラムがありました。みんなそれぞれグループに分かれて、情報を交換したり、歌を歌ったりと、昨日にまして親しくなることができたと思います。

昨日は、午前中にジュロンバードパークとクロコダイルパラダイスを観光し、午後は、ハーウーバーヴィラ、インド人街、アラブ人街などを観光しました。その後ショッピングをして、最後の食事をとりました。そしてとうとう現地のインターアクターとも、シンガポールともお別れすることになりました。だれもがみんな、また必ず会おうと約束し、涙のお別れをしました。

この5日間のすべてのことが、とてもためになり、私達には忘れることのできない、よい研修だったと思います。

最後になりましたが、四天王寺高校の田中先生、沢田先生、ホスト校である四天王寺高校のみなさん、私達を引率して下さった顧問の先生方、いろいろな形で協力くださったロータリーの方々、本当にありがとうございました。

【副会のおさしり】



See you again!

【心と心の会話】

— 旅を終えて —

「言葉は違っても…」

明浄学院 森島 泰子

8月23日、私達インターアクターは、不安と期待を胸いっぱい膨らませ、シンガポールへ旅立ちました。期待することは、数えきれないほどたくさんありました。でも、不安はたった一つ、「心」です。海外へ行くのは2回目で、初めての時、英語力の無さを感じ「ぜったい英語が話せるようになりたい!」と思いました。が、後から考えて「えっ」と思いました。それは言葉はカンペキに通じていないのに知らない間に親しみ、友達ができたということです。言葉はカンペキでなくても、心が通じたということだと思います。それに現地インターアクターも私達とほとんど同じ年代なのだから、考えていることも思いも同じだと思います。これは初めての時感じたことで、とてもいい経験をさせてもらいました。それならば、今年2回目何を心配することがあると思いますが、最初に書いたように「心」です。

言葉は、自分の努力次第でどうにかなると思って安心していた分、今回は、心が通じるかどうか意識しすぎて、とても不安でした。でもこの不安はすぐ解消されました。解消させてくれたのは、現地インターアクターの明るさと陽気さでした。あの人達のあの明るさは、まだ小さな子供のように感じられ、英語力の無さと同じように、元気の無さも感じました。

心は、相手と自分の問題で、本当に通じあうかとても不安でしたが、現地インターアクターは無意識のうちに、私達を不安からとりのぞいてくれました。その姿は、目に見えるようで、感動してとてもうれしく思いました。

私達の方は、現地インターアクターに何もすることができませんでした。言葉は通じなくても、心だけは通じてもらえるように努力しました。その努力と心は、別れの時、あの空港であらわれたと思います。あの時の“あの涙”だけは、もう二度と見ることはないと思います。でも、もう一度あの場面を、再現できるなら、どんなに……。

この旅と出会いと心は、私にとって、どれだけプラスになったことでしょうか。私はあの涙で何か一つ成長したような気がします。

最後に、現地のインターアクターへ、出会いと心と涙をありがとう。



「空港で」

大阪桐蔭高校 福本 一 仁

僕が大阪空港へ着いた時には、まだほんの少しの人しか集まっていなかったが、みんな目が生き生きとしていて、大変楽しそうだった。インターアクターのほとんどが、海外へ行くというのが初めてだったので、自分も含めていろいろと、これからの事を考え、胸がふくらんでいたにちがいがなかった。そして空港でみんなが結団式の部屋に入った時には、とうとう自分も海外へ行くんだと実感した。インターアクトの歌をうたい、ロータリーの先生方の話も終わったころには、気分はもうシンガポールだった。

帰りのシンガポール空港では、どことなく悲しそうな顔をしていた。あっという間だったシンガポールとも、これでお別れだ。シンガポールで出来た多くの友達とももうこの空港を出れば、二度と会えないから、つらくなるのも当然だったのかも知れない。やはり泣いた子もいた。自分もいつしか泣いていた。空港で始まり空港で終わった今度の研修は、心から楽しめ、4泊5日の短い期間を有意義に過ごせた。これからのインターアクターの人達も外国へ行き、いろいろなことを学んで欲しい。



「シンガポールと日本との違い」

大谷高校 竹野 文 江
南田 明 葉

R. I. 第2660地区のインターアクターである私達は、8月23日、シンガポール航空 SQ085便にて、定刻通り12時30分に大阪国際空港を飛び立ちました。

飛行機の中では、もうシンガポールに到着した気分で、4日間の過ごし方や現地のインターアクターとの交歓会の話でもちきりでした。そして約6時間後、シンガポール・チャンギ国際空港に着きました。大阪国際空港と違い、大変広く、また綺麗でした。空港から一步外へ出てみてもその印象は変わらず、熱帯地方特有の色鮮やかな植物で一杯でした。思っていた程、暑くなくて、日本の夏とあまり変わりませんでした。

シンガポールでの移動はすべてバスでした。一番最初に観光したのが、あの有名な“マライオンパーク”でした。マライオン像をバックにみんなでインターアクトの旗を囲んで記念撮影をしました。そこで気付いたことは、日本の観光地だとゴミ箱が置いてあるにもかかわらず、ゴミやタバコなどが無造作に捨ててありますが、シンガポール国内ではそのようなことが全くないのです。ここではゴミ・タバコなどを道に捨てると、最高でシンガポール500ドルの罰金が課せられるのです。もし日本でこのような法律を決めても、シンガポールのようににはならないと思います。この国の人々は、自分達の意志でゴミを捨てないのだと思います。

また喫煙についても厳しく取り決められていて、デパート、ホテルなどの室内冷房のきいた場所では喫煙が禁止されています。私達日本人は「自分一人ぐらいはいいだろう」という考えが強く、他人の迷惑は考えません。しかし自らが気を付ければ、良識あるマナーを身に付けていけるとと思います。

他にも、文化や習慣の違いを数多く知ることができましたが、シンガポールの良い点は日本に、日本の良い点はシンガポールに伝え

「シンガポールの気候について」

四天王寺学園 長谷川 由 佳

シンガポールと言えば、1年中、日本でいえば夏で、とっても暑く、よくスコールがザーとふり、1時間ぐらいたつと、すっかり雨はやみ、からっと晴れる所だと思っていました。しかし、どの日もあまり晴れ間がありませんでした。

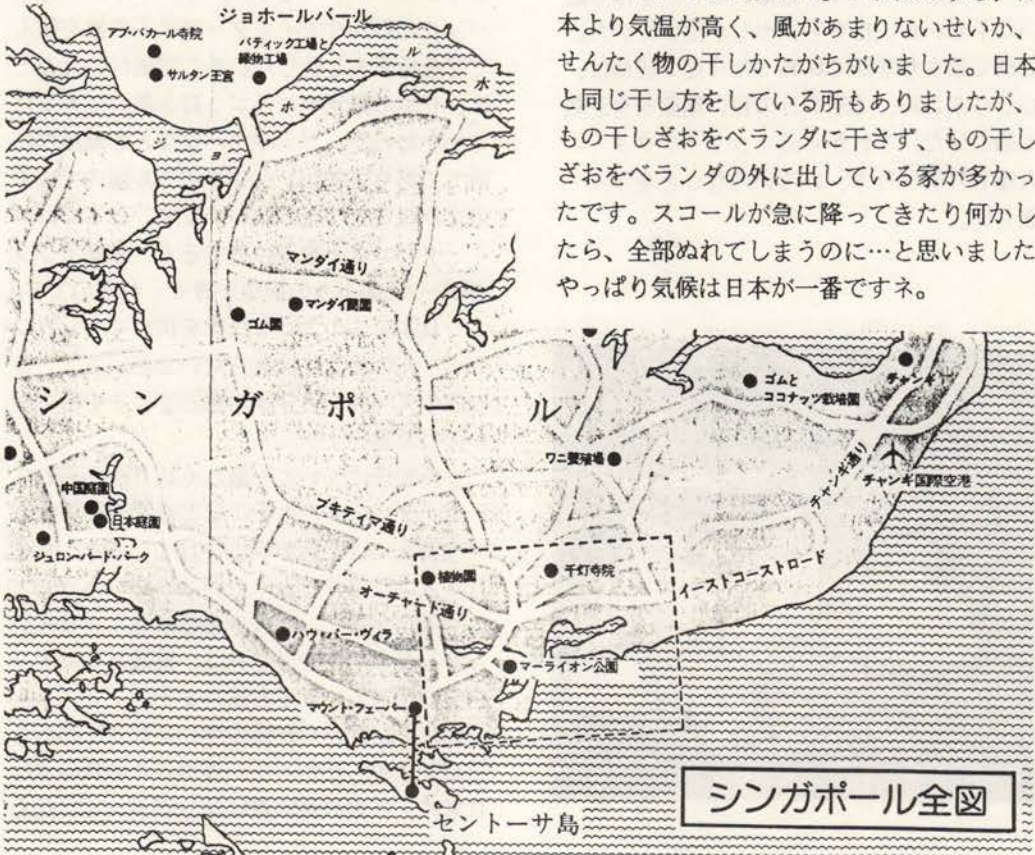
雨は、タイガーバームへ行った時に少し降っていました。あとは、朝起きた時に降っていましたかバスに乗る時にはもうやんでいて、特に困ってしまう様なことはあまりありませんでした。

気温は、地理では、日本よりもすごく暑いとなりましたが、わたしは、シンガポールより大阪の方が暑いと感じました。しかしシンガポールはとてよくクーラーが効いていて、半そでだとすごく寒く、うえに何かはおらないとかぜをひいてしまうくらいでした。わたし達がいった時は、そんなにも暑くなかったからかもしれません。それはそうと、日本より気温が高く、風があまりないせいか、せんとく物の干しかたがちがいました。日本と同じ干し方をしている所もありましたが、もの干しざおをベランダに干さず、もの干しざおをベランダの外に出している家が多かったです。スコールが急に降ってきたり何かしたら、全部ぬれてしまうのに…と思いました。やっぱり気候は日本が一番ですネ。



ていけば、この海外研修の意義も深まると思っています。

最後に、この研修旅行を実りあるものにするために協力して下さいったロータリーの先生方や各学校の先生方、そして両親に、深く感謝します。



「シンガポール」

四天王寺学園 大杉 真有美
羽柴 菜津子

飛行機を降りて、いつのまにか動き出していたバスの窓からのぞいたシンガポールは、あまり、外国だという気がしませんでした。日本じゃないんだな…と思ったのは2日目に、同じグループの現地インターアクターとの挨拶が英語だった時でした。でも、そのあとは、何か話さないといけないと思いつつも、最初の一言がなかなか口に出せなくて、どうしようかと思いました。それでも、現地の人たちは、私たちの、たどたどしい単語を並べただけのような英語や、ジェスチャーを、一生懸命に理解しようとしてくれました。それに辞書を持って来て、日本語を話してくれたりもしました。だけど、セントーサ島での自由行動の間は緊張してしまって、セントーサ島から出る時ほどは多く話せませんでした。もう少し、私に英語力があれば、あちこち案内してくれる現地の人たちに、ちゃんとお礼も言えるのに…と、少し情けなく思いました。

昼の間は、何となくぎこちない部分もありましたが、暗くなりかけた頃には、少しずつ、うちとけていったような気がします。現地の人達の発音も、いくらか慣れてきていました。ホテルへ戻る途中のケーブルの中では、せっかく仲良くなれたのに…と、残念に思いましたが、次の日に会うことが楽しみになりました。

空港で別れる時は、つらかったけど、素晴らしい友達を、それも外国にもてたことをとても嬉しく思います。



「二つの大切なこと」

明浄学院 樽居 幸枝

私は、今回の研修旅行で二つの大切なことを学びました。一つは親切です。日本人はよく親切だと言われますが、シンガポールの人達は日本人が親切だと言われている以上に親切だったと思います。現地のインターアクターと一緒に過ごしたセントーサ島での楽しい一日、そして市内での買物や食事、どれを思い出してみても日本人にはない“暖かさ”でいっぱいです。私達が外国人だから、それであういうふうに接してくれたのかも知れませんが、それでも私は嬉しかったです。自分は今まで「親切」というものを心掛けてきたつもりですが、今回現地のインターアクターと接してみて、それがまだまだ欠けているということを実感しました。欠けていた理由として、私は積極性と気軽に話しかけるということがあると思います。現地のインターアクターはみんな、どの子にも気軽に話しかけていましたが、私には初対面の人とはあんなふうに上手く話をする事が出来ません。緊張してしまうからなのですが、いつまでもこうだと駄目だと思うので、とにかくこういう所から直していかなければならないと思います。こういう所を直せば、私もシンガポールのインターアクターのように、いろんな人達に「親切」が出来る様になるかも知れません。

もう一つ、私はシンガポールで学んだことはというより知らされたことは「戦争」についてのことです。シンガポールは楽しい観光地として知られている反面、戦争での悲しい一面を今でも背負っているということを今回初めて知りました。恥ずかしながら、私は今まで観光地としてのシンガポールしか知らなかったのですが、今回日本人墓地へ行った時とてもショックを受けました。からゆきさんのことなどは、あそこへ行かなければ知らなかったことです。遠い異郷の地で、悲しい生涯を終えてしまった彼女達は今、自分のお墓がどういうふうに着てられている事さえ知りません。来たくて来た国じゃなく、売られてや

って来たこの国で、悲しい一生を送ってしまった彼女達を本当に哀れに思います。今なら、楽しい気持ちで訪れることの出来るシンガポール（私達も含めて）、昔と現代のあまりの違いに少し戸惑いを感じました。

この様に、今回の研修旅行では目的である国際理解以外に、人間の暖かさと普通の観光では知ることの出来ない戦争のつめ跡を知ることが出来ました。そして同時に、視野・考え方の狭さも思い知らされました。現地のインターアクターを見ていると、「ああ、何と私は考え方が堅いんだろう！」と、つくづく思いました。これからこの研修旅行で体験したことがどういうふうに影響するかわかりませんが、一つ一つを無駄にしない様に色々なことに役立てていきたいと思っています。

「海外研修に行くにあたって」

清風学園 福中大樹

海外を自分の目で見たい。わたくしは、小さい時からそのように考えていました。今回事業的な企画に参加しようと思った理由は、わたくしの心に、日本と外国との距離、つまり、日本と外国との文化的・経済的・政治的ずれを日本にいて一方を見るのではなく、外国に行き日本を客観的に見て、よりの確に外国での日本の立場を把握し、日本に帰ってきて、学校みんなに、自分が学んだことを教えてあげたいと思う気持ちがあったからです。日本で生まれ育ったわたくしは、組織・思想・表現力・人格的感化力・どれをとっても、日本的であって国際的ではありません。しかしシンガポールに行って一つでも多く、そのようなもののシンガポールのものを学び、国際人になりたいと思い、この研修に参加することにしました。

「I. A. C. 海外研修参加にあたって」

清風学園 原 慎太郎

まず初めに、この海外研修の企画、並びに事前調査等、多くの準備を受け持っていたいただき、真にありがとうございました。此の度、僕も海外研修に参加できることを大変うれしく思います。

僕は1年時に、本校の交換留学生として、オーストラリアでホームステイをしたのですが、国際理解や国際親善、そして世界的な視点から見た日本の認識を深めようと思い、参加を申込みました。

自分は、ホームステイをしていた割には、英会話が得意ではないのですが、この機会に英会話の勉強もすすめたと思います。

行先のシンガポールという国は、もちろん行くのは初めてなのですが、今までは、あまりくわしくは知りませんでした。でも此の度いろいろと調べまして、だんだんと興味が湧いてきました。自分が今までたいして気にもかけなかった土地が、実はこんなに歴史があり、また、こんな人々が住んでいるのだ、ということも分かり、それだけでも世界に対するもの見方が変わったような気がします。

この海外研修では、外国を見てくることもありますが、現地での人々との交流を大切にしたいと思っています。また、僕にこの機会を与えてくださりまして、本当にありがとうございました。



「本当のシンガポリアン」

大阪教育大学付属高校 平野校舎

西 浦 香保里

内 山 はる奈

シンガポールの街を歩いてまず驚いたのは、中国系の顔立ちの多さでした。シンガポールは複合民族国家で、その主な民族には、華人と呼ばれる中国系が全体のおよそ77%を占める他、土着のマレー系が15%、インド系6%、ユーラシアン（西洋人と東洋人の間に生まれた人）、西洋人などが2%を占めています。しかし、実際に歩いてみると数字で見る以上に中国系の人が多いのに驚きました。私達の中で、シンガポールといえばイギリス植民地時代の印象が強いからかもしれません。

3日目に行った老人ホームでも、ほとんどの人が華僑の方で中国語しか話せません。それも出身地方によっていろいろあるらしく、私達のお話しした方は福建語を話しておられました。公用語は英語だからどうにかなるだろうと思って行った私達には、なけなしの英語も役に立たず、シンガポールのインターアクターの通訳にたよりっぱなしでした。

私達が2日間にわたって交流したシンガポールのインターアクターたちにも、中国系の顔立ちが多く、ほとんど全員と言ってもいい程で、名前にもそれが表れていました。東南アジアの華僑については勉強して知っていましたが、シンガポールにもこれ程多いのには驚きました。

しかし、2日目のセントーサ島、3日目のフォーラムやパフォーマンス、夕空のもとと一緒に食べる夕食と交流を重ねていくうちに、それが間違いであることに気付いたのです。

彼らは、私達が一緒にすごした若いインターアクター達は、決してシンガポールに住む華僑ではなくて（華僑には外国に定住する中国人という意味があります）、シンガポールで生まれ育った中国系のシンガポリアン、シンガポール人だったのです。どこが違うのかと言われるかもしれませんが、これは大きな違いです。このシンガポリアンというの

は単なる国による人の分類ではありません。私達よりずっと積極的で、よく発言し、行動的な彼らを見ると、彼らが決して中国に帰属するわけではなく、シンガポールに誇りを持ち、シンガポールを愛して、あのシンガポールという新しい国に帰属するまぎれもないシンガポリアン達だということが分かりました。おおげさなようですが、彼らと話していると、多民族のよせ集まりのシンガポールではなく、シンガポリアンという一つの民族でできた一つの国が見えるような気がしました。例えば人種が違っていても、相手の生活習慣を無理やり自分達のものに変えていくのではなく、互いに違う相手を認め合いながら同居する。そんな国シンガポールに、彼らのようなシンガポリアンがこれからもきっと増えていくことでしょう。

「シンガポールの歴史」

金光八尾高校 山 本 昌 宏

岡 田 省 三

近 藤 清 志

シンガポールでの4泊5日の海外研修は思い出深いものでした。この海外でさまざまな事を学びました。私達はシンガポールのことをより深く知るという目的で、シンガポールの歴史を調べました。更に、現地のインターアクターから片言の英語で聞いた「シンガポールの歴史」をまとめてみたいと思います。

1965年にマレーシアから完全独立したシンガポールは、独立してまだ26年と新しい国です。ところが、シンガポールの独立までの歴史には、さまざまなことがありました。

その昔、今から900年以上も昔のことで、ジャワの王子が狩りにでかけたところ海で嵐にあい、シンガポールに流れつきました。そこで、王子はいままで見たことのない珍しい動物、“ライオン”に出会ったのです。そこで王子はこの国に、「ライオンの島」を意味する、マレーの言葉で「シンガプーラ」と名

つけたそうです。この伝説から、ライオンがこの国のシンボルとなったそうです。

王子がたどり着く前、この国はマレー語で「テマセク」、港町という意味の名前で呼ばれていました。ずっと昔、この地に住んでいた人達は漁師として豊かな海から恩恵をこうむっていたことからだそうです。多くの海路が交差するマレー半島の南端に位置し、その名前の通り、古くから港町として栄えてきました。そして、1819年イギリスのラッフルズ卿がシンガポールに上陸しました。シンガポールはイギリス領となり、学校や港湾施設が整備されて、各国からの移民が流入するなど、東南アジアにおけるイギリスの重要な貿易港として急速な発展をとげたのです。

このようにシンガポールの発展には海に非常な係わりがあります。このことから魚の尾がシンガポールの語源となったライオンにつけられて、「マーライオン」となりました。マーライオンはシンガポール再発見を象徴しシンガポールの歴史を表現しているのです。

その後、第2次世界大戦にてシンガポールは日本に占領されました。この占領は終戦まで続き、民間人に多数の犠牲を出しました。戦争は悲しみや犠牲しか生み出しません。ですから、この事は戦争の中でも最も深く考えなければならぬことの一つだと思います。

第2次大戦後は、しばらくイギリスの植民地となり、その後一時的にマレーシアに合併していました。けれども1965年には念願の独立を果たし、第2次大戦後、奇跡とも言える急成長をとげたのでした。現在では、世界第3位の貿易港としても栄え、アジアの中では日本に次ぐ高い経済力を持っています。

歴史を学ぶと、その国の文化も自然とよく理解できるようになります。今回は、シンガポールについての歴史を少し学びましたが、日本が国際社会で重要な役割を果たすようになる中で、もっと多くの国の歴史を学んでいきたいと思っています。

「シンガポールへの旅立ち」

金光八尾高校 津田 麻里亜

7月20日にパスポートの申請のために中小企業会館へ行きました。パスポートを申請するのは初めてで、これを持ってシンガポールへ行くんだと確信しました。本校では7月23日～27日までと8月19日～20日までにシンガポールへ向けて研修を行いました。初めての研修では英会話を中心に自己紹介の練習などをしました。本校にカナダから留学生として来ていたLBARや米国ワシントン州のベルヴィ市から来たCHADとCABLYN達と話す機会があり色々勉強になりました。

8月19日～20日の研修は金光教梅田教会で1泊2日という形で行われ、そこでは英会話の練習や老人ホームの方々にプレゼントする折り紙を折ったり、交歓会で発表するための歌や踊りの練習をしました。1泊したということもあり、私には以前よりまして連帯感を得ることができ、また団結するということの大切さを学びました。そして8月21日には大谷高校へ盆踊りの練習に行きました。清風学園の方や本間先生をはじめ色々な先生方に指導していただきました。8月23日は朝10時に大阪空港へ集まり結団式が行われ、和田委員長や旅行社の方々のお話がありました。その時は「シンガポールなんて」とたかをくくっていた私でしたが、外国へ行くのが初めての私は手荷物検査や出国手続きをする時などは、ドキドキしてどうして良いのか分からなくてとにかく前の人のまねをしようと思死でした。また飛行機に乗るのも初めてだったので、シンガポールへ行くことよりも落ちないか心配でした。飛行機の飛ぶ瞬間は極度の緊張と不安と期待が混じり、思わず泣いてしまいました。しかし、実際、離陸してみると少しゆれる程度で飛んでいるという感じがしなかったので安心しました。けれども、次に再び別の不安が心に大きくなるのしかかってきました。24日のセントーサ島のフリータイムで、シンガポールのインターアクターと「仲良くなれるか」とか、「ちゃんと話せるか」とか、

交歓会で「うまくうたえるか」などが次から次へと浮かんできました。シンガポールに到着してからはこれからの4日間、国際的な交流を積極的に行い、普段味わえない経験をして将来の役に立つように何かを学ぼうと決意を新たにしました。



「シンガポールは、美しかった」

大阪桐蔭高校 三谷 健
岡野 俊一郎
奥山 進史

うわさ通り、シンガポールは美しかった。市内観光時ゴミを見つけようと下を向いて歩いてみても、ゴミを見つけ出すことが難しいくらいだった。街の中のいたる所には、ゴミをその辺りに捨てたら罰金500ドル、1,000ドルというような看板が目についた。しかし、警察官がゴミをその辺りに捨てないように見張っている様子は全くなかった。それなのに街にはゴミは落ちていなかった。つまりシンガポールには、その辺りにゴミを捨てるような人はほとんどいないから、警察官等の監視する人は必要なく、言ってしまうと、罰金を記した看板も必要はないわけだ。

ところが、日本はゴミを捨てられていて当たり前という状況である。どうしてシンガポールと日本とはこんなに違うのか考えてみた。

シンガポールの地下鉄に乗った時のこと、駅内にはゴミをその辺りに捨ててはいけないことを記した表示以外に、禁煙と、飲食禁止の表示があり、これらを破ると罰金500ドルということだった。禁煙ならば、タバコをポイ捨てする人も出ないし、飲食禁止ならば、空き缶や空きビンというゴミも出ないわけだ。しかもシンガポールの地下鉄の駅内には、ゴミ箱すらなかったような記憶が残っている。ゴミを捨てる、捨てないの問題の前にゴミが出ないのである。

反面、日本では、駅内でタバコを吸うこともできるし、飲食も自由であるから、当然ゴミは出るわけである。だからゴミ箱も備えつけられている。もしゴミ箱が備えつけていなければ、駅内はゴミの山であろう。ゴミ箱が備えつけられていても、ゴミは駅内のあらゆる所に捨てられているのが現状だから。

日本でも、罰金制度をもうければ少しはきれいになるかもしれない。しかし、罰金制度があれば捨てないが、なければ捨てるという考え方は、間違っていると思う。シンガポールでは、罰金制度がなくなったとしても、街中が汚くなるとは考えられない。要するにシンガポールの人々と日本人とでは、考え方が大きく異なっているのだと思う。

僕達がシンガポールから帰国して空港を一步踏み出した時、ゴミの中にあるような気さえした。シンガポールで僕達の案内やいろいろな世話をしてくれた現地のインターアクター達が、この冬日本に来るといふ。シンガポールにたった4日間滞在しただけで日本中がゴミ箱のように思えたのだから、生まれも育ちもシンガポールのインターアクターの反応が想像できる。彼らに日本が汚い国であると思われるのは仕方ないけれども、今後彼らが何度か日本を訪れてくるうちに「日本はきれいになったなあ」と言ってもらえるような国にしていくよう努めるべきだと思うので、自分自身から心を改めようと思う。

「研修感想」

浪速高校I. A. C. 顧問 本間 靖彦

「ゴメンナサイ」「ゴメンナサイ」何度も両手を前に合わせて生徒達に詫げるその姿がとてもしらしく、胸にぐっとくるものを感じた。オーチャードロードのハンバーガー店で、見送りの空港ロビーで……。実は三日目の市内観光でホストをつとめてくれた二人の少女が、夕食を予定した店で食べれなく、ハンバーガーで終わってしまった事に対してのお詫びの姿であった。

シンガポールのアクターはみんな純真で、一生懸命ホストを努めてくれた。身振り、手振り、ペーパーカンパセーション、実によくやってくれた。街を歩く時には小さな少女が大きな男子を前後に挟みスリ等の被害から護り、ショッピングでは目的の定まらない生徒に気を使いながらの案内はとても疲れた事であろう。引率者としてこの二人に心より礼を言いたい。

そして、深夜の空港での見送り、本当に頭が下がる。たった一日半の交流でこれ程までに打ち解けるアクター達がうらやましい。若者の特権であろうと思う。と同時にもし逆の立場で日本がホストであったらこれ程できるだろうかとも思う。交流に不慣れな日本のアクター達はただ「楽しかった、良かった」と喜ぶだけでなく、用意周到な準備のもとで我々を迎えてくれたシンガポールインターアクター達の姿も今後の活動の手本としてしっかりと胸に刻んでおいて欲しい。そして、近い



将来、今度はホストとしてシンガポールインターアクターを迎える事ができる事を願って、今回の研修の感想としたい。最後にロータリアンの皆様方と実施にあたって苦勞された和田健委員長、ホスト校の田中真康・沢田玲子両先生に心より御礼を申し上げます。御苦勞様でした。

「海外研修旅行に参加して」

明浄学院I. A. C. 顧問 大 淵 勝 敬

今年度始めにI. A. C. の顧問をおおせつかりはたしてI. A. C. とはどの様な活動を主体としているのかは全く無知の状態であった。毎日の活動を通して色々な事を聞き、経験して行く間に何となくと言った感じでその内容が見えて来た。と言っても、まだまだ私自身手さぐりの状態である。もちろん、今回のシンガポール海外研修は私にとって初めての事であり、何をどういうふうにして良いのか、全くわからない状態のまま準備は進行していった。そして出発。クラブ員にとっては、その趣旨である海外で見聞を広めると言う事はもちろん、私にとっても他に得がたい機会が与えられた事に感謝する。

現地に着いて、先ず、おどろいた事は、道路行政の素晴らしさである。青々とした樹木の多さ、目の休まる木々の緑である。街の光景にもおどろかされた。日本では目にかかる事のない素晴らしさを見聞する事が出来た。

現地のI. A. C. との交流も互いに解け合い話のはずんでいる姿は美しいものであった。セントーサ島での自由行動、現地I. A. C. と共に行動した日本のI. A. C. 達、互いにゲームで楽しみ、互いの友情を深めて行く姿。老人ホーム慰問、浴衣姿で踊った河内音頭、ホームに住む老人一人一人がどの様に感じたであろうか？

一人のおばあさんは浴衣姿の子供の手を取りその姿に、なつかしそうな目を向けていた光景には、胸のうたれる思いであった。ホームを訪れて良かったと心から思った。その夜の、オーチャードロードでの自由行動、現地 I. A. C. の懸命の案内、より多くの思い出づくりに協力してくれた事に心から感謝する。

この様な平和な姿を見ている限り世界の大きな変化を感じさせるものは何一つない様に思われる。しかし、現実には世界は大きく変化している。その激動の中で、たとえ小さな輪であっても、この美しい波紋を一つ一つ広げて行く事の大切さを、この研修旅行に於いて痛切に感じさせられた。世界の平和を築くのはこの子達だと……。

今回のこの研修旅行は本当に有意義でありかつ実り多いものであったと確信する。この研修旅行を企画して下さい、ロータリアンの先生方、又、幹事校として、お骨折りいただいた四天王寺 I. A. C. 顧問の先生方、そして全ての方々に心から感謝する次第である。

「91年度シンガポール研修旅行」

明浄学院 I. A. C. 顧問 山川 義 昭

明浄では今年の参加者は10名で3年が5名、1年が3名、2年が2名の構成であった。結団式の集合状態は良好であった。

さて、S'pore 着後1人軽度のbad sailor（飛行機酔い）になったくらいでまず大したこともなく安心した。専用バスに乗り、S'pore のシンボルであるマーライオンを見ながらガイドさんの説明でライオンにマーがつくのは半獣半魚の半魚（海に関係している）故だと聞いて納得する。カニング公園の屋台の灯を眺めつつ宿舎のオーキッド（蘭の花の意味）ホテルに入る。

翌24日は盛り沢山の行程であったが各々大変有意義な時間を過ごした。特に印象深かったのは日本人墓地での生徒のマナーの良さであった。各々インターアクトの意義を承知しての参加であった点が伺えた。セントーサ島では集合場所が当初予定の場所とは異なっていた点今後の反省事項としたい。しかし生徒達が言葉の障壁を越えて現地インターアクター主導のゲームに興じている様子は「若さ」という共通語のしからしめるものであろう。

25日午前中はフォーラム、午後は老人ホーム慰問と街の散策という日程であった。先ずフォーラムであるが、これ又言葉のバリエーションはあったがパフォーマンスで雰囲気は盛り上がった。午後の老人ホームでの河内音頭の披露は文字通り汗だくの熱演で、見ている老人達の顔が次第にほころんでいく有様で、大成功であった。又この老人ホームの経営が英国の軍によって行われていると聞き、今尚英国とS'pore の絆の強さを認識させられた。夕方のオーチャードロード散策であるが、現地インターアクターの案内で出発したが、学校、班によって当初予定の現地インターアクターが他校に随行する事態が起り、少々混乱した。或る程度の混乱は予想されたが、この点も今後の反省事項の一つとしたい。しかし短時間を有効に活用できたのは現地インターアクターのお蔭であった。本当によくやってくれたと感謝の気持ちである。

26日はジュロンバードパーク、クロコダイルパラダイス、そしてエキゾチックな佇まい、生活様式の一部を伺い知れるインド人街、アラブ人街を車内から見学でき、なかなか楽しいものであった。最後に免税店で土産物の購入となったが、各々心によい思い出という土産を抱いて真夜中の出国、そして一行無事帰阪で今回の研修旅行はロータリークラブ、幹事校等々のお蔭で成功裡に終了した。

「海外研修を終えて」

清風学園I. A. C. 顧問 宮崎紀元

8月27日、午前8時30分 SQ86便は無事大阪国際空港に着陸し、7時間の空の旅は終わった。この空港から一路シンガポールに向けて飛び立ったのは8月23日正午であった。

この旅の目的はインターアクター達の「国際理解」「国際親善」「社会奉仕」を体験し将来の日本を担う国際人としての資質醸成を計るため国際ロータリー2660地区が企画したものであった。出発当日、空港に集まった選ばれたインターアクター達はまだ見ぬ異国を夢みながら、一方では一抹の不安を抱き大きな荷物をカウンターに預け、結団式の会場である「星の間」に三々五々集まってきた。会場には見送りのため多くのロータリアン・保護者・顧問の先生等も集まり賑やかなこと。

やがて定刻がやってきた。当番校の四天王寺学園I. A. C. 地区顧問代表の田中先生の点鐘で結団式が始まった。恒例のセレモニーが進み、やがて添乗員による搭乗の説明や必要書類の記入になる。さしもの現代っ子が神妙に注意事項を聞きながら真剣に書類作成に取り組んでいる様子に日ごろの生活態度を知っている顧問団はアクター達の不安な心境が痛いほど感じられた。

書類作成も終わり、一同は定刻に出国手続きへと進む。初めての海外旅行を体験するアクター達は、何か怖いものにでも接するような恐怖感を顔に表していた。それでも無事出国手続きを済ませ搭乗口に到着すると、もう無邪気にはしゃぎまわり、気分はシンガポールに飛んでいた。羨ましい限りである。

顧問にとっては、これからが苦痛の旅行となり気が重い、と言うのに……。

やがて搭乗の時刻となり全員機上の人となった。アクター達の顔は出国手続きのときに比べにこやかな笑顔であった。和気合々の内にSQ85便はシンガポールへと機首を向けて飛び立った。機内では映画を楽しむ者、音楽に耳を傾ける者、午睡を貧る者、雲に隠れ

て見えない地上を窓から覗き込む者、アクター達は様々にフライトを楽しんでいた。およそ7時間、「間もなくシンガポールに到着」の機内アナウンスが流れた。いよいよ研修の目的地シンガポール到着である。

荷物をまとめ空港に降り立つ。およそ15年前来たときよりも綺麗な空港であった。入国審査も簡単に済み、ロビーに出てみるとバスガイドが流暢な日本語で我々を出迎えてくれた。空港の外に出て、改めて熱帯の地に来たことを知らされた。蒸し暑い。パームヤシの並木南国情緒を満喫させてくれた。バスの中はクーラーが効いて涼しい。ふと外を見るとゴミが見当たらない。日本と大きな違いである。バスは間もなくマーライオン公園（ベイパーク）へと向かう。

常夏の国、美しい熱帯の花々に迎えられてシンガポールの象徴であるマーライオン公園に到着。思い思いに記念写真の撮影に時間を過ごす。象徴のマーライオンはベイを隔てて、白く、小さく見える。バスガイドに教えられて初めて気が付く程である。シンガポールの代表的な風景を堪能した。気が付いてみるとバスは同じ所をグルグル廻っているように思えて、ガイドに尋ねてみる。「シンガポールではすべての道は一方通行である」とのこと。納得。淡路島ほどの小さな国なのでそれで十分であり、交通渋滞を避けるための考慮と思えた。各所でサティ（屋台）が見られた。シンガポールでは夕食は家庭で取るのではなく家族揃ってサティで取るとのこと。費用は4人家族でおよそ10シンガポールドル(800円)とのこと。物価の低さを物語っている。ほどなくレストランにて夕食となった。アクター達は疲れもなんのその旺盛な食欲に少々驚いたが元気を思うと胸を撫で下ろした。食事も終わり宿舎に向かう。宿舎では現地のロータリアンをはじめインターアクター達が正装で我々を歓迎してくれた。現地のアクターから日本のアクターにシンガポールの国花である蘭の一枝をプレゼント（英国流マナーである）。我が男子アクターはやや恥じらいの顔付きで神妙にしていた。ほどなく歓迎のセ

レモニーも終了し、オリエンテーリングも終えて、各自荷物をもって各部屋へと散っていった。やっと一日が終わった。

8月24日 現地時間7時20分、午前中は日本人墓地に参詣した。墓地には日本仏教協会の手で御堂が建設され、墓標も綺麗に整備され15年前とは雲泥の差であった。

私達は、遠い昔にこの地に売られてきた「からゆきさん」や「太平洋戦争戦没者」のご墓前で、清風学園I.A.C.会長（東郷輝光）が「追悼の言葉」を朗読し、清風学園・四天王寺学園アクターによる「般若心経」読誦のうち、各校代表が齋然として献花・焼香を行い、ご冥福を祈った。

法要の後、田中先生による「からゆきさん」の話は満場の哀れを誘い、ハンカチでそっと目頭を押さえる女子アクターも何人かいた。追善供養がすむと三々五々墓地を巡り、一つ一つの墓標に合掌して廻った。

その後、現地アクター達との交流会のため夢の楽園「セントーサ島」へ渡る。船着き場に我々が到着したときにはすでに現地のアクター達が集合し、彼らは田中先生の発案で事前に発送されていたIDカードの写真と日本のアクター達の顔を比較しながら、手際よくグルーピングが行われた。島に着くと島内の散策のため各々散っていった。この半日はアクター達にとって苦痛の半日でもあろうと予想していた。しかし、その予想は見事に裏切られ非常に有意義な交流に変わっていた。

午後5時、現地のアクター達が「歓迎のパフォーマンス」を行うとのことで全員が美しいラグーン（海岸）に集合した。はじめは言葉もままならず、言っている意味の理解に苦しみ顧問の先生に助っ人を頼むアクターもいたが、身振り手振りで話しているうちにやっと軌道に乗ったようである。それからは両国のアクター達は帰宅の時間を忘れ熱中した。帰宅時間を気にする田中先生はいらだちを見せ、見かねた市立東高校の寛座先生が現地アクターのリーダーであるヨギ君に話をしてやっと終わりとなり、互いにお土産の交換をして解散となった。やがて日も暮れ、公園では噴水

音楽ショーがはじまり、楽しい夕べを過ごし、ロープウェーで帰途についた。海上30メートルのゴンドラから見るシンガポールの夜景は実に素晴らしかった。夜9時を少々廻っていたがそれでも別れを惜しんでバスターミナルまで付いてくる現地アクターもいた。特に女子のアクター達はいつまでも別れを惜しんでいた。「明日もあるので」と説得をして強引にバスに乗車させホテルへと引き上げた。

8月25日午前中はホテルで現地アクター達とディスカッションの時間を設けて相互の親睦と理解を深める交流会が企画された。また、昼食は合同で取り、続いて老人ホームを慰問。日本の女子アクター達は浴衣に着替え「河内音頭」を踊って見せたり、折り紙やロータリオンが用意したウチワなどをプレゼントし、現地のアクター達は歌を歌って（題名不明）高齢者を励ました。歩行体力がなく部屋にこもっていた人達にも女子アクター達は浴衣姿で一人一人の部屋を訪れ折り紙やロータリオンが用意したウチワなどをプレゼントした。ほとんどの老人は中国系女性で英語が通じなかった。アクター達は老人の一人一人の手を取って言葉が通じなくとも心の中で「いつまでも元気でね!」と励ましの言葉を送った。ある高齢者はお返しの品を必死になって探したが見つからなかった。その老人はアクターの手をしっかりと握り、涙を流しながらジーとアクターの目を見つめた。女子アクター等は感窮まり、思わず落涙する光景も見られた。



午後からはシンガポールの繁華街であるオーチャードロードに出て現地アクター達と共に自由行動としショッピングを楽しんだ。現地のアクター達は町の案内やショッピングに親切にエスコートしてくれた。この行動が日本のアクター達に「日本がいかに豊かで浪費が多いか。また外国の青少年がいかに経済感覚が優れているか。さらには国際社会では良い生活マナーを身につけることがいかに大切か」を考えさせた。

ホテルに到着。現地の3泊4日はなんと短い時間であったことか。明日は帰国である。明朝はキャッシャーが混雑するので今夜の内に料金の精算やパッケージの整理〔明朝ホテルを出発すると再度ホテルに帰らないから〕を済ませておくように注意があった。アクター達は早々に部屋へ戻り帰国の準備をした。

8月26日 朝からどんよりと曇った空を眺めながら、インド人街・華僑人街・イスラム人街などを車窓から見学しながらタイガーバーム・ガーデンに着いた。あいにくの雨でアクター達は予定の時間より早くバスに帰ってきた。

その後、デューティーフリーショップに立ち寄り家族や友人、母校のI.A.C.のメンバーのためのショッピングを楽しんだ。

空港に着くと大勢の現地アクター達が見送りに来ていて、あちこちで輪ができて写真を撮ったり、お土産や花束をもらったりして名残を惜しんだ。

「愛別離苦」は人の常。やがて無情の時間を恨みながら、再会を約して機上の人となった。互いのアクター達の脳裏に去来するものは何か……。

今回の研修旅行はアクター達にとっては「真心の大切さ」と「国際理解の大切さ」を深く心に刻み込んだ貴重な体験学習であった。

最後に、これらのアクター達が将来において、良き社会人となり、良き国際人として日本を背負って立つリーダーに育つことを期待します。

「涙の別れ」

大阪市立東高校I. A. C. 顧問

寛座 純一

たった2日間の交流会なのに、別れる時に何とも言えない寂しさを感じ、涙を流したのはどうしてだろう。

その答えは、経験した者でなければ実感できないでしょう。言葉を越えた交流ができた時、そして相手の誠意を感じた時、人は人間に感動するのです。

シンガポールに出発するまでは、交流会のことが不安で、面倒くさくても、もっと言えば、交流会なんかなくして、観光旅行だけであればよいのにと考えていた人もいるかもしれませんが。しかし、今は、あの交流会が最も印象に残っていることでしょう。いや、生涯記憶に残るといっても過言ではありません。

今回の交流会で、君たちが気付いたように、国際交流とは、英語力（語学力）ではありません。その理屈で言えば、英語圏以外の人々とは、交流できないことになってしまいます。英語が話せないというのは、恥ずかしいことではありません。少なくとも、外国の人は、日本人が英語を話せないという理由で、その人の人間性を否定しません。外国の人は、日本語がしゃべれないのだから、君たちが少しでも英語を話せば、すごいなと思っているはずです。君たちも、恥ずかしさの殻から飛び出して、自信を持って国際交流して下さい。



「海外研修会に初めて参加して」

金光八尾高校I. A. C. 顧問

中 林 眞佐男

確か、“Well prepared. Well done”という諺があると思いますが、今回の研修会は一言でいうとこんな印象でした。それ程、事務局の用意されたプログラム通りに運営され、何とトラブルもなく、楽しくまた有意義な旅行をさせていただきました。

私はインターアクト顧問として今回が初参加でした。その上、5年ぶりの海外旅行なので、少々那点で不安感を抱いていました。そこで、当校内でパスポートの準備から英会話まで少し指導した積りですが、果たして生徒が現地のインターアクターとうまく交流してくれるか現地に入るまで心配でした。しかし本番になるとさすがに若さと度胸で、現地のインターアクターと会話でき、手をとり合って笑い大いに交歓できたのには感心しました。セントーサ島のモノレールの中で、面白い会話風景を見ました。たまたま「下痢」の話になったのですが、その単語が分からず一人の生徒が形態模写を演じた所、これが見事にシンガポリアンに通じ、全員で大笑いした一コマもありました。

オーチャードロードの自由行動で、現地のインターアクターとの組合せがうまく行かず、少し心配しました。しかし、我々のグループには先方のリーダー格と数人がついてくれ、いきなり地下鉄に案内され驚きました。マリン・ショッピング・センターに行くというので、これに従う他なかったのです。入口に着くとアイスクリームを配り、夕食とショッピングは何時にするとはっきり指示してくれました。その後、また地下鉄で足早に引き戻り、伊勢丹でもショッピングができました。最後の集合時間8時30分に間に合うよう全員でバスの所まで走りました。この時、シンガポリアンの一人が足をいため、びっこを引いているのに気付きました。他の二人が彼女の肩を組み、私と一緒にバスにようやく着きました。“Thank you very mach”と言うと、彼女

は涙を流しました。ガイドを達成したという気持ちだったと思います。

このように、現地のインターアクターには先生方は一人もついていない。彼らは自分達で計画してプログラムを作り、そして実行しているのです。その上に「奉仕の精神」をいつも心の中にもっていて、日本のお客さまにサービスしようという行動が随所に現れていたと思います。その証明は空港に全員でやって来て、写真を撮り、別れを惜しみ、歌をうたってくれたことです。僅か3日間でこんな親しみと結びつきができたことは、今回の研修会の大きな成果だったと思います。

最後に、これを企画・運営された日本・シンガポールのロータリアンの皆様、四天王寺中・高等学校の先生方と各校顧問の先生方、JTBの皆様は厚くお礼申し上げる次第です。

「海外研修を振り返って」

大阪桐蔭高校I. A. C. 顧問

仲 谷 浩 一

「アジアに目を向けよ」これはロータリークラブからの強い要望で、前年度の香港に続き、本年度も同じアジア圏であるシンガポールが選ばれた。「今、なぜアジアなのか」その意味を改めて考える必要を感じた。日本は今まで欧米諸国を目標にし、アジア諸国を軽視しがちであった。そして、彼らを犠牲にし、彼らの期待を裏切ってきた。これは全く残念なことである。現在の日本は、米国に近づいただけではなく、アジア諸国の一員として、我々の住んでいるアジアをもっとよく知り、アジア発展の中心となるべき使命があるのではないか、と考える。そのような意味で、今回の海外研修は、将来を担う若者達の海外研修として十分意義のある場所だと思った。



研修旅行は、4泊5日と期間こそ短かったが、生徒達はいろいろな経験を通し様々なことを感じたと思う。その中でやはり一番印象深いことは、現地インターアクターとの交流であろう。生徒達は彼らの積極的な行動と明るさに好意を持ったはずだ。当初、生徒達は熱心に話し掛けてくる彼らに戸惑いを見せていた。しかし、数時間後には、楽しそうに話を交している姿が見られた。セントーサ島の見学・交歓会・老人ホーム訪問・市内観光と短い期間の中でかなりの長時間、現地インターアクターと行動を共にできたことはとても良かったと思う。真に国際交流を実践できたといえよう。又、彼らは多人数で我々を歓迎してくれたことにも感謝する。

もう一点、二日目に訪れた日本人墓地について触れたいと思う。街中をはずれて小高い丘を越えると、木立に囲まれた静かな環境の中に墓地はあった。きれいに管理されているという印象が強い。この墓地には、日本人女性がシンガポールの地で身売り、家族のためにお金を送った、所謂「唐行きさん」が眠っている。この遠い異郷の地でひっそりと亡くなったのだ。墓地の横に立看板があり、管理費として寄付を願っていた。それを読んだ生徒達が、日本へ帰り募金活動をしようと言いだした。現在、それを実行しようと計画中である。このように研修旅行から、ボランティア活動へと発展してくれたことは、とても喜ばしいことだと感じている。

この研修は、生徒達にとって忘れることのできない青春の一ページとなったはずだ。今後、研修旅行で体験し学んだことを生かして立派な国際人、社会奉仕者として活躍してくれることを期待する。最後に、このような機会を与えて下さったロータリーの先生方、又、中心となってお世話下さった幹事校の先生方に感謝致します。

「シンガポール海外研修を終えて」

大阪桐蔭高校I.A.C.顧問 河津浩司

インターアクトクラブの顧問を勤めて、5年目。海外研修は4回目である。

しかし今回は疲れた。決して日程が詰まっていたからではない。

桐蔭高校野球部の応援、3年生の担任、体調が悪かったことなどが重なり、個人的に非常に疲れた。しかし研修内容は、非常に良かった。楽しかった。現地インターアクターがあんなにたくさん集まってくれるとは思わなかった。また、生徒たちがあんなに楽しそうにインターアクターと話をし、時を過ごすとは、思わなかった。

国際理解、現地インターアクターとの交流、十二分に目的を果たした研修であった。

また今回の研修は、ビデオカメラマンの大役を仰せつかり、様々な表情をカメラを通じて見る事ができた。生徒一人一人の表情が、生き生きと輝いていたことが印象に残る。生徒たちとは違う意味での、意義ある海外研修が経験できたと思う。私自身大いに満足している。

過去に3回、ハワイの研修に参加させて頂いた。ホームステイ中心の内容で、生徒にとっては海外を肌で感じることでできる、意義ある内容であったと思う。確かにホームステイでは、家庭により歓迎のされ方も違い、不満を漏らす生徒もいた。しかしそれも日本と違う生活習慣であり、研修であると思う。

昨年、今年とアジアに目を向け実施された海外研修であり、現地アクターとの交流もあり内容の濃いものであった。インターアクトクラブとしての様々な規定もある。しかし、学校の顧問として、参加する生徒が少しでも海外を理解し、クラブ活動を活性化する内容ならば大いに歓迎したいと考える。ただし、今年の桐蔭高校では不十分であり大いに反省している点だが、生徒の参加意識を高めて研修に臨むのは、顧問の責務であると思う。

最後になりましたが、今回の研修の企画運営に携わった諸先生方に心からお礼を申し上げます、感想と致します。



「ホスト校を2年後に控えて」

大谷中・高等学校I. A. C. 顧問

藤原謙次

今回で3回目の海外研修、毎回つくづく思われるのが、日常ではついぞお目にかかれぬ生徒達のはつらつとした姿、言語・習慣の違いも何のその、目の輝きやその所作に至るまでの見事なまでの変身ぶり、そして帰国してからのそこはかとなく感じられる落ち着きなど、どれ一つを取ってみても、短期にこれ程教育的効果が上がる行事があるとは思えない。

しかし、しかしながらである。期待する教育的効果を上げるには、用意周到・綿密かつ入念な下準備や配慮がなされなければならない、この責任重大なホスト校としての係が2年後に弊校に回ってくることになっている。「生徒達の輝く瞳は絶やせない」となれば、元来粗忽者の私に自己改造が必要となる。そこで今回の研修旅行は、諸先輩の行動をスチールする絶好の機会として参加させて頂いたが、一つ一つの行動や配慮に只々感心するばかり、返ってその責任の重さを痛感させられることとなった。

特に今回の研修は現地のアクターと2日間で延べ11時間、それもアクター同士のグループ行動が大半となれば、計画の良し悪しがそのまま結果として現れる。深夜の帰国にもかかわらず現地のアクターが空港まで見送りに出向いてくれたことが、今回の実り多い成果を全て物語っていた様だ。

甘えは厳しく自戒せねばいけないが、今となっては各校先輩諸兄・R. C. の先生方にご指導とご援助をお願いするしか他はなく、この紙面をかりて重ねてお手助けをお願いする次第です。



「海外研修に参加して」

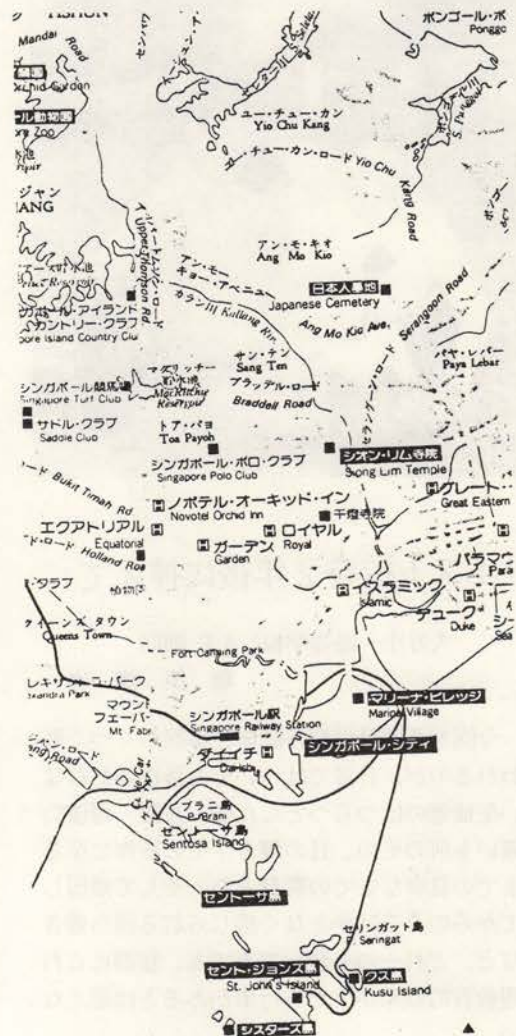
四天王寺学園I.A.C.顧問 澤田 玲子

今回初めて海外研修に参加し（私は初めての海外でした）、様々なことを感じました。個人的には生徒会顧問と重なり、ホスト校であるにもかかわらず、準備はほとんど田中先生におまかせすることとなり、これといった心構えもなく日本を離れる日を迎え、本当にうまくいけようかとあせる気持ちでいっぱいでした。また、英語教師でありながら、どれくらい話ができるだろうか、と考えてばかりでした。

しかし、今思うことは、それまでの気持ちはふっとんでしまうほどのもので、人間はやはりすばらしい面がいっぱいなんだということです。皆さんも感じていらっしゃることでしょうが、言葉は道具でしかない、何かを伝えたい時は、それを伝えようとする心、熱意があればいいのです。率直に言いまして、シンガポールのインターアクターとの交流の時間が多いことから、逆に討論会をはたして話ができるかと心配していました。しかし実際言葉を用いての話し合いというのはあまりできなかったにせよ、彼らの思いは、同じインターアクターという立場を通じて充分に感じられ、私たちの思いも伝わったことでしょう。互いに何かを伝え合う心があったからこそ、意思が伝わったのです。communicate は、日本語では「意思伝達をする」という意味です。私も改めてcommunicate は互いの心と積極性があればできるのだということを肌で感じることができ、当初持っていた恥ずかしさのほうが本当に恥ずかしいことだと思っています。

ほんの短い旅行でしたが、研修はまだ終わらず、今後生活していく面でも生かしていきはじめて自分自身の研修となるのだと感じています。

最後になりましたが、日本・シンガポールのロータリアン・インターアクター・顧問の先生方そして全ての皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。



「インターアクト海外研修に 参加して」

大阪住吉ロータリークラブ
飯原 弘 章

私にとって久しぶり4度目の訪問でしたが、この5年の間にシンガポールはまた大きく飛躍した様です。今回は、和田地区I.A.委員長のご指導のもと103名の大訪星団でしたが、予定のプランをスムーズに消化し、両地区I.A.C.の親善を深め互いに良き思い出を残したことと思います。

唯、残念であったのは全行程が曇り日続きで雷雨の日もあり、南国の太陽を満喫できなかったことと、アクトの諸君がもう少し訪問地の歴史や習慣・風俗を勉強しておけば、もっと違った面からも、この、本年建国26年の若い国、シンガポールを見ることが出来たのではないかと思います。

3310地区I.A.委員長Kenny・Ong (Tanglin R.C.)は、大変アクティブなロータリアンでした。

前年度の委員長Jeffrey・Po (Serangoon R.C.)と共に全行程に万全の用意を整えて両国インターアクトの自主性を尊重し、彼等同志の交流の時間を十分に持てる数々のプランをたててくれました。帰国前にKenny・Ong所属のタンゲリンR.C.を訪問しました。その際、下記のように早速クラブ会報に2660地区I.A.との交流の様子が報告されていました。

DISTRICT 3310

Rotary Club of Tanglin

Visit of Japanese delegation of
Interactors, Teacher
Advisors and Senior Rotarians

Here on a goodwill visit, visitors from a delegation of 103 members from Osaka, Japan are in Singapore for 4 days beginning 23 August 1991. This special delegation comprises 77 Interactors, 16 Teacher Advisors and 10 Senior Rotarians.

While in Singapore, they would like to exchange ideas with our local Interactors.

This visit should highlight to us and to the youth of Singapore the importance of community service and international understanding and give some focus to the activities of Interact, a worldwide organisation for youth.



「インターアクト 海外研修旅行雑感」

大阪阪南ロータリークラブ

阿部文彦

1991～1992年度のインターアクト海外研修は、シンガポールのインターアクターと交流し、相互の理解を深め、国際親善を主目的で計画された。

シンガポールのインターアクターとの交流は、セントーサ島で、小グループに分かれ、自由行動で半日過ごした。日本のインターアクターとシンガポールのインターアクターとは、直ぐに仲良くなり、楽しく有意義に過ごしたと思う。

そのことが、翌日のフォーラムでお互いがテーブルに分かれて歌を唱ったり、折り紙を折ったり、お互いに隠し芸を見せ合ったりと楽しく半日を過ごし、午後からは、老人ホームに慰問に行き、バスの中、老人ホームでの催しと非常に有意義な一日を過ごし、国際交流の一翼を担ったのではないかと思う。このことはインターアクターにとって将来、国際人としての芽を育まれたのではないだろうか。大変意義深い海外研修旅行であったと思う。

この旅行を計画し、実行段取りされた顧問の先生、ロータリーの委員の方に、改めてお礼を申し上げます。



「インターアクト海外研修の感想」

大東ロータリークラブ 松本雅晴

先ず、初めて、海外研修に参加したので、適切な感想文かどうか？

私が感ずる事は、インターアクトの顧問の先生方の献身的な努力で、インターアクターに御指導をして頂いている事、これこそ奉仕の精神で有るロータリー精神で教えて頂いている事と感心致しました。各インターアクトクラブの諸先生方の、此の努力なくしては、インターアクトの発展と今後の進歩は、有りえないと感じます。ともすれば、ロータリアンのお金を出して何々を奉仕したと考える人達より、先生方は非常に立派に見えました。ロータリーは、精神的及び実際の行動で奉仕する事の大切さを、もう一度原点に帰り、考える時ではないかと思えます。

又海外研修に関して思いますに、私見ですが、インターアクター及び今の学生(中高生)達に出来る限り海外の体験を中・長年に(6ヶ月～1年以内)出来る機会が多く成る事を望みます。それには、インターアクト、今の9クラブの中から毎年何名かの交換留学生が選出されると良いと思えます。



“Heart-to-Heart”

大阪阪南ロータリークラブ

越田英喜

帰路の機上で、同席した研修生が、「僕は英語が苦手です。しかしこの海外研修に参加して、自分が出発前に案じていたより交流出来たことに満足しています。heart-to-heartのコミュニケーションが出来てとても嬉しかった」と語ってくれました。

単語や文法の知識を増やすことは言語力を向上させ、異国の人や文化の理解に大いに役立つことは言うまでもありませんが、“好き”“うれしい”と言った感動的な体験は知識の量だけでは体得することは大変むづかしい事です。彼の場合も知識を超えて一足飛びに感動の世界に入り込めたようです。彼らは私などが思っている以上に感受性に優れ、柔軟なセンスがあるという事を再認識致しました。

このように今回の海外研修が成功裡に終わりましたのは、私の察しますところ、おもしろい冒険が巧みにカリキュラムに組み込まれていたことではないかと考えています。「セントーサ島での自由行動」「ホテルでの円卓会話」そして「市街ウォッチング」と変化に富んだトリプルな交流形態の演出があったことです。セントーサ島では言葉、文化の異なった研修生同志が初対面で交流し、美しい自然と素晴らしい遊戯施設のある環境で思う存分遊び、心の通う楽しい会話が出来た事でしょう。又ホテルでの小グループ別の円卓会話ではセントーサ島での共通の話題に話がはずみ、最後の市街ウォッチングでは観光スポットでは得られないシンガポールに内在する数々の問題点に出会い、貴重な体験をした事でしょう。今日の教育の現場に於いて、学習の効率化や指導管理が進む中で、この試みは実践による教育効果のあり方を示しており、極めて意義深いものと感心致しました。

最後になりましたが、今回の海外研修カリキュラムを企画され、指導・実行されました諸先生方の幅広い教育の実施に関して深く敬意を表したいと思います。又参加された研修

生がこの貴重な体験をテコにシンガポールとの交流を更に続けて生活、文化の深層に触れるところまで発展させられることを期待したいと思います。

「シンガポール海外研修に 随行して」

城南ロータリークラブ 岡部州雅

私は今回で3度目の随行である。1度目はハワイ、2度目は香港、そして今回のシンガポール。ハワイ研修では2泊3日の現地ホームステイが中心、香港では養老院、養護施設の訪問と現地インターアクターとの交流、各々大変意義深く感動した。

今回は大胆にも、セントーサ島にて1日中現地インターアクターとの交流、5～6名にての自由行動、翌日ホテルバンケットルームにてフォーラム、昼から養老院訪問、夕刻には、やはり5～6名のグループにての町での散歩と夕食、と言う自由行動。現地インターアクターと2日間の密なる交流と、その子供達だけの自由行動にはいささか不安があったものの和田委員長、田中先生の思い切った企画に感動、十分に国際理解と交流が行われたと思う。最終日、チャンギー空港には、現地インターアクターの見送り、エール交換と胸が熱くなるよき研修旅行であった。

最後に、和田委員長はじめ、たずさわられたロータリアン諸兄、顧問の先生ありがとうございました。



「別れを惜しむ 両国インターアクターに感動！」

大阪南西ロータリークラブ

乾 繁 夫

8月26日午後9時30分、4日間の日程もほぼ終え、チャンギ空港に着く。シンガポール最後の夕食のステーキとビールでお腹も満たし、いよいよ帰国かと幾分ほっとした気分になり出国の手荷物チェックに並んでいると、思いがけずシンガポールのインターアクターが大勢見送りにきてくれた。昨日別れたばかりなのに何年ぶりに再会したかのように歓声がとび、涙を出し抱き合い別れを惜んでいる両国のインターアクター。女生徒から貰った蘭の花を胸につけ肩を組み一緒にカメラにおさまる男子生徒。この光景を見ても今回の海外研修は成果があったと思う。国・人種・宗教を超えて、若者の純粋さ・素直さ・善意が、同じ地球上に住む同世代として共感し、短い2日間の交流でこれだけ大きく友情をはぐくむことができた。同行の立石氏の「17才に戻りたいよ」に同感しつつ若者のふれあいに感動しました。

わがインターアクターも各々の個性、校風をだしながら、明るくこだわりなく英会話に挑戦し、言葉を越えて心でふれあう様子は見ていて清々しかった。それにも増して、到着日の歓迎、2日間の交流、そして夜の見送りと新学期直前の貴重な4日間を心をこめて接遇してくれた3310地区シンガポールインターアクターの謙虚でいて伸びやかな態度、温かい心と素晴らしい笑顔に脱帽した。インターアクターの皆さんが、この友情を大きく育てる努力をしてくれることを期待したい。そして、この海外研修の体験をこれからの人生の糧とし、自己研鑽の刺激とし、今後も国際交流を深める意識が高められることと確信しています。

インターアクターを受け入れ、私達を善意と友情で迎えてくれたR. I. 3310地区のロータリアンに感謝するとともに、何よりも大阪空港の解団式まで気を張りつめ連日深夜まで打合せをし、生徒を引率指導してくだ

さった顧問の諸先生に心よりお礼申し上げます。とりわけ今回の海外研修のために周到な企画準備・下見・折衝を行い、現地でもお世話下さいました阪南R. C. の和田団長、四天王寺学園の田中先生はじめホストクラブの皆さま、ご苦労さまでした。熱意とあたたかいお心づかいに深く感謝申し上げます。

シンガポールは暑かったが参加者の心もあたたかかった。R. I. 第2660地区インターアクター海外研修に参加して大変有意義であったと喜んでいます。



肩を寄せ合って……



★PHOTO★

フォーラムで……



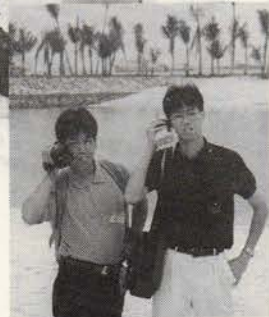
みんな踊った……



思い出に……



街で……



仕掛人ホット
一息……

★PHOTO★

Discover the Many Worlds of Sentosa



Botanic Gardens

WANDER through 32 hectares of landscaped parklands at this historic site where in 1877 Sir Henry Ridley propagated rubber plants. At the Orchid Enclosure, you'll find over 2,500 plants of different hybrids and species.

Route:
Ten-minute bus ride from station. Take service 7, or CSS2 opposite the station.

Chinatown

YOU'LL discover all kinds of traditional Chinese merchants, craftsmen and temples if you explore the maze of streets in Chinatown. Watch out for old riverside shrines, streetside calligraphers and idol carvers.

The Singapore Mass Rapid Transit System — An Introduction

located in most MRT stations and bus interchanges.

The minimum fare for single trip tickets is 60 cents and maximum fare is \$1.50.

Jurong Bird Park

THE 20 hectare Park houses more than 3,000 exotic birds in a beautifully landscaped park with a giant waterfall and a vast walk-in aviary. Innovative bird shows, featuring parrots and birds of prey are a feature of the park.

Route:
Alight at Boon Lay station and take service no. 251, 253 or 255 at Boon Lay Bus Interchange next to the station.

Arab Street

THE little streets in this area is the historic focal point of Muslim life in Singapore. Here you'll find the Sultan Mosque and rows of shops selling traditional specialities like batik, silk, scarves and basketware.

Route:
Ten-minute walk from Bugis station.

Merlion Park

STANDING guard at the mouth of the Singapore River, the 8-metre high Merlion sculpture (half lion, half fish) is the symbol of Singapore. The area near the sculpture is Merlion Park.

Route:
Alight either at City Hall or Raffles Place Interchange station. Then take a 5-minute walk towards Singapore River.

Crocodile Paradise

A new crocodile farm with a difference. Here is where you can see more than 2,500 crocodile landscaping freely in a magnificent landscaped setting, an amazing underwater view of crocodiles, and crocodiles wrestling with man.

Route:
Alight at Boon Lay station and then take service no. 251, 253 or 255 at Boon Lay Bus Interchange. The crocodile paradise is next to Jurong Bird Park.

Little India

AT Little India in Serangoon Road, you'll find shops specialising in saris, garlands, jewellery and sound equipments. Here you'll also see the famous Sri Veeramakaliaman and Sri Srinavasa temples.

Route:
Five-minute bus ride from Dhoby Ghaut station. Take service 23, 64, 65, 92, 106, 111, 118, 139 or 198 at the bus stop opposite the station, along Orchard Road.



SINGAPORE

1991~1992年度
国際ロータリー第2660地区

インターアクト年次大会報告

地球を考えよう
ただのケチと違うねん

日時 1991年10月27日(日) 9:30am開会

会場 四天王寺学園 和光館



ホストクラブ 四天王寺学園インターアクトクラブ

スポンサークラブ 大阪阪南ロータリークラブ

プログラム

1991～1992年度 ターゲット

地球を考えよう -ただのケチと違うねん-

日 時 1991年10月27日(日)

9:00 受付・登録

9:30 開会式

点鐘・開会宣言

国歌斉唱・I. A. C. の歌

ターゲット発表-地球を考えよう-

開会のことば

歓迎のことば

ガバナー挨拶

来賓紹介

(来賓並びに参加ロータリアン紹介)

参加クラブ・顧問団の紹介

来賓祝辞

祝電披露

前インターアクト地区委員長へ感謝状贈呈

10:30 クラブ活動報告-スライド紹介-

11:30 講演

12:10 ダンス部演技

12:30 昼食

抹茶接待(四天王寺高校茶道部) / ドッジボール(参加インターアクト) /
薬物乱用防止のビデオ上映

14:30 映画鑑賞 黒沢 明監督「八月の狂詩曲」

16:10 閉会式

講評

閉会宣言・点鐘

司会 四天王寺学園 I. A. C. 金沢 理恵

R. I. 第2660地区インターアクト代表 倉岡 真紀

ソングリーダー 四天王寺学園 I. A. C. 尾花 好美

ピアノ 四天王寺学園 I. A. C. 宮本 寿子

四天王寺学園 I. A. C. 永田伊都子

R. I. 第2660地区インターアクト委員長 和田 健

四天王寺中学・四天王寺高校校長 坂本 昭仁

大阪阪南ロータリークラブ会長 岡田 平一

四天王寺学園 I. A. C. 会長 大西 由美

R. I. 第2660地区ガバナー 菅生 浩三

大阪阪南ロータリークラブインターアクト委員長 阿部 文彦

R. I. 第2660地区 I. A. C. 顧問団代表 田中 真康

大阪市長 西尾 正也

R. I. 第2660地区ガバナーノミニー 山中 文和

R. I. 第2660地区青少年活動委員長 西 正中

四天王寺学園 I. A. C. 尾花 好美

前地区顧問団代表 本間 靖彦

各 I. A. C. 代表 9 校

西成警察署防犯課長 永田日出雄

四天王寺高校ダンス部

ラフディ

R. I. 第2660地区青少年担当バストガバナー 戸田 孝

四天王寺学園 I. A. C. 副会長 益岡 由佳

1991～1992 年度ターゲット

「地球を考えよう」 —ただのケチと違うねん—

四天王寺学園I.A.C. 永田 伊都子

「地球を考えよう」これが私達の選んだ今年度のターゲットです。

昨年度と同様、地球の環境保全にかかわるテーマですが、今年はとくにゴミの減量化を考えました。

地球環境の問題は、いろいろな角度から取り上げられており、それぞれに広く、根深くまだ社会人として立ち立っていない私たちインターアクターには、手の届かぬもののようにも思えるのですが、今日提起される環境問題は私達にも何かしなければの気持ちを起こさせます。

私たちは生産活動には全く関わっていないので、その方面のことは無力です。しかし、消費活動に関係の深いゴミの問題なら何らかの行動ができるはずです。

近年ゴミの減量化が叫ばれるもとは使い捨てによるゴミの増加があります。使い捨ては確かに便利です。私たちがより便利にと望んできたことが今日の問題を産んだとも言えるのではないのでしょうか。それならば、私たちが日頃なにげなく手に入れている便利さを見直してみることも問題解決へのアプローチとして必要なことではないのでしょうか。

そこで、私たちはこの年次大会をその機会とすることとしました。そしてゴミの出ない年次大会をしてみようと考えました。本大会のご案内で「昼食用にご自分の箸をお持ち下さい。」としましたのはこのためです。プログラムもできるだけ簡易なものにいたしました。昼食のお弁当も使い捨ての容器は止めました。この外にもいろいろとゴミを出さないためのアイデアを絞ったつもりです。細かいことをいろいろ取り上げたのでケチな大会とお考えの向きもあろうかと存じますが、私

ちの「ただのケチと違うねん」の心意気をお認めいただきたく存じます。このことによつてご来賓、参加者の皆様にご不自由をおかけすることのないよう努めたつもりですが、何分にも初めての試みなので考えが及ばずご迷惑をかけることがありましても環境問題に対する私たちのささやかな挑戦としてお許しただけですようお願い申し上げます。

次に、記念講演ですが警察の方をお願いして、日本の若者を蝕むシンナーについてお話いただくことに致しております。午後の部では、視聴覚室で薬物の乱用の弊害についてのビデオを映写致します。他人ごととしてでなく受け入れていただきたいと思います。私たち自身がゴミにならないために。



開会のことば

R. I. 第2660地区インターアクト委員会

委員長 和田 健

本日ここに国際ロータリー第2660地区インターアクト年次大会を開催致しましたところ大阪市より副理事の物部様、地区より菅生ガバナー・山中ノミニーはじめご来賓の皆様、地区内18RCのロータリアン多数のご参加をいただきました。ご多用中のところのご出席感謝に耐えません。

さて、本年度のインターアクト地区テーマは、地球環境の保全を考える「地球を考えよう」ですが、なかでもゴミに問題を絞ったことは、ターゲットの説明にあったところです。

今、地球の危機が言われていますが、実のところ危機にあるのは地球ではなく、人類なのだと言っている識者もあります。地球は、何億年の単位で自浄、再生するが、そのとき人類は滅んで、いないと言うのです。この説に立てば地球環境の保全は、人類のためにこそ必要なのです。本年度のゴミの問題は人類がゴミに埋もれて滅びないように今すぐにでも手を着けなければならない問題だと思います。



その解決には行政や企業と言った大きな力が必要でしょうが、私たちが微力でも何かしなければならぬのではないのでしょうか。本年度は各インターアクトクラブがこの問題を取り上げるようになっており、具体的な活動は、提唱R. C.と顧問の先生方に校風と地域に合ったご指導をお願い致しております。

本年度のテーマについて、各クラブがどのように活動したかは、年度末に予定している本年度総括のリーダーシップフォーラムで発表していただくよう計画しており、諸君の活発な活動を期待しています。

ご参加の皆様には本日さまざまな催しを準備致しておりますので終会の点鐘まで、お付き合い下さいますようお願い申し上げます。

ありがとうございました。



歓迎のことば

四天王寺中学・四天王寺高校 校長
坂本 昭 仁

おはようございます。

早朝からご苦労様でございます。

国際ロータリー第2660地区、インター
アクト年次大会のご盛會おめでとうございます。

この講堂は塔堂との調和の上から地下にありまして、いうなれば大地の胎内、お腹の中にあるわけですから、仏教でいう胎藏界として考えておられて、どんちょうの中央に大日如来、周囲に八観音を画き、胎藏界を示しております。

天井には諸仏諸菩薩が画かれておられて金剛界を現わしています。椅子に坐った人の姿が天井にうつって仏様とその人が一体となるように、つくられております。

聖徳太子は四天王寺を1400年前に建立になり外交にも力を注がれ、又一方で今言うところの教育事業、社会福祉事業をなさり、人々が和やかな心を持って安心して暮らすことが出来るようにと願われたのでありまして「社会奉仕と国際理解」を目的となさっていらっしゃるインターアクトクラブの心と相い通ずるものがあると思います。

私共の学校がお仲間に入れていただきましたのが、1983年でございまして、早いもので9年になります。

ありがたく存じております。



今、世界は大きく変わりつつあります。

このときにあたり更に「社会奉仕と国際理解」の輪を広げ、深めて頂き、ますます、ご発展されることを祈念し、歓迎のご挨拶いたします。

大阪阪南ロータリークラブ会長

岡田 平 一

皆様おはようございます。

雨の中足もとのお悪いところ、ようこそお越し下さいました。

本日、国際ロータリー第2660地区インターアクト年次大会が四天王寺学園インターアクトクラブをホストとして、日本文化の開祖、聖徳太子ご建立の四天王寺の聖地に立つ立派な講堂を会場として開催出来ますことは、スポンサーの大阪阪南R.C.として光栄に存じますと共に誠に心より厚くお礼申し上げます。

さて、本日は西尾市長代理物部氏のご来席を頂き、当地区から菅生ガバナーを初め、山中ガバナーノミニ、戸田パストガバナーの方々、及びロータリーの先輩、諸兄、多数の出席を賜り、その上にインターアクト会員の方々も多数出席いただき厚くお礼申し上げます。

そしてこの大会が有意義に実りのあるものとして盛會裡に終わります様、皆様方のお力添えをお願いいたします。

インターアクターは国際理解に貢献するよう努めると共に、他人に対する思いやりと、他人のために役立つこと、これが奉仕の心であります。



このあとに各インターアクトクラブ代表9校のクラブ活動報告の発表がございますが、皆様方が、今までに地域社会に奉仕のこころを押し進めて来られました、その立派な奉仕活動が身をもっての体験からして、自然に心の奥そこから、他人への思いやりの心が湧き出るようになれば、人々に奉仕をしようという心が芽ばえて来ると思います。どうかこれからもお互いに手をとりあって頑張ってください。

そして「地球を考えよう」のターゲットのテーマにまず自分の身の近くからということで本日はゴミを出さない試練の場でありまして、又これをいつまでも習慣づけるよう努力してゆかねばなりません。

そして、環境保全に向かって真剣に考えて下さる若いみなさんのおられることを希望します。

本日の大会がよい思い出になります様、お願いして、歓迎のことばと致します。

四天王寺学園I. A. C. 会長
大西由美

足元のお悪い中、本日は御来賓の方々の御臨席のもと、沢山のインターアクター、ロータリアン、並びにOB、保護者の御参加をいただき、まことにありがとうございます。ようこそ四天王寺学園へおこし下さいました。心より歓迎申し上げます。

さて、先ほどのターゲット説明で申しました通り、本年は「地球を考えよう」という名のもと、ゴミを出さない年次大会を試み、地球の明日をになう私達青少年をむしばむ薬物乱用の問題をとりあげてみました。今私達は消費生活の中にどっぷりとつかりきった毎日を送っています。この時代、このささやかな試みが、どれだけ効果があるかわかりませんが、誰かがどこかでこの試みを広げてくれるれば、やがては大きな波となってくれるものと信じています。

又、薬物乱用につきましても、現在全地球的な問題となっております昨今、他人事と思わず、今日の講演をよくお聴き頂き、認識を新たにして頂きたいと願っています。

四天王寺学園インターアクトクラブは本年度、ホスト校という大役をいただき、茶道部ダンス部の応援を得まして女子校ならではの年次大会にしたいと準備して参りましたが、何かと不手際が多く御不満な点もあろうかと思いますが、今日一日有意義に過ごしていただき、楽しい思い出の1ページとなればと願っています。



最後にこの年次大会を開催するにあたり、物心両面にわたり多大の御協力をいただきましたロータリアンの皆様に深く感謝申し上げ歓迎の言葉と致します。

ありがとうございました。

ガバナー挨拶

R. I. 第2660地区ガバナー
菅生 浩三

本日は1991～1992年度国際ロータリー第2660地区インターアクト年次大会のご開催、おめでとうございます。当地区の全ロータリアンを代表して、心からお慶び申し上げます。

皆様もよくご承知のように、ロータリーは、自分の仕事-職業を大切にすることから出発して、地域の社会や国際社会のために役立つことを考え、研究し、企画し、実行して行こうとしている職業人の集いであります。そして、私どもの後を歩いて来られる次代を担うあなた方のような若い人達を大切に、私どもの考え方や実行していることを理解してほしいと切望しております。皆さんには、先ずいずれ皆さんが携わることとなる職業というものの意味や価値を、あらかじめ正しく理解してほしいと思います。何故ならば、職業こそは、社会を形成する最も重要な要素だからです。さらに、自分の考え方を勉強して、正しい妥当な意見を持つように努力して下さい。家庭を大切に、他人を尊重して、思いやりの心をしっかりと養って下さい。そして社会に対する貢献と国際理解に思いを致し、現在の急激な変化とこれからの新しい社会に対応することができる立派な社会人として成長して下さいを祈ってやみません。

本日は「地球を考える」ことを主眼とし、「ゴミを出さない」身近なことに工夫をされた大会と承っております。どうか皆さん、各クラブの活動報告に、講演に、ビデオに、映画に、皆さん同志で、また顧問の先生方と共



に、そしてロータリアンの皆さんと共に、勉強に懇親に充実した一日を過ごして下さいをご期待申し上げます。私のご挨拶と致します。



来賓祝辞

大阪市長 西尾正也
代読

国際ロータリー第2660地区のインターアクト年次大会が、盛大に開催されましたことを、心からおよこび申し上げます。

皆様方のインターアクトクラブが、提唱ロータリークラブとともに、地域社会への奉仕と国際理解を深めることを目的として、数々の活動を繰り広げておられますことに、深く敬意を表します。

さて、去年は国際花と緑の博覧会が開催されましたが、皆様方には、花の万博会場において、清掃奉仕をしていただきました。このような皆様方の御協力によって、花の万博は成功裡に終了し、開催地元市として、深く感謝いたしております。また、中学、高校生という若い皆様方が奉仕活動を続けておられますことは、ふれあいとぬくもりのある人間主体のまちをめざしております大阪市にとりまして、誠に心強い限りであります。どうか、皆様方には、今後とも、地域社会の発展のために、御努力をいただきますよう期待申し上げます。

私どもは、花の万博の理念を継承して、花と緑の美しい水の都を築くとともに、二十一世紀に向けて、快適で魅力ある人間主体のまち、豊かな文化と活力に満ちた世界に貢献する大阪をめざして積極的に市政を進めてまいりますので、皆様方のいっそうのお力添えをお願い申し上げます。

国際ロータリー第2660地区のインターアクトクラブとロータリークラブのますますの御発展と、皆様方の御健勝、御多幸を心からお祈り申し上げます、お祝いのことばといたします。

R. I. 第2660地区ガバナーノミニー
山中文和

インターアクトクラブの年次大会おめでとうございます。

最も純粋な感受性の強いあなた方インターアクターの皆さんが、多くの友人と共に同じ目標を掲げて人のために尽くそうという行動は、非常に気高たいへん感動的な行動です。



そしてその感動を得て、将来すばらしい社会人となっていただきたい、と熱望している者のひとりです。現在の高校生活は、少しでも他人より成績が上り、少しでも良い大学へ進もうとする、ともすれば、まったく自己中心的で、時には孤独な生活の中に陥りがちだと思います。その中において、多くの友人たちと共に、明るく、そして積極的に他人へのお役に立とうというこの素晴らしい活動は、無関心で自己中心の生活をのみ続けた人とは、人間形成の上で大きな違い出てくることは確実です。もちろんあなた方は、学校や塾やそして家庭での勉強に追われて、まったく時間がないでしょう。なればこそ、僅かな時間をどのようにすれば世間様のお役に立つかということをお互いに勉強しあうのもインターアクトクラブの大きな目標のひとつです。ロータリークラブの奉仕は、決して自己を犠牲にして、多くのお金を使うことのみが奉仕ではありません。また、お互い仕事の大変忙しい中で、多くの時間を使って他人様のお役に立つという勤労奉仕のみでもありません。もっと洗練されたすばらしい奉仕の考え方に立っています。

かといって、そんなにむずかしいことではありません。ひとつ例をとってみましょう。電車のプラットフォームにゴミがちらかっています。誰もがそれを拾ってゴミ箱へ入れて、美しくする方が良いとは思いますが、さて自分でそんなことをするのは恥ずかしい、そこでロータリークラブの人達ばかり数人が集まり、清掃と言うタスキをかけて、みんなですればそんなに恥ずかしくはありません・・みんなで通れば怖くないのたとえの通りです。みんなで掃除をする日を決めて何度かしているうちに、今度はさりげなく自分で拾えるようになるものです。しかし、それとてロータリークラブの目的ではありません。何度かそうして掃除をしているうちに、自分がゴミを散らかさなくなり、全ての人がゴミをほらなければ、素晴らしいきれいなプラットフォームになるはずで、大きな時間も費やさず、大金をかけ他人を雇って掃除をしてもらうわけでもなく、ちょっとした心構えが素晴らしい奉仕になるのではないのでしょうか。自分のまわりを考えてみると、そのような奉仕の機会、それこそ枚挙にいとまがありません。元氣あふれるインターアクターの奉仕の場合は、どんなに時間がなくても、地域社会への勤労奉仕、そして海外の同世代の人たちと、素晴らしいおつき合いができる国際交流の活動に、奉仕の喜びを見いだすことも多いでしょう。しかし、奉仕の原点は、まったくロータリークラブの人達と同じだと思います。反面、我々ロータリークラブの人達もあなた方とは青少年対策の問題ではなく、むしろ若い人と共に考え、そして共に活動できる機会を持つことに大きな意味があるのです。そういう意味でインターアクトクラブは我々にとっても素晴らしいクラブなのです。

今日の年次大会の一日も、力をあわせて何か他人様に役立つ行為を見出そうとする、人間としての充足感、満足感があなた方アクターに無限の喜びと感動を与えることに違いありません。長年このインターアクトクラブの活動に大変なご理解と、暖かいご指導を頂いている顧問の先生方、提唱ロータリークラブのロータリアンの皆様方、なお、このように

きめ細かいご準備を頂いた四天王寺学園インターアクトクラブの皆様方に、心から厚くお礼申し上げます。世界92ヶ国に広がるこの素晴らしい“他人への思いやり”にむすばれた152,878人のインターアクターと共に肩を組んで、この活動がますます拡がり限りなく続くことを、心から念じ上げご挨拶に致します。

R. I. 第2660地区青少年活動委員長

西 正 中

ご紹介いただきました地区青少年活動委員会委員長の西でございます。

本日は年次大会の開催まことにおめでとうございます。またお招きにあずかり心から感謝申し上げます。



ロータリーの青少年奉仕活動

(1) インターアクトクラブ (I. A. C.)

9 クラブ (I. A. C. 委員会管轄)

(2) ローターアクトクラブ (R. A. C.)

19 クラブ (R. A. C. 委員会管轄)

18～30才の青年男女で、提唱ロータリークラブの区域境界内に居住か就職か在校している者を対象に、個々の能力の開発にあたって役立つ知識や技能を高め、それぞれの地域社会における社会的なニーズと取り組み、親睦と奉仕活動を通じて全世界の人々との間によりよい信頼関係を築こうとすること。

青少年活動委員会が管轄しますのは

(3)青少年指導者養成プログラム (ROTARY YOUTH LEADERSHIP AWARDS: R Y L A)

①R Y L Aの目的 青少年指導者として地域社会に奉仕している、すぐれた資質をもつ青少年に訓練をつませ、その素質を伸ばすこと。

リーダーシップを養成することが、そんなに簡単にできるわけではありませんけれども、2泊3日の体験がきっと何かを残してくれることと思います。これまでに参加した青少年たちは、かなりのインパクトを受けたようで、繰り返し参加する若者も少なくありません。

②R Y L Aの概要 年2回行われ、2泊3日を通例とします。財団法人大阪青少年活動振興協会のご協力を得て、5月に淡輪の大阪府立青少年海洋センターで海のR Y L A、9月に能勢の大阪府立総合青少年野外活動センターで山のR Y L Aを開催します。

10人前後のチームに分け、実技主体にチームワークの訓練と講義を聞きます。来年は5月2・3・4日(土・日・月)に海のライラ、9月12・13・14日(土・日・月)に山のライラを開催します。

(4)少年少女ニコニコキャンプ

小学校5・6年生を中心に、4年生と中学1年生を交えて2泊3日のキャンプをするものです。少年少女が友情と連帯や心の豊かさを養い、自然に対する畏敬の念を持ち、団結と協力の大切さと奉仕の精神を学ばせるのが目的です。

①団体生活でチームワークをすること。

②新しい友だちとの交流。

③自然とのふれあい。

以上3つを体験させようと毎年1回8月に開かれています。

子供たちを10人前後の班に分け、ローターアクター・インターアクターやライラ参加者がリーダーとなって、指導者としての研修を積む実習の場としての役割も担っています。

今年は8月10・11・12日に能勢の大阪府立総合青少年野外活動センターで開かれました。ここにもリーダーとして参加された方もおられると思いますが、言うことをなかなか聞かない子供たちにてこずったリーダーたちも、2泊3日を一緒に過ごしますと情が移って、帰るときには離れ難かったようです。

この頃は子供の数が少ないものですから、子供たちもちょっと大きめのお兄さん、お姉さんと一緒に遊んだりする機会がないからでしょうか、非常に喜んでいました。(ロータリアンではお父さん、あるいはおじいちゃんですから)

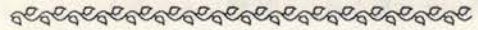
来年は8月1・2・3日(土・日・月)淡輪の大阪府立青少年海洋センターで開かれます。

詳しいご案内は時期がくれば各ロータリークラブへ送られます。ぜひご参加くださるようお願いを申し上げます。

私事に関して恐縮ですが、今日は白いネクタイをいたしております。これは大阪府立大手前高等学校の同窓会であります「金蘭会」の創設100周年の記念祝典が開催されるからです。

ご存じの金蘭会高等学校を設立いたしましたのは、金蘭会です。明治38年のことです。当時府下には高等女学校は公立では堂島高等女学校と清水谷高等女学校との2校のみで、私立は1校もありませんでした。入学の定員は2校合わせて200名に過ぎなかったのです。将来の国家社会のためには、より多くの女性に高等教育が必要という使命感と、自分たちが受けた教育への感謝の気持から、高等女学校の設立を企画したのです。(日露戦争の戦時下で大阪府は財政難で高等女学校の新設の余裕はありませんでした)私が金蘭会の総務理事になりました時は、設立に携わられた大先輩がまだおられました。赤ちゃんをおぶって募金をされたそうです。また音楽会やバザーを開いたり大変だったろうと思います。今と違って女性が活動するのは難しい時代でした。そのファイトと社会奉仕に対する情熱に心から敬意を表さずにはおれません。

金蘭会の名前の由来は、中国の古典「易経」にあります「二人同心其利断金 同心之言其臭如蘭」、いわゆる「金蘭の交り」の出典からとられたものです。みなさんもインターアクターとして、奉仕活動に共に汗を流されそして生涯「金蘭の交り」をされることを祈って、ご挨拶を終わらせていただきます。



祝電披露

大阪市長 西尾正也
1991～1992年度第2660地区インターアクト年次大会のご盛會を心からお慶び申し上げますとともにインターアクトの今後ますますのご発展と、皆様方のご健勝、ご活躍をお祈りいたします。

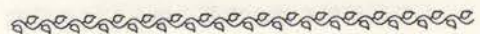
大阪阪南ロータリークラブ会長
岡田平一
国際ロータリー第2660地区インターアクト年次大会を祝し、ご盛會をお祈り申し上げます。

R. I. 第2640地区インターアクト委員長
楠公延
年次大会を祝し、ますますのご活躍をお祈りいたします。

R. I. 第2640地区インターアクト委員
加藤圭璋
年次大会のご盛會をお祝申し上げます。

清教学園インターアクトクラブ
R. I. 第2660地区インターアクト年次大会開催おめでとうございます。地域奉仕、国際奉仕に高校生らしい若々しい感覚をいかし、大いに活躍して下さい。

高野山高校インターアクトクラブ
年次大会を祝し、ご盛會を祈ります。



講演

青少年薬物非行の現状について

西成警察署 防犯課長 永田 日出雄

御紹介をいただきました西成警察署防犯課長の永田でございます。

皆様方には、平素警察行政に対する深い御理解をいただき何かとご支援、ご協力を賜っておりますことを厚くお礼を申し上げますとともに、インターアクト年次大会がこのように盛大に開催されましたことを心からお喜び申し上げます。

さて最近における少年非行は、数的にはやや減少傾向を示しているものの平成2年中に全国では182,000人余り、大阪では全国の約1割に当たる、19,000人余りの刑法犯少年を検挙補導しており、一昨年に続き2年連続して全国第1位となっています。更に刑法犯中に占める少年の割合が60パーセントを越え少年の非行者率でも全国第1位と厳しい状況が続いており本年度におきましても同様の状況で推移しているところであります。このような状況下において、享乐的で営利本位の社会風潮を背景といたしまして、カラオケボックスやポルノコミック誌など少年を非行へと誘う有害環境が次から次へと発生し又、シンナー乱用非行が増加をつづけておりそれが病みつきとなって常習化した揚句の果てに覚せい剤にまで発展する薬物非行の悪質化が懸念されるところであります。戦後における青少年の薬物非行の推移を見ますと、昭和30年代後半「ラルル」という言葉の流行までみましたハイミナル、ナロンなどの睡眠薬遊び、更に続いてヒッピー族、フーテン族の出現によってシンナーの吸引が不良青少年間で流行し、現在のシンナー非行へと推移したところでありまして、さらに恐ろしい覚せい剤から大麻、ヘロイン等の麻薬、LSDといった幻覚剤など多様化、潜在化、悪質化している習慣性薬物への波及が青少年の間に見られるようになり、青少年の健全育成に重大な影響を



及ぼす社会問題として、我々、子を持つ親の身近なところまで及んでいるところを是非ともご認識をいただきたいのであります。

警察といたしましても、薬物の取り締まり、シンナー非行への検挙補導に重大な決意をもって臨んでいるところでありまして、覚せい剤等薬物の検挙は毎年大阪府下で2000人余りを検挙し、うち青少年は一時200人余を占めたときもありましたが昨年は70人です。

深刻な状態となっております少年のシンナー非行は昨年5114人を検挙補導しております。

シンナー吸引の増加と平行し急性中毒や事故による死亡が過去10年間に、39人もあり昨年は5人の青少年が尊い命を落とすという不幸な状態を見えています。

シンナーの性質や毒性等について申し上げますと、ご案内の通りシンナーとは塗料、接着剤の溶剤として使用され非常に揮発性が強く市販されているもので約50種類に及び青少年は、工事現場や工場から窃取してきたり、又密売人から購入し吸引している実態であります。

吸入の方法は以前はビニール袋に入れて吸うという方法が一般的でしたが、最近はジュース缶の空き缶にチリ紙を入れ、これにシンナーを浸してその揮発ガスを吸う方法が流行

しております。これは街頭でジュース缶を歯でくわえて吸うことで大人に見つかってもジュースを飲んでいるようにしか見えずどこでも吸えるというところにあるようで常習化している子どもは歯がボロボロになっているのが特徴であります。

シンナーの毒性、つまり身体に対する影響について申し上げますと、一番恐ろしいことは、急性心不全といってシンナーの大量吸入による急性中毒死でありまして、さらに肝臓、肺、血液への影響により手足のしびれ、けいれん発作を起こしやすく、さらに物覚えが悪くなりぼんやりしてしまうこと又気が狂ってしまう、つまり幻覚や幻聴、妄想といった覚せい剤中毒と同様の精神症状が出て、一生精神科の先生にお世話にならないといけないところにあります。

このように身体に対する重大な影響を及ぼすシンナーでありますから、シンナーを吸入してボンヤリ、フラフラした状態で車を運転しての事故死やビルの屋上からの転落死、シンナーへの引火による焼死事故など、多数の死亡事故が発生している現況にあります。

1回ぐらいのシンナー遊びなら中毒にならないのではということですが、このように考える少年が非常に多く、1回乱用してしまうと何回となくやってみたくなるシンナー吸入の依存性は強く、回数が増えることによる薬物の耐性、つまり効果が薄れていくことによる多量の吸入へと進み、自分の意志ではやめようと思ってもやめられないといった状態は覚せい剤等習慣性薬物と全く変わらないところにその恐ろしさがあります。又、これに飽き足らず覚せい剤への移行へと進む事例が多いのであります。

次に覚せい剤等習慣性薬物の乱用実態につきまして説明いたしたいと思います。

国内における薬物乱用の主流は覚せい剤、隠語でシャブ、戦後ヒロポンと呼ばれて乱用された経過をもつ薬物であります。近年覚せい剤に加えて、マリファナ、ヘロイン、コカイン、幻覚剤といった多種多様の習慣性薬物の乱用が一般市民層、主婦、暴力団配下の少年、暴走族、無職少年等の青少年へと裾野

が広がり潜在化しております。

この種薬物乱用で1年間に検挙される者は全国で約20,000人、大阪で約2,000人にのぼっており特に最近の海外旅行ブームの中で現地で覚えた若者層が帰国後、「カッコイイ、イキな遊び」としてマリファナ、コカインを乱用するといった事例が見られ益々、薬物乱用の多様化、一般化と中毒者の増加による社会情勢の悪化が憂慮されているところであります。

ご存じの通り覚せい剤は、氷砂糖のような結晶の薬物で通常は水に溶かして注射使用し、マリファナはタバコの吸引と同様の方法を取り、コカインは白色粉末を鼻から吸いこみ粘膜吸引するといった方法で使用されます。

国内における薬物の密売は国際的密輸シンジケートと結託した暴力団が、その膨大な密売利益を得、資金源としてその密売を牛耳っているところであり中毒者を作るために触手を伸ばして様々な手段を尽くし誘いをかけております。

薬物乱用の拡散は日本だけの問題でなく世界各国が大きな社会問題、政治問題として取り組み、国連における麻薬条約、向精神薬条約の締結による国際的対応を図っているところではありますが、アメリカにおけるコカイン中毒の現況は密輸出国、コロンビアとのコカイン戦争とまで呼ばれる深刻な事態にまで発展し又、日本国内に密輸されている覚せい剤、大麻等は東南アジア、コカインはコロンビア及び周辺国から送り出されてきております。

外国における薬物汚染は国内における事態をはるかに越え、青少年におけるマリファナパーティ、コカインパーティの横行、タクシー運転手や観光ガイドによる密売、薬局における裏口密売など著しい汚染実態のようであります。

外国旅行の際には安易にこのような誘いに乗ったり、疑わしい薬物を購入したり又、国内に持ち帰ったりすることのないよう十分にお気を付けていただきたいと思います。

以上、青少年の薬物非行の現状についてご説明を申し上げましたが、21世紀を担う青少年を非行から守りその健全育成を図るため本

会のロータリアンの皆様方を初め、各種の団体、地域、学校等が一体となって、活発な活動が展開されているところでありますが、国内における薬物汚染は沈静化が予測される材料は何ら見られず、益々多様化、一般化がさらに進む様相を呈しております。

警察といたしましても徹底した検挙、補導に取り組んでおりますので今後ともよろしくご協力、ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

誠に要領を得ませんでお聞き苦しい点があったと思いますが、皆様の活動が益々発展されますよう祈念いたしまして終わりとさせていただきます。



クラブ活動報告 -スライド紹介-

I …… 大阪市立東高等学校

私たち大阪市立東高等学校インターアクトクラブは、1968年7月に、大阪ロータリークラブの提唱により発足し、23年間活動を続けてきました。

現在の会員数は31名ですが、本日は2年生が修学旅行中のため1年生ばかり16名が参加しております。

日常的な活動としては、東高校にいられている大阪市教育委員会・外国人英語指導助手の先生方と英語を通じて国際理解に努めています。

ここ数年間で、お世話になった講師の先生方は、アメリカ人、カナダ人、イギリス人、オーストラリア人と様々で、英語で話すとい

う緊張感はあるものの、とても楽しく有意義な体験をしています。

このように、単なる英会話の練習をするだけでなく、その国々の理解を深め、また、逆に日本文化の紹介として、お琴の弾き方を教えたり、書道を体験してもらったり、一緒に清掃奉仕をしながら、私たち自身も日本文化について学んでいます。

また、東高校には外国からのお客様も多く東南アジアからの教育視察団の先生方や、留学生との交流会などを開いたりしています。

また今年度の文化祭では、10年以上続いているユニセフグリーティングカードの販売や、私たちが持ち寄った品物を売ってチャリティバザーを行ったりして、売上げ金をユニセフに寄付しました。

また、昨年度に引き続き、大阪市の養護学校の生徒を文化祭に招待し、養護学校の生徒の作品を展示したり、交流会を開いたりしました。

以上で、活動報告を終わります。



II …… 清風学園

1991年1月7日、清風学園インターアクトクラブは、高津学園から「チビッコ風の子」を迎えて、留学生も交えて、ワイワイ、ガヤガヤ、賑やかに、餅つきやゲーム大会で始まりました。大谷学園、四天王寺学園のインターの皆さんの応援で、楽しく交流が出来た暖かい一日でした。

私達のクラブはE. S. S. が母体です。ここで、過去に行われたユニークな合宿の一つを紹介します。それは国際電話局から贈られたテキストと電話機を使って、国際電話のた

めの英会話の訓練でした。日ごろの学校英語とは少し違って、面白い勉強が出来ました。しかし、本当に外国から、英語で電話がかかってきたら、大変だと思いました。合宿2日目、Tシャツの贈呈式が有りました。また、「えべっさんと大阪」の講演を聞き、商業の街、大阪の歴史を勉強しました。

1990年は「国際花と緑の博覧会」私達も清掃奉仕とボランティアで、地区の行事に3回参加しました。また、花博をテーマに行われた浪速高校インターアクトクラブ主催の年次大会では、私達のクラブは、猛暑のなかで行われたガーデン・コンテストで1位を獲得しました。

そして、大会の趣旨を学校の緑化に受け継ぎました。寄贈された資材でベンチ、花壇ケースを造りました。コンクリートの学園では、今でも四季の花が、学校中に、ひときわ潤いを与えています。

話は少し戻りますが、高津学園のチビッコ達は本当に無邪気です。2年生が中心となりときおり、学園を訪れると、いつも、アクション大好きな子供友達が待っています。彼らのほほえましい「わんぱくぶり」を少しご覧にいられます。

別れぎわに、抱き着いてくるかわいい子供達がとても印象に残ります。

2学期早々、9月6日・7日の文化祭で、バザーと活動報告を行いました。応援に来て下さったアクターのお陰もあり、ラムネ約1,500本が売れました。また、1年生アクターが中心となり、フィリピン・ピナツボ火山の悲惨な現状を訴え、募金活動もしました。現地では1日に平均3名の児童が、助かるすべもなく命を落しているそうです。私達は彼らに学用品を贈りたいのです。

9月17日、大阪南ロータリークラブ主催の「青少年月間・フォーラム」でロータリアン、ローターアクトの方々とワイワイ、ガヤガヤ楽しくバスセッションを行いました。例会の中で、文化祭に集めた募金(総額)77,406円を大阪南ロータリークラブに託しました。たとえば、鉛筆一本でも彼らに贈る事が出来れば私達はうれしく思います。



また、被害をうけた老人達には、家庭で余っている「古い眼鏡」を集めて、贈りたいと思います。「めがねが命を救います」

2660地区のわれわれで集めてみようではありませんか？

1991年も今日の大会が終わると、クリスマス。しかし、最高の思い出は、やはり海外研修旅行です。日本人墓地で供養をしたり、老人ホームを慰問しました。

また、南国の太陽のもとで行われた、シンガポールのアクター達との交歓には言葉はいりません。ジェスチャーで充分でした。英国風のマナーで暖かく歓迎してくれた彼らと「英語で話せたらなあ」と痛感したのも事実です。国際理解は「友達づくり」から始まりました。笑顔とフレンドシップが駆け巡りました。

1975年11月22日の創設以来、さまざまな「目立たない奉仕活動」をしてまいりました清風学園インターアクトクラブは1992年に15周年を迎えることになりました。

これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

Ⅲ …… 大阪桐蔭高等学校

今から大阪桐蔭インターアクトクラブの活動報告を四つに分けて報告させていただきます。

先ず第一に二回行った清掃活動についてです。9月8日阪奈道路の清掃活動をしました。普段何気なく通学している道路もよく見ると本当にきたないからです。清掃したのは交差点付近だけなのに、ものすごいゴミの量になりました。燃えるゴミを集める班、あき缶を集める班、ビンを集める班などと、班ごとに清掃しました。その中でも特に目についたの

は、煙草の吸いながらあき缶でした。僕達が清掃活動している間も、煙草の吸いながら車の窓からポイ捨てる人もいました。各自が出したゴミは、自分で処理すればゴミは道路にはないわけです。また、ゴミをすてる人がいればひろう人がいる、ということを忘れていなければ、ゴミを道路にすてる人はいなくなると思います。そうすることが住み良い街づくりにつながるのではないかと思います。

次に今年も例年通り部員の親睦を深めるという目的のもとで、9月29日、生駒山クリーンハイキングを行いました。これは生駒山々頂にある野外活動センターまでの約一時間、清掃しながら歩いて登り、そしてその野外活動センターで昼ごはんを、みんなで楽しく自炊するというものです。山頂までゴミをひろいながら歩いていると、ハイキングコースであるのに、あっという間にゴミ袋がいっぱいになってしまいました。ゴミを一生懸命ひろいながら登ったため、みんなは汗だくになりました。そして入所式をすませた後、班にわかれて自炊しました。みんな不慣れなため、はたして昼ごはんがきちんと作れるかという心配でいっぱいでした。でもほとんどの班がきちんと昼ごはんを食べることができました。この機会を通して普段あまり接することのできない他学年の部員とも親睦が深まり、よかったと思います。

次は去年から年4回になって、活発になってきた例会の様態を報告します。例会に向けて僕たちは何度も話し合い、成功させようと準備を行ってきました。9月上旬に実施した例会では、海外研修に参加した者を中心に、アルバム作成班、募金活動班などを作り、ロータリアンの先生方にお伝えしたいとがんばりました。毎回10人を越える先生方が来られ僕たちの活動報告に耳を傾けて下さり、また貴重な卓話をしていただいています。特に印象に残った卓話を紹介しますと、「例え僕たちがゴミひろいをして、その後に煙草やジュースのゴミを出しては意味がない」というものでした。僕たちは、常日ごろから、インターアクターの自覚を持ち、行動しなければならぬのだと再認識しました。いつも

よき卓話をして下さる先生方に感謝すると同時に、僕たちの活動が有意義であることを感じ、うれしく思いました。また、活動報告では2～3名発表します。これはよき経験になるので、後輩もやってくれています。特に海外研修の報告では、ビデオを使い、アルバムも見ていただき、とても充実しました。僕たちの例会は、時間は限られているのですが、その分、内容の濃い例会を展開しつつけています。



次は親睦会についての報告です。新入生歓迎会として5月12日に平城宮跡で、清掃活動を行いました。あいにくの雨という悪天候の中、困難な作業となりました。あっという間にゴミ袋がいっぱいになりました。歴史的に有名である場所にもかかわらず、こんなにゴミが多いのかとおどろきました。清掃活動の後、親睦を深めるためボーリングに行きました。そこでは、普段はあまり話す機会もない他学年の部員と楽しく過ごすことができました。また、ロータリアンの先生方と本校のインターアクターとの親睦を深めるために、クリスマス会を行っています。このクリスマス会は、部員が楽しみにしている行事の一つです。毎年12月の下旬にあり、先輩、後輩は関係なく、テーブルに着き、おいしい料理を食べながらわいわいと楽しく過ごすひとときです。僕たちのクラブでは、このような親睦会を大切にしています。なぜなら、この行事が成功するかしないかは、それ以後の活動に大きく影響を及ぼすものだと思っているからです。

最後に、インターアクトクラブの活動の中で、最も心に残る海外研修について報告します。8月23日から27日までの5日間、シンガ

ポールに行きました。シンガポールでの思い出は「これだ！」という決定的なものではなく、シンガポールで体験したことすべてが、思い出となって脳裏に焼きついています。目的地まで乗ったバスの中での出来事や、現地のインターアクターとの出会い、セントーサ島での楽しかった時間、自分たちが宿泊したホテルでの出来事、とにかく全てが僕たちのいい思い出として心に残っています。現地のインターアクターとは今でも、電話や手紙でやり取りをしています。日本とシンガポールとの情報交換をしているのです。現地のインターアクターは年内に日本に来る予定なのでその日を待ちどおしく思っています。僕たちも、高校を卒業したら、シンガポールへもう一度行きたいと思っています。手紙の中には彼らの活動報告もありました。彼らはたいへん自発的に行動をおこしていて、「すごいなぁ」と感心させられることが多くあります。僕たちも負けられないように、もっと積極的にがんばっていこうという気持ちでいっぱいです。

僕たちは今、クラブという組織で活動していますが、クラブを引退しても、このような活動を通して今以上に、もっと世のため人のためになるような活動のできる人を目指して、生きていくことを、ここに約束します。

IV

大阪教育大学附属高等学校 平野校舎

大阪教育大学附属高校平野校舎インターアクトの活動について説明します。

私達は南西ロータリークラブの指導と援助のもとに、顧問3名と2年生18名、1年生5名の計23名の部員で活動しています。

インターアクトの夏の海外研修にも参加し、中国にも派遣された中野恭秀が部長です。5月にライラに参加して、指導者研修を受けた内山はる奈が副部長です。植田真由子が会計です。どうぞよろしくおねがいします。

私達の活動は、4月の新入部員勧誘から始まります。今年度の定例の活動日は金曜日ですが、主として、朝校舎周辺の清掃活動をしてきました。毎回の参加者は5～6人でしたの

で、これからはもう少し参加者を多くしたいと思っています。

今年から、空カンの回収運動も始めました。

部員にとって、一番の楽しみはやはり夏の海外研修です。6月・7月に色々準備をして8月23日から、本校から7名と先生2名がシンガポールの海外研修に参加しました。そして代表者が南西ロータリークラブの例会でその報告をしました。

私達の奉仕部門での活動は、主に募金活動です。今回は雲仙の火山爆発が大きな社会問題となっていましたので、7月17日と18日、校内で募金活動をしました。約15万円集まりNHKを通じて雲仙に送ってもらいました。

文化祭の日にも、インターアクトの活動として募金活動をしました。約17,000円が集まり、朝日新聞厚生文化事業団に寄付しました。

9月30日には南西ロータリー主催のフォーラムに参加し、ロータリーの人達に貴重な話を聞かせてもらいました。

12月にはクリスマス会にも招待していただけると聞いていますので楽しみにしています。

今後の活動としては、昨年度何度かフィリピン、タイ、オランダ等の留学生や先生に外国のことを話してもらいましたが、今年はまだそういう機会が一度もありませんので、留学生と話し合う機会を持ちたいと思っています。

11月には、オーストラリアの留学生と話し合う会が持てるかもしれません。

校舎周辺の清掃、空カンの回収は、金曜日続けるつもりです。

募金活動も、もう一度くらいやりたいと思っています。



附属養護学校のバザーには積極的に協力してきましたが、卒業式には、今年も花束を持って参加させてもらいたいと楽しみにしています。

以上で終わります。

V …… 浪速高等学校

僕達は年間を通じて次のような行事を中心に活動を行っています。

1. 学校花壇の製作と学校周辺への草苗の配布

僕達は、正面玄関のピロティにて花壇製作を行っています。

毎年、四季折々姿を変え来校者や生徒達の目を楽しませています。1回の製作には平均1週間くらいかかり、時には雨中での苗の植え付けを行う時もあり、全員ビショヌレになる事もありますが、たくさんの人々から好評を頂き苦労が吹っ飛びます。特に時計台を設置した花壇が好評で、男子校とは思えないメルヘンチックなムードが校内に漂っています。

その他、校内外のいろいろな場所にも花を植えています。また、余分な花苗は学校周辺の人々に配付し、花と緑の理解を深めていただいています。みなさん植物にとっても興味があるようで、つっこんだ質問に困ることもしばしばあります。周辺の人々に喜んでもらったのは勿論ですが、僕達も毎朝登校時にきれいな花が咲き乱れているのを見ると清々しくなります。

2. W. W. F. (世界自然保護基金) への募金活動

僕達はクラブ創立以来10年間にわたり、W. W. F. への募金に協力するとともに、この活動を絶えず訴え続けています。

W. W. F. とは世界自然保護基金のことで、世界最大の自然保護団体です。その目的は、自然保護と自然資源を保護し、その持続的な利用により人類と共存をはかる事です。近年、自然破壊に関することが、世界中で大きくクローズアップされ、今回の年次大会でも、資源保護という形でこの問



題に取り組むことは喜ばしい事で、僕達はこの問題に早くから取り組んできた事に対し、間違っていなかったと思います。W. W. F. への具体的な活動としては、文化祭でのバザーや、模擬店などでの利益を日本の本部に贈って募金の協力をしています。

3. 神社奉仕

我が校は、神道教育の一環として夏休み前や始めに神社奉仕を行っており、僕達も天神祭りをはじめ、大阪府下の多くの夏祭りに奉仕をしています。

4. 新入生歓迎会と浪速祭のバザー参加等

文化祭では僕達は模擬店を開き、その中でシンガポールの海外研修報告展示やW. W. F. の募金と訴えを行い、広くインターアクト活動のPRを行っています。

その他、新入生の歓迎会として今年はボーリング大会を行いました。お陰で一段と新入生ともうちとける事ができました。

また、体育祭でのクラブ行進では、人員確保が困難な文化部をしり目に多くの部員が堂々と行進を行い、インターアクトクラブここにありを表しました。

VI …… 金光八尾高等学校

金光八尾インターアクトクラブの今年度活動報告をさせていただきます。

本校は創立されて7年目という新しい学校です。近鉄「高安」駅から玉串川の桜並木添いに西へ約10分ほど歩いたところにあります。そして、私達のインターアクトクラブは、4年前の昭和62年に八尾ロータリークラブ提唱のもとに設立されました。今年行われた主な

活動は、大きく分けて夏期奉仕活動、障害者施設の訪問、事前研修を含む海外研修への参加、文化祭への取り組みの4つです。では順を追って紹介させていただきます。

本校では毎年、本校の建学の精神に基づき夏期奉仕活動を行っています。日頃からお世話になり、またご迷惑をおかけしている学校周辺の方々に感謝の気持ちをこめてインターアクトクラブ員が中心となり、1年生とともに学校の前を流れる玉串川、最寄りの近鉄「高安」駅までの通学路などを清掃奉仕するもので、本年度は7月22日～29日にかけて行われました。

私達は今年も例年どおり、サマーボランティアの一環として、ひばり障害者作業所を訪れました。この施設は昭和54年に最初の作業所として、ひばり授産所が開設したものです。そこでは、社会復帰を目指す障害者の方々が日々、目標に向かって努力されています。私達が、ボランティアとして参加させて頂いて感じたことは、それ以前に持っていた“暗い”というイメージとは反対に、障害者の人たちの仕事に対する熱心さと社会復帰を願う強い意志でした。

本校では海外研修に先立ち、より実りある研修となるよう事前研修を行いました。

1泊2日ということで、顧問の若林先生宅である金光教梅田教会にて行い、入所式にはじまり、顧問の先生方のご指導の基に学習をし、グループで調べた事を発表したり、自分達で夕食のパーベキューを作るなどし、また老人ホームの方々にプレゼントする折紙を折ったり、交歓会で発表する歌やふりつけの練習なども行いました。

事前研修を終え、不安と期待の入り交じった気持ちで迎えた海外研修は、私達にとって忘れる事ができない位よいものとなりました。他校のみなさんとも仲良くなり、現地での友達もたくさんできた研修は一生の思い出となることとおもいます。

今年の本校の文化祭は、9月27日・28日と行われました。本校において文化祭は、学校の人達に普段の活動を発表する唯一の場です。校内の1教室を使い展示とバザーを行いました。



た。展示はまず、インターアクトクラブの紹介、夏期奉仕活動、サマーボランティア、海外研修について発表しました。内容をくわしく書き、それに伴う写真はりました。バザーは、日頃、私達がボランティア活動をさせて頂いている大阪府八尾市にある、ひばり障害者作業所への寄付を目的とし、作業所の製品、クラブ員による自主製作作品とプラバンの販売を行いました。おかげさまで、作業所の製品14,660円、クラブ員による製品、16,260円、それと受付にもらった募金箱では19,546円と合計50,466円をひばり障害者作業所の方へ寄付させて頂くことが出来ました。

本校の例会は月に2回を基本とし、第2・第4土曜日に行われています。例会では主に今までのスライドで見て頂いたような様々な活動計画を立案したり、実施後はその報告を行っています。

本年度幹事校として年次大会をお世話して下さいました四天王寺学園高等学校、中学校の皆さん本当にありがとうございます。来年度私達、金光八尾インターアクトクラブは、四天王寺学園の皆さんのして下さいたことを手本に精一杯頑張っていきますのでよろしく願います。

以上で活動報告を終わります。ありがとうございました。

VII …… 大谷学園

こんにちは、大谷中高インターアクトクラブです。

私達大谷インターアクトクラブは1988年6月18日に、阿倍野ロータリークラブの提唱のもとで発足しました。

経験も技術も持たず、時間的にも制約がある私達に何ができるのか、そんなとまどいの中から私達の活動が始まりました。大阪市社会福祉協議会・ボランティア・ビューローに相談し、紹介された幾つもの施設へ足を運びました。そして現在、私達の活動は「平野特別養護老人ホームへの訪問」や「校区に住む独居老人の文化祭への招待」「大阪市社会福祉協議会主催のサマーボランティア体験学習への参加」「アベノ・ロータリークラブの先生方の奉仕活動のお手伝いをする事」これを四つの柱としています。

発足以来、継続してきた毎週土曜日の「平野特別養護老人ホーム」への訪問は、清掃を中心とした活動です。清掃以外に爪切り・着替え・眼鏡の洗浄・食事の手伝いもしています。3月には「おやつ会」を開き、皆さんの目の前でホットケーキやお好み焼きを作り出来たのものを食べていただき、9月の敬老の日には民謡のパフォーマンスを披露し、大変喜んでもらっています。またクリスマスに向け、1～2ヶ月かけて、手提げ鞆やティッシュカバーなど、手作りのプレゼントを製作しています。

現在最も力を入れているのは、思い出話や若者に向けてのメッセージなどをお聞きし、それを文集としてまとめることです。一人の方の原稿を仕上げるのに約1ヶ月かかりますので10人分程まとめて11月に第1号を発行する予定です。私達は今後も老人ホームの訪問を続け、コミュニケーションの充実をはかりより一層心の結び付きを深めたいと考えています。

私達の活動の2つめは、学校周辺の一人暮らしのお年寄りの方達を文化祭にお招きして半日を楽しく過ごしていただくことです。今年で3回目になりますが、毎回100名程の参加があり、茶道部・華道部・書道部の各展示や演劇部・箏曲部の公演が特に人気が高いようです。手作りワッペンやお茶券・昼食券・生活に役立つ小物をお渡ししています。校内で食べるカレーライスや丼なども好評です。私達の不慣れた案内にもかかわらず、孫のように接していただけるので、私達もとても感



謝しています。

3つめは、大阪市社会福祉協議会主催のサマーボランティアに参加することです。これは初日にボランティア活動の心構え等の講演があり、2日目・3日目は実際に施設で活動するという計画で行われています。今年は2日目の午前中にプレゼントの根付け人形の製作をおこない、午後からは夕食の宅配サービスを行っているボランティアさんに同行させていただきました。3日目は大正区鶴町の子供の家に行き、プール班とゲートボール班とに分かれて、子供達やお年寄りと一緒に遊びました。これに参加することは、独善的になりがちな私達の行動を見直す、大変良い機会になっています。

4つめは、ロータリーの先生方が参加されている、阿倍野区民フェスティバルでお手伝いをするものです。日用雑貨を中心としたバザーの販売で、先生方とご一緒させていただくことで、奉仕の精神を少しでも吸収しようと思っています。和やかな雰囲気の中で色々なアドバイスをいただき、参加するのが楽しみになっています。

以上が私達のクラブの主な活動状況ですが設立以来の会則である「継続は力なり」を合言葉として今後も精一杯頑張っていくつもりです。

VIII …… 明浄学院

私達明浄学院インターアクトは、平成元年7月22日に認証式を行い4月22日に結成式を行いました。所属ロータリーは、城南ロータリーです。部員は、3年生が10人、2年生が3人、1年生が10人です。活動は週に2回、

月曜日と金曜日です。このスライドは、私達の活動の一つとしてプルトップ分けをしている所です。プルトップ分けとは、缶ジュースのふたを集め、アルミと鉄とを分けて、アルミだけを取り出す作業です。ドラム缶1缶分集めると車いす1台作れるという地味な作業ですが、すでに数缶分送りました。

次は、今年の春に高津学園を訪問した時のスライドです。高津学園では乳児を除いた保護者のない児童、その他環境上養護を要する児童を入所させ、これを養護することを目的としています。方針としては、家庭に戻るチャンスを目指して幼児・学童ともに一時的に家庭の崩壊から高津学園に入所しています。従って実の両親と出来るだけ接触するチャンスを与え、夫々の家庭復帰を図り、保護者のない場合は里親に委託する事もある様です。又、保護者のない児童、養育を拒否した児童に対しては養子縁組、さらには養育里親に委託変更し家庭生活を送らせるための面接指導などを行っている様です。

私達が訪問した時、子供達は私達の顔を見るなり「お姉ちゃん！」と飛びついてきました。本当に子供達は元気で、園内の公園で走り回っており、最初は「危ないよ」と言っていたのについて自分を忘れ、気がつくと子供達と一緒に鬼ごっこやブランコ、ボール投げなど夢中になっていました。

次は、8月23日から8月27日まで、インターアクト海外研修に参加した時のスライドです。1日目、マーライオンをバックに1枚。この時私達は期待と不安でいっぱいでした。

2日目、日本人墓地です。日本人墓地では、私達インターアクトの代表者が読経し、お花やお線香をたむけ、この地にねむる人々に安らかにおねむり下さい、と念じました。

これはセントーサ島に行った時のスライドです。現地のインターアクターと初対面ということで、初めは皆緊張をしてどうなることかと不安でしたが、最後のゲームをした時はすっかり打ちとけ合いました。

3日目、午前中ホテルで現地のインターアクターと交流会をした時のスライドです。それぞれのテーブルでゲームをしたり、お互い



のことを話し合ったりしました。午後からは現地のインターアクターと一緒に老人ホームを訪問しました。そこで私達女子はゆかたに着替えて、盆踊りをひろうしました。そして折り紙をおばあさん達にくばった時、たいへんうれしそうな顔をされ喜んで下さった時とてもうれしく思いました。

4日目は、ジュロンバードパークやインド人街などを見学したり、買物などをして最後の日を過ごしました。そして空港で、現地のインターアクターと涙の別れをして、無事帰国してきました。

以上が私達の主な活動です。スライドにはありませんが、その他の活動としては、学校周辺や近くの公園など公共施設の清掃、老人ホームの訪問、又手話も習っており、夏にはキャンプにも参加しました。

これからは点字を習う計画をしており、社会奉仕のために、自分のためにがんばっていきたいと思います。

IX …… 四天王寺学園

私達四天王寺学園インターアクトクラブは大阪阪南ロータリークラブの提唱で、1983年3月に設立されました。

学校は大阪でも有名な四天王寺の境内に有り、お盆や春秋の彼岸には多くの人でにぎわいます。

活動としましては、週2回、学校の近く、特にバス停付近を掃除しています。20分位でゴミ袋が二つも三つもいっぱいになるぐらいで、いつもなぜ道路にゴミやカンを捨てるのか、大阪人のマナーの向上を願わずにはおれません。

そして、週1回、学校から歩いて10分位の所で、一心寺の下にある四恩学園を訪問し、子供達の遊び相手をしています。ここはいろいろな事情で親と一緒に生活することができない子供達が生活していて、私達が行くのを待っていてくれます。明るく朗らかな子供達ばかりで、人なつっこく、少々体は疲れますが、帰る時、「又来てね」と言う言葉を聞くと「ああ、来てよかったな」といつも思います。又、子供達が、学校へ持っていくタオルが不足していますので、全校生やロータリアンの先生方をお願いして、記念品や宣伝に使われるタオルを集めて持って行っています。

その他、盆と正月前に四天王寺の福祉施設である“たかわし老人ホーム”を訪問して、掃除をしたり、お年寄りとお話しをしたりします。いつも期末考査の最終日で疲れますが、これもお年寄りが待っていてくれるので励みになります。

ボランティア活動としましては、去年、花博で地区の掃除の他に精薄者施設の人達の手を引いて見学の手伝いをしました。私達よりうんと実年齢は上ですが一緒にお弁当など食べさせてあげながら涙の出る思いがしました。本当に考えさせられる意義のある一日でした。

夏と冬には世界身体障害者芸術家協会の作品を全校生に買ってもらいます。これはきちんとならば、クラブ活動資金として少しはもうかるはずですが、いつも会計が合わず、損ばかりしています。

その他、開発途上国の子供達の為に全校生から文房具や古着などを集めて送っています。これは品物よりも運賃の方が高つくのが悩みの種です。私達はもの余りでぜい沢なくらしをしています。まだまだ世界中には恵まれない子供達が多いです。これから寒さに向かう季節、少しでも暖かくして年をこしてほしいと願っています。

5月の連休には、毎年、淡輪の「海のライラ」にも参加します。ローターアクトの人達が中心で私達は子供扱いです。いろいろな楽しい行事があり、特にヨットやカッターに乗れたのはよい思い出です。



夏休みには顧問の先生のお寺で1泊どまりで「ゆかた会」をします。これは日頃お世話になっているロータリーや他校の先生、先輩達をお招きして親睦活動をしてインターアクト活動についていろいろ語っています。ゆかたに着替えてくつろぐのでこの名前がついたのです。花火やカラオケ等をしたり、一晩中おしゃべりしたりして、本当に楽しい集いです。

その前後には、ロータリアンの先生をお願いして社会見学があります。今年は阪南ロータリークラブの古田様の会社フルタセコイアチョコレートの工場を見学させていただきました。社員の方から、原料製造工程など説明いただき、帰りには、お菓子の詰め合わせをおみやげにいただいたりし、大変ハッピーな半日でした。

ハッピーな行事としましては、12月のロータリークラブのクリスマス家族会があります。毎年インターアクト数人が先生と共に招待していただき大変すばらしいひとときを過ごさせていただいています。最後にみんな手を結んで輪をつくりロータリーソングを歌うのがとても印象的です。

文化祭では活動報告や海外研修の写真を展示し、模擬店を出しスバゲティを売りました。毎年おいしいので大好評です。体育祭は3年に1度の大阪城ホールでありました。私達はクラブ対抗リレーに出て、バトンほうきにかえて一生懸命走りました。

来年はクラブ創立10周年を迎えますので、又、心を新たにして活動して行きたいと思っています。これで四天王寺学園の活動報告を終わります。

講 評

R. I. 第2660地区社会奉仕委員長 新 津 敬 直

本日はお招きにあずかりありがとうございます。まことにスムーズに進行し見事な演出でございました。

ホストクラブの四天王寺学園の皆様ご苦労様でした。

先程から活動報告を聞き若い方々の意欲に感動しました。

あるクラブでは老人ホームを訪問され、お話をしたり色々な用事をされたそうでお年寄達は本当に話しかけてもらうのを待っておられるのでさぞかし喜ばれたことでしょう。

私は老人ホームへ時々訪問するのですが、一日で一番楽しい食事であるはずの食堂で余りにも静かであったのに驚きました。

お年寄達は外部から訪問し話しかける人々を待っているのです。

またあるクラブでは恵まれない子供達の施設へ訪問し、お姉ちゃんと飛びついてきたという話を聞き、その通りだと思います。

是非これからも息長く活動を続けてください。

すこやかにみんなに好かれる人になってください。

今日の立派な年次大会をお祝いします。



R. I. 第2660地区青少年奉仕担当

バストガバナー 戸 田 孝

I. A. C. の年次大会おめでとうございます。この大会がすばらしい成果をあげ、無事終了することができたことは、多くの方々の心からなるご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。立派な会場をご提供賜りました四天王寺学園様、ご指導いただきました顧問先生、心から支援された大阪阪南R. C. の皆さん、和田委員長をはじめ地区委員の方々、そして若い青春の情熱を燃やして計画から実践までたいへんな努力をされた四天王寺I. A. C. の皆さんに深甚なる敬意を捧げたいと存じます。

一つの物事を成し遂げるのは、たいへんな労力と精緻な計画と行動への情熱を要します。とくにすべてボランティアで力を合わせて為すことは大変なことであります。それだけに高い価値があるのです。「みんなのために働いて代償を求めない」この尊い奉仕の活動は生涯、四天王寺I. A. C. の皆さんの心に残るものであると信じます。

各I. A. C. の活動報告には多くの貴重な奉仕活動がわかりやすく映像で説明され、地域の清掃活動、高齢者への暖かい心くばり、恵まれない子供達に、姉がわりの親愛の情を与えられた肢体不自由児への奉仕、国際交流等々のすばらしい実践を知ることができました。シンガポールでの海外研修は参加者によい体験と深い感動を与えることができたことも感深いものがありました。

四天王寺学園の皆さんによる若さあふれるダンスは宝塚歌劇とまごうほどに素晴らしいものであり、心のこもった茶道部のお点前とともに参加者に憩いを与えて下さいました。

黒澤明監督の「八月の狂詩曲」は私達に大きい感動と平和への意識を与えてくれました。ややもすれば、日本の平和と繁栄になれて忘れがちな私達の心への警鐘を感じました。

1945年8月9日、長崎に原爆をうけた時、私は皆さんと同じような年齢でありました。私の尊敬するドイツ語の教授、なつかしい友人、後輩が長崎でなくなりました。その時の悲しい思い出は脳裏に焼きついて生涯消える

ものではありません。

皆さんは原爆を体験しておられませんが、今日の映画を通して平和への願いを強く心にとめて頂きたいと思います。

画面は原爆のおそろしい爪跡と平和を象徴する赤いバラ。野バラの音楽との間に“戦争と平和”“地獄と天国”を表現し、私達に大きい示唆を与えていただきました。

私は25年前、元京都大学総長、平沢興バストガバナーから次のことを学びました。「若い頃に得心に刻みこまれた感動は、その人の将来の人間形成に大きい影響を与えるのです。だから多くの友人とあたたかい人間関係を育み、その友人から学び、先生に学び、人の為につくし、奉仕する生活の中から貴重な体験と感動を得ることが、すばらしい人生を歩むことに大切なことをよく知っていただきたい」私は今もそのことを忘れることはできません。

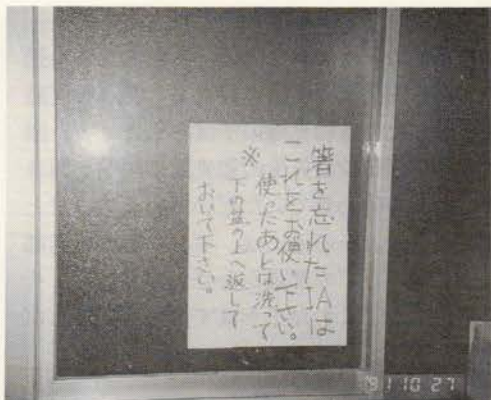
I. A. C. もそれを訓練するのに素晴らしいクラブであります。今回の年次大会を機会に多くの友人をI. A. C. の仲間に入れて「共に楽しみ、共に学び、共に奉仕する」を実践し、よき将来への足がかりとしていただきたいと存じます。

私はこの年次大会で若い皆さんから多くを学ぶことができましたことを心からお礼を申し上げます。“ありがとうございました”

ホールで……



食器も箸も再利用……



感想文

清風学園 石田 仁

ぼくは1年でその上最近入部したばかりなので、インターアクトの他校との催しは始めてでした。しかし高校生があれだけの準備をして実行するのは大変なものと思います。ぼくらのクラブは前日の土曜日、そちらへ手伝いに行き、そして見たのでわかりますが、準備は大体終わっていたようなのに、かなり忙しそうでした。それなのにあまり手伝えなくてももうしわけなく思っています。

さて、当日あいにくの雨の中始まりましたが、いろいろな用意や細かい指示などぼくらの学校のクラブではとてもそこまで気がまわらないな、と感心させられました。他のクラブの協力もうまくできていたと思います。会の進行上、ピアノのミスやスピーカーの調子が悪くなるなど少々アクシデントはありましたが、そんなにとりたてることもないと思います。会の進行もすばらしかったですが、ただ教室で昼食をとったのは少々食べづらかったと思います。あとは何もなかったと思うし、大成功だったと思います。

大役ご苦労様でした。

清風学園 岡 充

初めての年次大会なのでいろいろな事を思いながら四天王寺学園に行きました。まず最初に感じたのは和光館のすばらしさです。四天王寺学園の校長先生の和光館の説明を聞きすごい所を使わせていただいているのだなと感じました。その他には、ダンス部や茶道部などの他クラブの部員がわざわざ参加し、そして協力してくれたことはすばらしいことだと思えます。

また各クラブ活動報告では、我が校よりもすばらしいことをたくさん活動していることを聞き、我が校はもっといろいろなことを活動しなければいけない、と痛感しました。そして、黒澤明監督の「八月の狂詩曲」は、とてもすばらしかったです。

しかしこの大会の印象をすこし悪くしてしまったのは寝ていた生徒がちらほらいたことです。また、他校の生徒たちとの交流の場が少なかったのは少し残念に思います。別にこの年次大会という場でなくても、積極的に、他校やロータリアンなどとの交流の場を増やしていけばよいと思います。

年次大会は力を合わせてつくるべきです。だからホスト校に準備やあとかたづけをまかせっきりせず、もっと協力しに行くべきです。そうでないと、ホスト校はとても大変だと思います。特に今回のホスト校である四天王寺に一番近い我が校があまり手伝いをしなかったのは、あまりにも情けないと思います。

それにしても、四天王寺学園のインターアクトクラブは自分のクラブなどの特性を十二分に生かした年次大会ですばらしかったです。

清風学園 橘 高 智 幸

僕は正直いって高一なので年次大会というものが一体どんなものなのか全く知りませんでした。先輩からはドッジボールがあるというぐらいしか聞かされていませんでしたし、この“年次”と言う字が意味していることも全くわかりません。まあ一応行ってみればどんなものかわかるだろうと思っていました。

年次大会の前日、用意をしなければならぬと聞かされて四天王寺に行ってみました。僕はそんなに役に立ったとは思えません。しかし、一応仕事はしたような気がします。

当日、朝からの雨で、ドッジボールは中止だと思っていたら、やっぱりそうでした。ドッジボールのかわりに何かしていたようですが僕は友達と一緒に何かちがうことをしていたような気がします。まあ、どうでもいいことなんです。

ところで、四天王寺のダンス部の演技は実にすばらしかったと思います。あそこまでやるには、大変だったろうと思います。だけどダンス部だけでなくインターアクト部はもっと大変だったろうなあとつくづく思います。これも幹事校になったら避けられないことなのでしょう。もし、僕らが幹事校だったら同じようにがんばらねばならなかったでしょう。それを考えると身がひきしまる思いがします。

ところで、あの映画は今回の年次大会とどんな関連性があるのか正直いって僕にはわかりません。他の人はわかっているかも知れませんが、ただ全体的にみて、この年次大会というのがわかったような気がします。それに楽しかったです。



今年の年次大会をしている間、僕が終始思っていたことは、四天王寺高校インターアクターの大会運営のすばらしさだった。今年のターゲットである“地球を考えよう”ということについてみんなで考えなければならない大会ではあったが、次から次に飛び出してくる工夫にただただ感心するばかりであった。もしホスト校が清風にまわってきていたらと考えたとき、ちょっと自信を失ってしまったのも事実である。

しかし、ただ圧倒されていたばかりではなく、“地球を考えよう”というターゲットについていろいろと考えさせられたところがあった。それは、昼食時の箸を各自持参してきたことだった。このことは大変つまらないことのように思えるが“ただのケチと違うねん”というサブターゲットにもあるようにとても意味深いことである。つまりゴミを出さないことも重要であるが、そのことよりも年次大会の案内プリントをもらったときに「昼食用の箸を各自持参すること」という文章に目をとめ、その文章について考えることによって各自がどんな小さなことであってもゴミとしてはいけない。つまり“ただのケチと違うねん”ということを自覚することが最も重要なことではないかと思った。

また永田日出雄さんの麻薬についての講演については、今さら言うまでもなく麻薬に手を出すということは言語道断あってはならぬ行為だが人間いつなんどき魔がさすかわからないのでよりいっそう注意しなければならないと思った。

最後に、大会の後片付けをしようとしなくてさっさと帰ってしまった高校があったが我々インターアクターの基本である“奉仕精神”を忘れてしまったはこのようすばらしい大会をしても意味がなくなってしまうのではないかと思った。

今年の年次大会は“ただのケチと違うねん”のサブタイトルに僕は興味を持ちました。はしを持って来て、弁当箱も使い捨てではない。そのような小さなことが、絶対に僕達周辺だけではなく、この日本、この地球全体のためになるという点で、ケチではなく、これからの僕達の目標への第一歩である年次大会のタイトルとして合っているように思った。

活動報告の仕方も去年とはまったく異なり、なかなかおもしろいものとなったように思う。あのように、映像として目に訴えるものだと老人ホームでの楽しそうなおじいちゃん、おばあちゃん、孤児院での無邪気な子供達のために、もっといろいろ計画を立て、それを行動にうつして、いっしょに笑ったり、遊んだりしたいというような気を起こさせました。

昼食の間には僕はフルーツバスケットをしました。最初は、乗り気ではなかった僕も、一人のふざけた行為に、みんなの笑顔、笑い声が僕の気持ちを和ませ、それが続くうちに、男子校独特の気持ちというようなものでしょうか、隣に女の子が来ると緊張してしまい、顔を真っ赤にさせて遊んでいました。でも、僕はこれが本当の交流だ、文の上ではなく、型にはまっていなく、ただふざけ、笑い、拍手をおくるだけで、人々の心は通じるのだと思いはじめました。このことは、僕達が子供達に接する時と同じだと思った。

映画鑑賞の「八月の狂詩曲」は本当によかった。これはただ原子爆弾反対映画ではなく、もっと深く人間の中にある本当の理性は、最後のシーンのおばあちゃんのように、雨の中を昔の自分、昔の夫をさがしに四十数年の苦しみ、悲しみのためにはい上がり、愛する夫のもとへたどり着くために、時間も、次元も、常識もすべて超越することができるのだと言っているように思えた。そこに僕達の奉仕活動も、現実を見るのもよいが、視野をもっと広げ、もっと大きな理想を持ち、すべての人が生きる道のもとでもっと心を飛躍させ、奉仕活動を、人情を中心にして美しく形づく

ることが必要であると考えさせ、自分の心で無限に美しい人々の心を感じ、自分の耳で、無限の音を、美しき人々の調べをいろいろの音を聞かなければならないと四天王寺学園のみなさんは訴えているように思えました。

年に一度のインターアクト年次大会が10月27日に開かれました。今回の年次大会のターゲットは“地球を考えよう”ということでした。いろいろな試みがなされていました。例えば、昼食時には割箸を使わずに自分の箸をもってくるとか、お弁当も使い捨ての容器はやめたりしていました。いってしまえば、年次大会で僕達が割箸を使うのをやめたところで、現在あるさまざまな環境問題が解決するわけではない。しかし、このようなことを常日頃から僕たちが気をつけていれば、他の人にもそれが伝わり、いろいろな問題も解決してくるかもしれない、とそう思いました。今、地球を考えるということはゴミについてだけではないと思う。オゾン層の問題や地球の温暖化、その下で生きている人間たちの様々な苦悩、それらを全部ひっくるめて、僕たちは地球というものを考えなければいけないと思います。こんなに色々なこと自分たちの力では何もできない！そうやって何もしないのではなく、どんなに小さくても一歩踏み出すことで、新たな展開が見えてくるかもしれない。そのために僕たちは何かをせざるにられない。そう考えさせられる年次大会でした。

年次大会に参加するのは今年が初めてだったのですが、大変すばらしいものだったことに驚かされました。「地球を考えよう」というターゲットは、普段何気なく送っている毎日の生活を、もう一度見直そうとさせてくれました。ゴミの減量化の問題は、近年叫ばれておりますが、何よりも重要なのは、消費者達の、我々人類全体の自覚と、実行力であると思います。又、我々がこの地上にいる限り切り離すことのできない、ゴミの問題をはじめ、数々の地球環境の問題は、これらの解決が一朝一夕にはいかないことであり、我々全員が、一時的なブームとしてではなく真剣に考えなければいけないことであると思います。

講演で話されていた、シンナーの問題は、他人ごととしか考えていませんでしたが、実情を聴いて、他人ごとでは済まされない気がしました。薬物により自己を破壊へと導くことなど、許されていい筈もありませんし、道を誤った人には、一刻も早くもとの人間に戻れるように、手助けをしなければならないと思います。

今回の年次大会で、普段、日常の中に隠されている様々な事柄について、再認識できたような気がします。ともすれば、日常の影に隠れてしまいそうな、大切な事をずっと忘れずに毎日を送ればと思います。

最後になりましたが、年次大会を開催するにあたって、その裏で多大な苦勞をなさっていた四天王寺学園の皆さん、ご苦勞さまでした。

当日は、雨だったので、四天王寺高校まで行くのが面倒でした。しかも、僕ら各自に配られていたプリントには、8時半に集合となっていたので、皆、その時間に行くと、9時から受付で雨の中で少し待つはめになり、あまり気分よくなかった。開会式がはじまると準備の万全さに驚かされました。ホスト校がしっかりと行事を進めていくのを見て、僕は自分ならできなかつたかもしれないと思いました。クラブの活動報告では、みんな似たようなことを発表していたけれども、自分らが一番何もしていないような気がして、他校はえらいなと思いました。昼食の後では、雨のため、ドッジボールを中止して、部屋ごとでフルーツバスケットを行いました。それはそれで楽しめました。その後、再び講堂に戻り、映画鑑賞が行われました。僕は、日本の映画をほとんど見たことがなかったけれども黒澤明という名は、聞いたことがあったのでどんな作品に興味を持って見ていました。なかなかすばらしい作品でしたが、日本の大人をさげすぎだと思いました。

今年の年次大会は、僕は去年のは、出席していないのでよく分からないけれども、他校との交流が、ほとんどできなかったように思える。せっきく、一年に一度、9校が集まるのだから、もう少し何か工夫をして、みんな、することをふやした方がいいと思いました。



今年の年次大会は、僕にとって初めての体験だったのでどんなことがおこなわれ、どんなことが話し合われるのか実際ぜんぜんわかりませんでした。みんなに連れられていってみて、その雰囲気につれられてみてよかったです。今年のテーマである“地球を考えよう”については、いろいろな人の話を聞かされ、本当に考えねばならない問題だと思いました。僕は、今まで地球について考えたことなどまったくありませんでした。心の中で僕一人がそんなことを考えたって何もかわらないという気持ちがありました。また、そういうことを実際に行動する機会もありませんでした。しかし、年次大会に参加してきて、一人一人が考えることがまず大切なことなんだということがわかりました。また、箸持参ということについても、同じように“地球を考える”という大きなテーマへ向かう小さいけれども大切な一歩なのだと思います。年次大会というこのような機会を持ち、みんなが心に思っているけれども、勇気がなくてできないことをする機会をもつことは大切だなあと思いました。

今回初めて年次大会を体験した僕は、終始その雰囲気に圧倒されっぱなしでした。何もかもすべてが初めての体験だったのもありましたが、やはりその独特の雰囲気にひと味ちがたものがありました。それに、四天王寺高校のインターアクターの大会運営のすばらしさには驚きました。今年の“地球を考えよう”というターゲットには、微力ながらも地球を考えようという地球的規模の考えが感じられたし、昼食時の箸を各自で持ってきたり、弁当箱を使い捨ての容器じゃなかったりと、少しでも自分が“地球を考えよう”というターゲットに協力しているような気になりました。

昼食後、自分たちがたわいもない世間話をしている間も、弁当箱の後かたづけなどで忙しいように働いている四天王寺高校インターアクターの人たちには、さすがにホスト校だなどと感心させられました。もし、清風高校のインターアクトクラブがホスト校になった時にあれだけのことができるかなという不安が頭の中をよぎりました。また、いろいろな来賓のみなさんの講演はすごくよかったと思っし、これからは麻薬などについては、注意しなければならぬと思いました。最後に、大会の後片付けもしないでさっさと帰ってしまった人たちは、今回の大会の意味を理解していないなと思いました。

今年の年次大会に参加して、スライドによるクラブ活動報告、麻薬・覚せい剤等の薬物使用についての講演、映画鑑賞、また、女子校ならではのダンス部演技、抹茶接待などのバラエティに富んだ内容に充実した一日を送れた。

各学校の活動報告はスライドの利用により他校の活動内容がよくわかった。活動時間の限られている大阪桐蔭高校I.A.C.が、今後どのような活動をしていくかを考える参考として役立った。

西成警察署の永田氏による講演では、自分達があまり知らない麻薬・覚せい剤等について、多くの知識を得ることができた。中学生や一般の人達に、麻薬・覚せい剤による心身への弊害や恐ろしさを平素から理解させる必要がある。自分達は新聞の発行、壁新聞の製作などで、まず自分達の学校のみみんなに、薬物使用の恐ろしさを訴える必要があるのではないかと思った。

午後からは、ドッジボールをする予定であったが、あいにくの雨で中止となった。けれ

ども、その時間を利用して他校のインターアクターと話をすることができて、十分に交流を深められたと思う。その後、鑑賞した「八月の狂詩曲」という映画は、戦争とは昔の出来事であると思いがちな自分達にとって、「戦争とはいったいなんであるのか」と改めて学ぶよい機会であったと思う。

世界規模でとらえても問題点は沢山ある。又日本、いや我々の住んでいる身近な場所にも、様々な問題点は数多く存在するといえよう。他の学校の活動報告等を参考にして、我々は今後インターアクトクラブとして、ふさわしい活動を積極的に取り組んでいきたい。

大阪教育大学付属高等学校

山野優子・藤原美和

インターアクトの年次大会。1年生の私達にとっては初めての事で、どんなことをするのかとても期待していました。

開会式が始まり、来賓の方々の顔ぶれを拝見して、びっくりしました。軽い気持ちで席についていたのに、思わず緊張して座り直したぐらいです。

この年次大会で得たことは、多くありましたが、私達にとって興味をそそられたのは、やはり各学校I.A.C.の活動報告でした。日頃の各学校の奉仕活動の姿 — 老人ホーム・養護学校などへの多くの訪問、学校の花壇の様態変え、募金活動など — を見せていただき見習いたい点も数々あり、「私達も負けずにかんばろう」とこれからの活動に意欲がわいてきました。

今回の年次大会のテーマである“地球を考えよう”は日頃から、いろいろな所で言われていることですが、「そんなこと言われても私達には手も足も出ないわ」と思いがちでし

たが、ロータリーやガバナーやその他来賓の方々の話を聞かせていただくと、少しでも努力しようという気持ちにさせられました。また、警察の方の薬物中毒の話は、日頃聞く機会がないので、現況を聞いて、驚きました。心から、今シンナーを吸っている人は、やめたらいいのに…と思いました。

最後になりましたが、ホスト校である四天王寺学園の皆様へのホストぶりは、本当に素晴らしいものでした。ダンス部の素晴らしいダンスと笑顔、茶道部の快い対応等。帰りには見送って下さった皆様に心から笑顔で「ありがとうございました」と言うことができました。インターアクターのあり方を教え、励まして下さった方々、楽しく素晴らしい時を過ごさせて下さった皆様、本当にどうもありがとうございました。



前に我が校がホスト校になり年次大会を開いた時、私は中学1年生でした。当時はただ先輩の言う通りに行動しただけだったので余り大変だったという印象はなかったけれど、今回実際に運営にまわりその責任の重大さに気付いた。

「全員が参加できて親睦を深めることができるもの」ということで話し合い、案はたくさんでたのですが、時間や設備の都合上、思い通りにはいかず頭を悩ませました。結局ドッジボールに決定したのに雨で中止となりみんなに迷惑をかけたと思います。

年次大会の前は中間テストがあったり、高校2年生の修学旅行があったりと忙しかたにも関わらず部員全員が力を合わせ、他校のインターアクターの協力もあり無事に閉会式を済ませることができました。ロータリーの方々などから「お疲れ様」と声をかけて頂いた時、「今までインターアクトを続けてきて本当によかった」という実感と満足でいっぱいでした。高校生活の素晴らしい思い出になりました。

年次大会というのは年に一度各校が集まり活動を報告し情報を交換しあえる貴重な機会なのでこれからのホスト校の方にも工夫をこらして頑張ってもらいたいです。これによってクラブ全体が一層団結し、インターアクトの良さを知ることができました。

最後にこんなに素晴らしい機会を与え下さったロータリーの方々、私達を指導して下さいました顧問の先生方に深く感謝致します。



10月27日、日曜日、私達は四天王寺高校の和光館に向かいました。あいにくの空模様でしたが、着いてみるとそんなことも忘れてしまうようでした。準備等で何度かは訪れてはいたものの、いつ来ても驚かされるほど、すばらしい建物でした。

地区インターアクター代表の点鐘と共に、1991年～1992年度、インターアクトクラブ年次大会が始まりました。

ホスト校である四天王寺学園中学校、高等学校の方で計画して下さいた本大会は、“地球を考えよう～ただのケチと違うねん”というテーマのもとに開かれました。テーマを身をもって考えるために、ゴミの減量化を進んで行いました。一番ゴミとなる昼食の弁当箱の空箱、割り箸が出ないように、弁当箱は何度か使えるようにプラスチック容器、箸は各自もち寄るということになっていました。

年次大会といっても、開会式のように、きっちりするところはして、後は、他校との交流として、教室で遊んだり、お茶席に参加したりしました。

ロビーには、麻薬についての展示も行われていました。警察署の方のお話もあったし、映画もありましたが、あらためて麻薬の怖さを思いしらしました。

最後に黒澤明監督による「八月の狂詩曲」を見ました。初めて見たのですが、いつも心にひっかかっていることを、絵にして再確認させられたようでした。

私は、スライドの準備の為、前日にも四天王寺学園に行きましたが、他校の人も手伝って着実に進めているのが、良かったです。来年は、私達の学校が、ホスト校として、年次大会を企画する側に立つと思うと今から、気が遠くなりそうです。みなさんのやってこられたことを、汚すことのないよう努力しようと思いました。

“ただのケチと違うねん”というテーマで行われた今年の年次大会ですが、環境保全・資源保護の立場より、お弁当箱もお茶のコップもお箸も、使い捨てにしないで行われたことが、とても有意義に感じられました。

各校の活動報告の発表もスライドを利用して行われたので、どんな活動かがよく理解できました。また、今まで自分達で納得して行ってきた活動であっても、気付かなかった点や改善すべきところなども見付かり、自分達の未熟さを感じさせられました。これからも課題はたくさんありますが、一步一步着実に努力していきたいと思っています。

また、自分達とはほど遠い話と思っていたシンナーや覚醒剤の話をお聞きして、世の中にこれ程蔓延しているのかとびっくりしました。「自分に関係ない」と無関心を装うのではなく「自分にもしのびよる危険性がある」と考え、もっと真剣に取り組む必要があると思えました。

今後は便利さや快適さだけを求めた自分達の行動をみつめなおし、自然保護や資源保護につながるような行動をとっていきたいものです。

“八月の狂詩曲”を観て”

この作品によって考えさせられた事が、幾つかあります。その一つとして、戦争を知らない人や戦争に関心のない人々が確実に増えているということです。私はこのようなことを言っていますが、普段は全く戦争や平和について考えることはありません。考える時があるといえば、8月6、9日頃に新聞に書かれる反戦の文章を読んだ時ぐらいです。しかし、今回のように映画を一度観るだけでも、かなり戦争について考えさせてくれます。近頃のテレビは低俗なものが多いので、それらの一つ二つでも反戦番組に変われば、少しは

戦争に関心を持つ人が増えるのではないかと思います。

また、二つ目として、戦争は誰が悪いのかということです。作品の中で、おばあさんが誰も悪くはなくて戦争が悪いと言っていたが私はそうは思いません。やはり人間全員が悪いのだと思います。人間は大昔から戦争を繰り返しています。戦争をしては忘れ、また戦争をするということの繰り返しです。しかし、すべての人がいつも平和を求め、助け合いの気持ちを持つことができるなら、少々悪い芽が出て来ても社会から排除できるだろうと思いますが、これは大変難しいでしょう。なぜなら今までにこのようなことを考えた人はいくらでもいたと考えられるからです。それにもっとすばらしい考えや実用的な平和になるための方法を説いた人はいつの時代もいたはずで。しかし、いまだに世界は平和ではありません。だから私は戦争と平和は人間の永遠の問題だと思います。

ですから、私達は平和をあきらめず平和のために何かをしようという気持ちを持たなければいけないと思います。

年次大会を終えて――

四天王寺学園 永田伊都子

私は、今年の年次大会で、初めてホスト校の大変さを知りました。しんどいだろうな、とは思っていましたが、前日の準備の時点で遙かに予想を上回っていました。時間が刻一刻と過ぎていくにつれて、今日中に準備ができるのかと不安になり、最後はかなりあせっていました。漸く準備ができ、帰れると分かった時は、正直言ってとても嬉しかったです。今からしてみると、前日にあれだけ必死にみんな準備したのに、当日に、あれ程トラブルが生じたのには、驚きでしたし、ショックもかなりうけましたが、いい勉強になりました。この経験を大切に頭の中にしまっておきたいです。

—— 四天王寺学園 尾花好美

私は高校からインターアクトに入ったので、他校の年次大会は浪速高校に一度しか行ったことがありませんでした。その上、高2なので責任が重く緊張していました。

10月24日修学旅行から帰ってきて26日準備に行くと、他の学年の人が準備を少しはじめていてくれて、思っていたより楽でした。私はソングリーダーだったのですが、ロータリアンの方にも指導をしていただき、大変うれしく思いました。当日は目が回るほど忙しく、皆さんが楽しんでくれているのかもわからないほどだったのですが、後片付けを他校の人にも手伝っていただいたので、とても早く終わりました。

今回のターゲットは「地球を考えよう」でしたが、使いすての弁当箱でなくしたり、おはしを家からもってきたり、私たちのしたことはほんのささいなことでしたが、それによって皆でいろいろ考えて、行動できたらいいと思います。



—— 四天王寺学園 倉岡真紀

まずは、年次大会が無事終わり、そして私としては大成功だったと思うので、とてもうれしく思っています。私たち四天王寺高校は

この度、ホスト校でしたので、前々から色々準備をしており、本当に忙しい毎日でした。ある一つのことを成し遂げるのが、こんなにも（体力的にも精神的にも）しんどいとは思っていませんでした。が、成功した時の喜びは、言葉では言い表せないぐらい、うれしかったです。

私は、今回、開会の点鐘という大役をさずかり、とても緊張しましたが、実際、結構しっかり言えたように思います。この年次大会のことは、きっと永遠に忘れないと思います。インターアクトに入部して3年、最初は右も左もわからずに、ただ先輩の後について色々しているだけだったのが、今、こうして自分の手で年次大会を終わらせることができ、本当にうれしいです。とてもいい経験にもなりました。

これからもインターアクト部員としてがんばっていくつもりです。

—— 四天王寺学園 金沢理恵

私は今年の年次大会で司会という大役をいただき、まず台本づくりから始めました。前回に本校で年次大会を行った時の台本を参考にして、先生や友人の助けをかりてやっと前日にできあがりました。



そして当日、舞台装置がおかしくなったために、音がでなくなるというハプニングもありましたし、司会の方でも、二、三のミスはしましたが、無事に終えることができました。最後のあいさつがすんで、拍手がおこったとき、なんともいえないうれしさと充実感を感じました。中学1年生の時から5年間、いろいろな活動に参加した中で、楽しかったこともたくさんありましたが、やはり部員全員で準備してやりとげた今年の年次大会は特別な思いがあります。そして司会という貴重な体験をさせていただき、インターアクトに入っ
てよかったと思いました。

PHOTO・SNAP



PHOTO・SNAP



PHOTO・SNAP



PHOTO・SNAP



PHOTO・SNAP



PHOTO・SNAP



大阪市立東高等学校

インターアクトクラブ 1991~1992

Address : 〒534 大阪市都島区東野町4-15-14

Phone : 06-354-1251

Sponser Club : 大阪ロータリークラブ

Phone : 06-448-1121

Address : 〒530 大阪市北区中之島5-3-68 ロイヤルホテル内

Founded : 1968年7月16日

氏 名	役 職	〒	住 所	TEL
吉 本 晴 之	委 員 長	530	大阪市北区梅田1-9-20 (株)大阪マルビル内	06-346-0001
森 下 孝	副委員長	540	大阪市中央区森ノ宮中央2-7-5 (財)健康科学振興財団内	03-3505-5375
吉 川 秀 隆	”	542	大阪市中央区東心斎橋 2-1-1 タカラベルモント(株)内	06-211-2830
熊 平 雅 人	委 員	541	大阪市中央区久太郎町1-9-23 (株)大阪クマヒラ内	06-262-2221
立 野 純 三	”	550	大阪市西区南堀江2-13-22 (株)ユニオン内	06-532-3731
山 田 一 郎	”	540	大阪市中央区神崎町4-12 味覚糖(株)内	06-763-1802
横 井 悌 一 郎	”	540	大阪市中央区北浜東1-29 北浜ビル2号館 横井林業(株)内	06-946-0494
井 上 隆 志	顧 問	547	大阪市平野区平野上町 1-8-3-206	06-794-4075
大 西 敏 朗	”	530	大阪市北区山崎町5-5-801	06-361-1149
勇 士 幸 子	”	538	大阪市鶴見区鶴見3-13-32-811	06-913-3618
寛 座 純 一	”	631	奈良市学園大和町2-200-7 ダイヤハイツD-102	0742-43-2387

氏 名	役・学年	氏 名	役・学年	氏 名	役・学年
藤 澤 めぐみ	会長 2	池 川 こころ	3	鳥 居 真 琴	1
西 岡 真 弓	副会長 2	林 衣 江	2	嶋 憲 子	1
辻 本 洋 子	3	大 谷 和 子	2	望 月 澄	1
荒 木 裕 記	3	増 田 裕 美	2	坂 本 宗 隆	1
松 岡 利 枝	3	木 村 久 美	1	小 西 淳 一	1
常 峰 光 代	3	小宮山 純	1	高 司 美 香	1
有 銘 利 絵	3	藪 田 幸 一	1	中 川 恵 美 子	1
喜 多 素 子	3	東 本 都 貴	1	長 尾 洋 平	1
矢 野 涼 子	3	加 藤 し の ぶ	1	中 井 潤	1
松 元 有 希 子	3	田 邊 将 樹	1	守 倉 大 進	1

清 風 学 園

インターアクトクラブ 1991~1992

Address : 〒543 大阪市天王寺区石ヶ辻12-16

Phone : 06-771-5757

Sponser Club : 大阪南ロータリークラブ

Phone : 06-631-1262

Address : 〒542 大阪市中央区難波5-1-5

Founded : 1975年7月22日

氏 名	役 職	〒	住 所	TEL
元 木 純 邦	委 員 長	556	大阪市浪速区日本橋3-6-25 (株)日三家具内	06-633-2301
前 田 元 夫	副委員長	530	大阪市北区芝田2-3-7 (株)新大阪内	06-372-3281
小 林 三 鷹	顧 問	558	大阪市住吉区手塚山西4-13-38	06-673-6960
宮 崎 紀 元	"	631	奈良市学園中4-540-10-106	0742-43-8211
門 田 三 生 夫	"	573	枚方市楠葉野田1-18-17	0720-50-2758
神 谷 佳 郎	"	558	大阪市住吉区墨江2-5-7-305	06-671-3614

氏 名	役・学年	氏 名	役・学年	氏 名	役・学年
東 郷 輝 光	会長 2	森 内 豪	3	橘 高 智 幸	1
田 方 和 博	副会長 2	三 澄 勝 利	3	山 東 弘 明	1
平 野 智 志	幹事 2	広 原 成 行	3	石 田 仁	1
原 慎太郎	会計 2	和 田 昌 哉	3	金 崎 直 人	1
仲 眞 達 人	国際親善 2	岩 波 英 俊	3	秋 山 卓 弘	中 2
福 中 大 樹	国際理解 2	牧 野 拓 晃	3	呉 忠 弘	" 2
前 田 武 志	奉仕 2	前 田 英 明	3	後 藤 哲 司	" 2
高 橋 航	3	尾 垣 裕 司	1	久 下 耕 史	" 2
竹 沢 修 平	3	岡 充	1		

大阪桐蔭高等学校

インターアクトクラブ 1991~1992

Address : 〒574 大阪府大東市中垣内 3 - 1 - 1

Phone : 0720-75-3001(代) 内線5063・5074

Sponser Club : 大東ロータリークラブ

Phone : 0720-75-1200

Address : 〒574 大阪府大東市赤井 1 - 2 - 10

Founded : 1976年 6月 8日

氏 名	役 職	〒	住 所	TEL
松本雅晴	委員長	631	奈良市学園緑ヶ丘3-5049-14	0742-46-5464
河津浩司	顧問	538	大阪市鶴見区徳庵1-2-45-604	06-912-3735
仲谷浩一	"	567	茨木市玉島台1-13	0726-34-2829
斉藤明子	"	578	東大阪市西岩田3-5-29-414	06-787-0874

氏 名	役・学年	氏 名	役・学年	氏 名	役・学年
笠松昌司	会長 2	鈴木智也	3	橋本直樹	2
三谷健	副会長 2	龍見直樹	3	小林将大	2
奥山進史	会計 2	田中淳友	3	大本真志	2
前田道広	幹事 2	田中善之	3	柳谷篤寛	2
福本一仁	幹事 2	中野創	3	山谷清則	2
澄之庸	3	野上東徹	3	山本英一	1
和田真一	3	原伊佐雄	3	北所敦	1
中林剛一	3	山崎良	3	畠山紀章	1
織畠淳也	3	山田昇	3	松本顕治	1
谷口健一	3	結城康弘	3	南出高志	1
井本善友	3	岡野俊一郎	2	宮本貴幸	1
宇都宮英昭	3	岡崎秀亮	2	権正忠	1
長谷光展	3	片山善順	2	高間英則	1
大柿隆行	3	松本慎一郎	2	辻本智徳	1
川口哲男	3	福島壮博	2	松浦融合	1
川楠賢治	3	中野貴博	2	井沼秀章	1
菊山清児	3	吉田和晃	2	加藤衣津美	1
小畑竹司	3	南部頼孝	2	山田千尋	1
坂田剛	3	竹内総貴	2		

大阪教育大学教育学部附属高等学校平野校舎

インターアクトクラブ 1991~1992

Address : 〒547 大阪市平野区流町2-1-24

Phone : 06-707-5800

Sponser Club : 大阪南西ロータリークラブ

Phone : 06-631-1262

Address : 〒542 大阪市南区難波5-1-5 高島屋本社内

Founded : 1979年12月17日

氏 名	役 職	〒	住 所	TEL
葉 山 泰 弘	委 員 長	542	大阪市中央区久太郎町3-1-11	06-251-4672
岡 原 栄 造	副委員長	546	大阪市東住吉区西今川1-25-10	06-713-3755
加 来 裕 生	委 員	530	大阪市北区芝田2-8-11	06-372-6523
金 田 圭 利	顧 問	635	大和高田市西坊城146	0745-53-2112
白 木 成 治	"	547	大阪市平野区西脇3-1-31-504	06-705-2721
大 島 正 道	"	543	大阪市天王寺区眞法院町4-9	06-772-9382

氏 名	役・学年	氏 名	役・学年	氏 名	役・学年
中 野 恭 秀	会長 2	佐 藤 華 子	3	井 上 智 香 子	2
内 山 はる奈	副会長 2	宮 本 真 理 子	3	西 浦 香 保 里	2
森 山 泰 成	幹事 2	勝 田 陽 平	3	笠 野 智 代 実	2
植 田 真 由 子	会計 2	出 沢 明 子	2	倉 西 貴 子	2
三 木 義 仁	3	仲 野 美 紀	2	村 上 綾 子	2
藤 田 美 重 子	3	村 田 真 彦	2	中 谷 幸 子	2
荒 川 明 子	3	今 野 貴 史	2	山 崎 洋 平	1
中 尾 佳 世 子	3	中 本 優 子	2	川 村 愛	1
浜 口 佳 代	3	東 陽 子	2	山 野 優 子	1
大 久 保 由 紀	3	田 中 明 美	2	藤 原 美 和	1
山 崎 優 子	3	鳴 瀬 志 穂	2	箕 輪 周 一	1

浪速高等学校

インターアクトクラブ 1991~1992

Address : 〒558 大阪市住吉区山之内 2-18-57

Phone : 06-693-4031

Sponser Club : 大阪住吉ロータリークラブ

Phone : 06-624-1111

Address : 〒545 大阪市阿倍野区阿倍野筋 1-1-43 近鉄百貨店阿倍野店内

Founded : 1982年 4月 1日

氏 名	役 職	〒	住 所	TEL
中 村 昭 司	委 員 長	546	大阪市東住吉区鷹合1-10-11	06-692-0078
一ノ瀬 博	副委員長	584	富田林市南旭ヶ丘町18-9	0721-23-3872
中 澤 章 好	委 員	541	大阪市中央区高麗橋1-3-4 小池高麗橋ビル 6 F	06-231-0707
井 上 紀 人	”	545	大阪市阿倍野区阪南町4-2-17	06-624-3275
代 田 和 一	”	546	大阪市東住吉区東田辺2-7-11	06-692-2788
早 原 瑛	”	562	箕面市箕面3-8-13	0727-23-0917
奥 田 清	”	558	大阪市住吉区大領2-4-20	06-694-8392
蔵 田 作 治	”	558	大阪市住吉区南住吉 1-24-13-205	06-606-6321
入 江 茂	”	545	大阪市阿倍野区阪南町1-36-8	06-622-3030
中 谷 功	”	550	大阪市西区北堀江2-15-2-1001	06-534-0106
北 川 雅 詳	”	556	大阪市浪速区敷津東3-6-6 北川ビル 5 F	06-647-1166
増 田 淳 介	”	546	大阪市東住吉区中野1-6-14	06-703-2387
和 田 勝 明	顧 問	633	桜井市朝倉台西2-1000-95	07444-5-1397
春 田 義 幸	”	543	大阪市天王寺区北河堀町 7-16-6012	06-774-0188
本 間 靖 彦	”	636	奈良県生駒郡三郷町 美松ヶ丘西1-7-1	0745-73-3966

氏 名	役・学年	氏 名	役・学年	氏 名	役・学年
長 野 範 人	会長 3	村 口 英 彦	国際奉仕 1	小 林 秀 之	2
曾々木 良 尚	副会長 2	尾 郷 健 太郎	クラブ奉仕 1	越 智 貴 教	2
大 島 裕 介	幹事 2	小 林 俊 和	親睦 1	土 居 司 郎	1
勝 良 良 喜	会計 3	椿 和 人	3	藤 井 隆 志	1
岡 田 卓 也	書記 2	藤 本 久	3	白 方 修	1

金光八尾高等学校

インターアクトクラブ 1991~1992

Address : 〒581 大阪府八尾市柏村町1-63

Phone : 0729-22-9162

Sponser Club : 八尾ロータリークラブ

Phone : 0729-91-2129

Address : 〒581 大阪府八尾市本町2-2-8

Founded : 1987年9月19日

氏 名	役 職	〒	住 所	T E L
中 島 孝 夫	委 員 長	581	八尾市安中町2-1-47	0729-94-9141
大 槻 美 佐 夫	副 委 員 長	581	八尾市久宝園3-56-11	0729-99-1666
森 慶 太 郎	副 委 員 長	581	八尾市本町2-9-2	0729-23-1604
佐 藤 弘 之	顧 問	542	大阪市中央区瓦屋町1-14-12	06-767-1248
若 林 正 信	"	564	吹田市垂水町3-8-21	06-384-0231
千 葉 佳 永 子	"	580	松原市天美東6-14-8	0723-31-0342
中 林 眞 佐 男	"	589	大阪市狭山市池之原3-1007	0723-66-3704

氏 名	役・学年	氏 名	役・学年	氏 名	役・学年
三 浦 教 子	会 長 2	田 中 耕 介	2	中 村 正 則	1
藤 縄 文 子	副 会 長 2	浦 野 綾 子	2	原 辺 厚 吉	1
西 垣 知 美	幹 事 2	兼 田 奈 々	2	南 満	1
西 川 麗 子	書 記 2	川 村 美 登 里	2	小 西 幸 子	1
宮 下 恵 子	書 記 1	中 山 愛 子	2	高 田 充 規 子	1
山 下 久 美	書 記 1	南 真 美	2	寺 野 春 香	1
広 岡 由 希 子	国 際 委 員 長 2	石 田 一 洋	1	富 田 奈 穂 子	1
源 石 眞 美 子	第 1 奉 仕 委 員 長 2	黒 川 眞 輔	1	堀 井 路 予	1
津 田 麻 里 亜	第 2 奉 仕 委 員 長 2	佐 野 晋 也	1	的 場 世 里 子	1
応 矢 泰 紀	3	竹 内 眞 治	1	山 本 千 絵	1
岡 田 省 三	2	竹 束 仁 志	1	吉 田 皆 江	1
近 藤 清 志	2	徳 山 将 章	1	吉 村 加 季 代	1
高 田 昌 宏	2	中 村 敦 一	1		

大谷中・高等学校

インターアクトクラブ 1991~1992

Address : 〒545 大阪市阿倍野区共立通 2 - 8 - 4

Phone : 06-661-0385

Sponser Club : 大阪阿倍野ロータリークラブ

Phone : 06-647-8621

Address : 〒545 大阪市阿倍野区阿倍野筋 1 - 5 - 36

Founded : 1988年 6月18日

氏 名	役 職	〒	住 所	TEL
藤 田 誠一郎	委 員 長	543	大阪市天王寺区国分町 5 - 7 (株)藤田商会内	06-771-6213
得 田 栄 蔵	青少年理事	557	大阪市西成区松 3 - 7 - 12 大阪紙器(株)内	06-657-1111
藤 原 謙 次	顧 問	590-01	堺市原山台1-4-3-401	0722-99-1331
大 江 修	"	553	大阪市福島区吉野3-2-43-701	06-466-1128

氏 名	役・学年	氏 名	役・学年	氏 名	役・学年
喜 田 理 絵	会長 2	東 野 千 鶴	3	亀 井 葉 子	" 3
坂 口 知香子	副会長 1	竹 永 みゆき	3	岩 本 亜 弓	中 3
岡 野 光津子	幹事 2	大 浦 麻衣子	2	津 田 信 代	" 2
竹 野 文 江	会計 2	富 田 昌 子	2	貝 本 菜 穂	" 2
田 尻 博 巳	3	南 田 明 葉	2	青 山 純 代	" 2
九十九 真智子	3	南 原 幸 枝	1	武 部 由 香	" 2
河 村 有 望	3	塚 田 后 生	中 3	久 野 美 和	" 2

明浄学院高等学校

インターアクトクラブ 1991~1992

Address : 〒545 大阪市阿倍野区文の里3-15-34

Phone : 06-623-0016

Sponser Club : 大阪城南ロータリークラブ

Phone : 06-771-9009

Address : 〒543 大阪市天王寺区上本町6-1 近鉄百貨店10F

Founded : 1989年4月22日

氏 名	役 職	〒	住 所	TEL
畑 田 豊	委 員 長	537	大阪市東成区大今里南1-24-13	06-974-4444
久 保 公 人	副委員長	545	大阪市阿倍野区天王寺町北3-5-25-1105	06-719-1195
木 谷 晋 司	委 員	665	宝塚市山本台310-20	0797-88-9688
津 和 章 雅	”	661	堺市浜寺昭和町5-612	0722-63-3530
舟 坂 尚 臣	”	631	奈良市登美ヶ丘3-7-10	0742-43-6485
岡 部 州 雅	”	542	大阪市中央区谷町9-1-22	06-761-0874
山 川 義 昭	顧 問	591	堺市中もず町6-830	0722-59-0904
大 淵 勝 敬	”	587	大阪府南河内郡美原町 さつき野2-8-10	0723-62-0326

氏 名	役・学年	氏 名	役・学年	氏 名	役・学年
樽 居 幸 枝	会長 3	青 柳 悦 子	3	豊 島 彩 乃	1
上 田 亜以子	副会長 3	高 岸 太得子	2	中 井 妙 佳	1
中 嶋 友 子	会計 3	杉 村 和 子	2	安 田 貴 子	1
岩 井 規容子	3	沢 千 秋	2	木 場 文 子	1
森 島 泰 子	3	上 田 真規子	2	中 浦 君 子	1
石 塚 葉 子	3	家 村 良 子	2	水 本 真 澄	1
治 村 有 理	3	陸 岡 亜希子	1	辻 夕 子	1
田 中 智 美	3	平 床 直 美	1		

四 天 王 寺 学 園

インターアクトクラブ 1991~1992

Address : 〒543 大阪市天王寺区四天王寺町 1-11-73

Phone : 06-772-6201

Sponser Club : 大阪阪南ロータリークラブ

Phone : 06-772-5816

Address : 〒543 大阪市天王寺区悲田院町 8-11 (株)新和興産ビル302号室

Founded : 1983年 3月17日

氏 名	役 職	〒	住 所	TEL
阿 部 文 彦	委 員 長	546	大阪市東住吉区田辺 5-1-8	06-629-0878
新 井 貴 一	委 員	593	堺市上野芝向ヶ丘 4-1405	0722-78-0546
越 田 英 喜	"	545	大阪市阿倍野区阪南町3-11-3-5	06-624-0252
澤 田 玲 子	顧 問	588	堺市福田1100-57	0722-36-5239
田 中 真 康	"	558	大阪市住吉区住吉1-7-15東福寺	06-672-1706
岡 宏 治	"	543	大阪市天王寺区大道4-7-23-703	06-772-2820

氏 名	役・学年	氏 名	役・学年	氏 名	役・学年
倉 岡 真 紀	会長 2	大 杉 真由美	1	樋 上 雅 美	中 3
益 岡 由 佳	副会長 中3	川 上 敦 子	1	岩 本 知 子	" 3
永 田 伊都子	理事 2	松 本 佳 絵	1	垣 外 優 子	" 3
尾 花 好 美	" 2	山 野 る み	1	福 井 佳代子	中 2
金 沢 理 恵	幹事 2	羽 柴 菜津子	1	和 田 り え	" 2
大 西 由 美	3	砂 川 さおり	1	福 井 幸 枝	" 2
渡 辺 瑞 穂	2	松 本 佳 子	1	田 中 永見子	" 2
宮 本 寿 子	2	瀬 戸 里絵子	1	佐 伯 亜紀子	" 2
田 中 裕見子	2	松 下 佳 代	1	久 本 杏 子	中 1
吉 川 良 恵	2	松 井 直 子	1	長谷川 由 佳	" 1
満 谷 和 代	1	小 菅 彩 子	1	早 石 祥 子	" 1
今 井 志 保	1	村 井 淑 美	1	山 下 円	" 1
三 隅 由紀子	1	中 島 恵 美	1	伊 藤 さよ子	" 1
花 谷 佳子子	1	皆 見 直 子	1	平 井 希未子	" 1
和 久 亜矢子	1	平 井 恵理香	1	出 口 祥 江	" 1
三 谷 純 子	1	奥 田 英美子	1	高 橋 貴 子	" 1
田 中 智 子	1	南 優 子	中 3		

あ と が き

まずはみなさまのご協力により大した事故もなく、海外研修旅行、年次大会を終えました事に厚く御礼申し上げます。

海外研修旅行につきましては、以前より何かと批判もありましたところ、インターアクトでしかできない旅行をと計画をしました。セントーサ島とオーチャードの二つの試みは、ひとつ間違えば事件ともなりかねないものだけに、いろいろ起りうる悪い場面を想定すると眠れない夜もありました。観光旅行のそしりを受けようとも無難な方をととも考えましたが、両国のロータリアン、飯原先生のお嬢様、浪速高校のOBの米田君、各顧問の先生、そして何より両国のすばらしいインターアクターの御協力を得まして、無事成功裡に終えました事、感謝せずにはおれません。

年次大会につきましては、あいにくの雨の為、予定しておりましたドッチボールが中止となり、親睦の機会を少なくしてしまった事を申し訳なく思っております。春にでもなれば又機会を見つけて実施したいと思っております。

願わくばインターの諸君、この二つのイベントを通じて、ロータリーの君達に期待するものより多く理解し、かつ実践されん事を祈り、そしてお世話になった皆様にもう一度深くお礼を申し上げます、あとがきとします。

四天王寺学園 I. A. C. 顧問 田 中 真 康

発 行	R. I. 第2660地区 I. A. C.
ホスト校	四天王寺学園
編 集 者	和 田 健 (地区委員長)
	田 中 真 康 (四天王寺学園)
	岡 宏 治 (")
	澤 田 玲 子 (")
発 行 日	平成 4 年 1 月 30 日
印 刷	株式会社 山 岡

